

BladeSymphony

Virtage Navigator ユーザーズガイド

LPAR 設定編

Revision 2.10

HITACHI

重要なお知らせ

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転載、複写することは固くお断わりします。
- 本書の内容について、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤りなど、お気づきのことがありましたら、お買い求め先へご一報くださいますようお願いいたします。
- 本書に準じないで本製品を運用した結果については責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

登録商標・商標について

Adobe、Adobeのロゴは、Adobe Systems Incorporated (アドビ システムズ社) の米国ならびに他の国における登録商標または商標です。

Microsoft、Windows、Windows Server は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Pentium、Xeon は Intel Corporation の登録商標および商標です。

Java、JREおよびその他のJavaを含む商標は、米国 Sun Microsystems, Inc. の登録商標または商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

その他、本マニュアル中の製品名および会社名は、各社の登録商標または商標です。

版權について

このマニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。このマニュアルの内容の一部または全部を、無断で転載することは禁じられています。

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, Hitachi, Ltd.

BladeSymphony Virtage Navigator

本資料は、BladeSymphony Virtage Navigator V02-01 に対応している LPAR 設定編です。

目次

1 概要	3
2 適用条件	6
2.1 ファームウェア条件.....	6
2.2 HVM初期起動の適用条件.....	6
3 操作	7
3.1 HVM導入時の初期起動.....	7
3.1.1 シャーシの選択.....	10
3.1.2 パーティションの選択.....	12
3.1.3 HVMの設定.....	13
3.1.4 HVMの起動.....	14
3.1.5 HVMの登録.....	17
3.1.6 LPARの作成.....	18
3.1.7 LPARの開始.....	21
3.1.8 LPARの終了.....	25
3.2 LPARの追加(簡易).....	27
3.3 LPARの詳細設定.....	28
3.3.1 LPARの設定.....	29
3.3.1.1 LPARの追加	29
3.3.1.2 プロセッサ数の設定	33
3.3.1.3 メモリサイズの設定	35
3.3.1.4 共有NICの設定	37
3.3.1.5 共有FCポートの設定	40
3.3.1.6 USBの設定	43
3.3.1.7 HVM構成情報の保存	46
3.3.2 ブート設定.....	48
3.3.2.1 HBAブートドライバの設定	48
3.3.2.2 リモートコンソールアプリケーションへの接続	51
3.3.2.3 ブートデバイスの選択	60
3.3.2.4 ブートオーダーの変更	64
3.3.3 LPARの起動.....	66
3.3.4 OSのインストール.....	69
3.4 関連コンソール起動.....	71
3.4.1 関連コンソールを使えるようにするには	72
3.4.1.1 SVP IPの設定	72
3.4.1.2 BMC IPの設定	75

3.4.2 SVPシステムコンソール(Web)の起動	78
3.4.3 SVPシステムコンソール(Telnet)の起動	79
3.4.4 サーバブレードWebコンソールの起動	80
3.4.5 シリアル端末ベースのHVMスクリーンの起動	81
3.5 BIOSの設定	83
4 オプション機能	89
4.1 HVMスクリーンの簡単移動	89
4.1.1 メニュースクリーンへの移動	89
4.1.2 スクリーンの直接移動	91
4.1.3 スクリーンの巡回移動	92
4.2 SVP情報の登録と削除	93
4.2.1 SVP情報の登録	94
4.2.2 SVP情報の削除	98
5 注意事項	101
5.1 Initial Setupの注意事項	101
5.1.1 HVM構成情報をクリアした場合	101
5.1.2 HVM構成情報をリストアした場合	101
5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります	101
5.1.4 Initial SetupでHVMが起動しなかった場合	102
5.1.5 Code:20030506 が発生する場合	102
5.2 HVMコンソールの注意事項	103
5.2.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異	103
5.2.2 仮想COMコンソールが開かない場合	104
5.2.3 Code:30021335 が発生する場合	104
5.3 Related Consoleの注意事項	104
5.3.1 Code:20040003 が発生する場合	104
5.3.2 HVMスクリーンが開かない場合	105
5.4 IPアドレスを変更する場合の注意事項	105
5.4.1 HVM IPアドレスを変更する場合	106
5.4.2 BSM IPアドレスを変更する場合	106
5.4.3 HVM CLI IPアドレスを変更する場合	106
5.4.4 SVP IPアドレスを変更する場合	107
6 トラブルシュート	108
6.1 エラーコード一覧	108
7 障害時のデータ採取	108
8 アイコン一覧	109
9 変更来歴	111

1 概要

本マニュアルでは、Virtage の導入から運用に至るまでの LPAR 設定 (LPAR Configuration) について説明します。

(以後、Virtage のことを HVM (Hitachi Virtualization Manager) と表記することがあります)

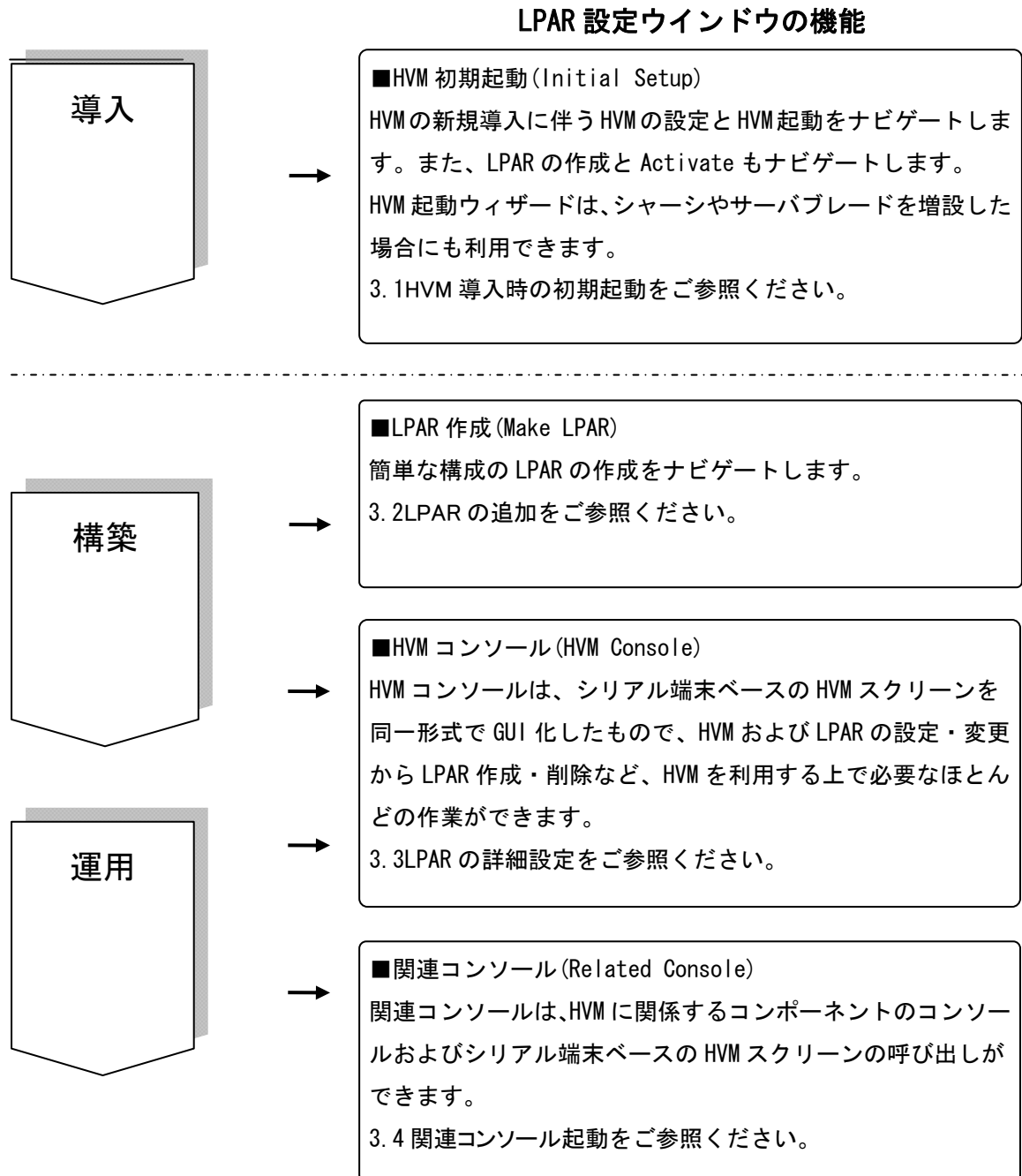


図 1-1 LPAR 設定の概要

以下、LPAR 設定の機能概要とサポートバージョンを示します。

表 1-1 HVM 初期起動のサポート機能 (Initial Setup)

機能	説明	サポートバージョン
電源 On	サーバブレードの電源を On にします。	V02-00
BIOS 設定	BIOS を設定します。	V02-01 (※1)
HVM 設定	HVM 構成情報の初期設定を行います。	V02-00
LPAR 設定	LPAR の追加ができます。	V02-00
LPAR 起動	LPAR を Activate できます。	V02-00
ブート設定	ゲスト OS のブート設定ができます。	V02-01 (※2)

※1: 下記条件を満たす場合は、自動で設定を変更します。下記条件を満たさない場合は、サーバブレードの BIOS セットアップツールで設定を変更します。

- ・ SVP バージョンが A1075 以降
- ・ BIOS バージョンが G16 以降
- ・ BS320 P5 ブレード
- ・ HVM のファームウェアバージョンが 17-6X 以降

※2: HVM コンソールで設定します。

表 1-2 LPAR 作成のサポート機能 (Make LPAR)

機能	説明	サポートバージョン
LPAR 作成	LPAR の追加ができます。	V02-00

表 1-3 HVM コンソールのサポート機能 (HVM Console)

No.	スクリーン名称	説明	サポートバージョン
1	Logical Partition Configuration	LPAR の名称やプロセッサ数、メモリ容量を設定できます。	V02-00
2	Logical Processor Configuration	LPAR のプロセッサの詳細設定ができます。	V02-00
3	Physical Processor Configuration	物理プロセッサの詳細設定状態表示ができます。	V02-00
4	PCI Device Information	PCI デバイスの情報を表示できます。	V02-00
5	PCI Device Assignment	LPAR の PCI デバイスの割当てができます。	V02-00
6	VNIC Assignment	LPAR の仮想 NIC の詳細割当てができます。	V02-00
7	Shared FC Assignment	LPAR の共有 HBA の詳細割当てができます。	V02-00
8	Allocated FC Information	HBA の情報を表示できます。	V02-00
9	System Configuration	HVM システムの構成設定ができます。	V02-00
10	System Service State	HVM システムのサービス状態を表示できます。	V02-00
11	Date and Time	HVM システム時刻や LPAR の時刻を設定できます。	未サポート
12	HVM Options	HVM のオプション機能を設定できます。	V02-00
13	LPAR Usage	CPU の使用率を表示できます。	未サポート (※1)
14	Front Panel	ゲストのダンプ採取やゲストシリアルコンソールのログ表示ができます。	未サポート
15	HVM System Logs	HVM 使用中に生成された HVM イベントログを表示できます。	V02-00
16	Firmware Version Information	各コンポーネントのファームウェアバージョンを表示できます。	V02-00
17	Boot Setting	ゲスト UEFI の設定ができます。	V02-01

※1:Virtage Navigator のモニタリング機能をご利用ください。

表 1-4 関連コンソールのサポート機能 (Related Console)

機能	説明	サポートバージョン
System Console (Web)	SVP のシステムコンソール (Web) を起動します。	V02-00
System Console (Telnet)	SVP のシステムコンソール (Telnet) を起動します。	V02-00
ServerBlade Console (Web)	サーバブレード Web コンソールを起動します。	V02-01
HVM Screen	シリアル端末ベースの HVM スクリーンを起動します。	V02-00

※V02-00 でサポートしている機種は、BS320 のみです。BS2000 は、いずれのコンソールも V02-01 でサポートしました。

2 適用条件

2.1 ファームウェア条件

LPAR 設定は、ファームウェアと連携する機能なので、以下のファームウェアバージョンを全て満たしている必要があります。

SVPバージョンA1065 と組み合わせてHVM初期起動(Initial Setup)を使用する際は、注意事項「5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります」をご参照ください。

なお、SVP バージョン A1070 以降の場合は、不要です。

表 2-1 LPAR 設定のファームウェア条件

ファームウェア	BS320	BS2000		BS2000fx	
		標準 サーバブレード	高性能 サーバブレード	標準 サーバブレード	高性能 サーバブレード
SVP	A1065 以降	—	—	—	—
HVM	17-6X 以降	58-6X 以降 ※1	78-6X 以降 ※1	58-6X 以降 ※1	78-6X 以降 ※1

—：指定なし(HVMをサポートしているバージョン)

※1：58-5X、78-5X をご使用の場合、本機能をサポートしていませんが、機能の動作抑止は行っておりません。ご注意ください。

2.2 HVM初期起動の適用条件

HVM 初期起動(Initial Setup)は、下記の操作の直後の HVM 起動では有効になりません。利用手順を注意事項に示してありますので、そちらを参照ください。

- ① HVM 構成情報のクリア
- ② HVM 構成情報のリストア

3 操作

3.1 HVM導入時の初期起動

サーバブレードで初めて HVM を起動するときに有効なのが、ウィザード型ウインドウの HVM 起動です。HVM 起動はいくつかのステップに分かれ、サーバブレードの電源 On から LPAR の Activate までをナビゲートします。

表 3-1 HVM 起動

No.	ステップ名称	ウィザードの概要	入力パラメータ
1	Start Initial Setup	初期設定の開始を示す画面	なし
2	Select Chassis	シャーシの選択	SVP IP アドレス SVP のログイン ID
3	Select Partition	サーバブレードの選択	サーバブレード番号
4	HVM Setting	HVM 構成の初期設定	HVM IP アドレス サブネットマスク Default Gateway VNIC System No. HVM ID CLI IP アドレス
5	Settings & Power ON	サーバブレードの電源 On	なし
6	Wait for HVM Ready	HVM が Ready 状態になるまでを監視	なし
7	Regist to Profile	HVM Profile への登録	なし
8	Make LPAR	LPAR の作成	LPAR 数 LPAR のプロセッサ数 LPAR のメモリ LPAR の NIC カード数 LPAR の HBA カード数 他
9	LPAR Operation	LPAR の Activate	LPAR 番号

(1) LPAR Configuration メニューの画面右の Initial Setup ボタンをクリックします。

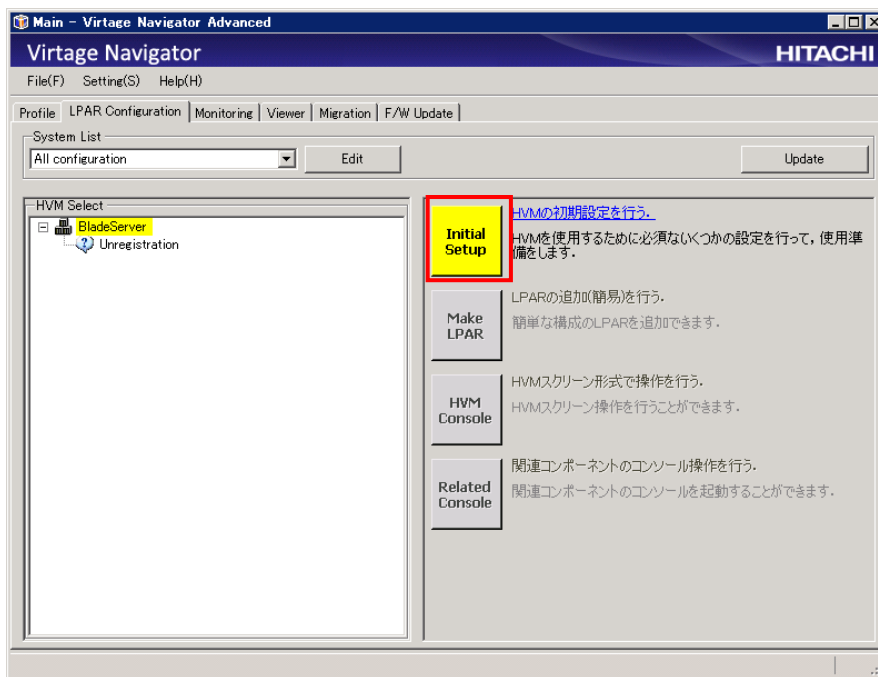


図 3-1 Main ウィンドウ (Initial Setup の開始)

Initial Setup of HVM ウィンドウが表示されます。

画面左には、Initial Setup の全体ステップ、画面中央の上部には、設定ステップ名称と設定ステップの概要が表示されます。

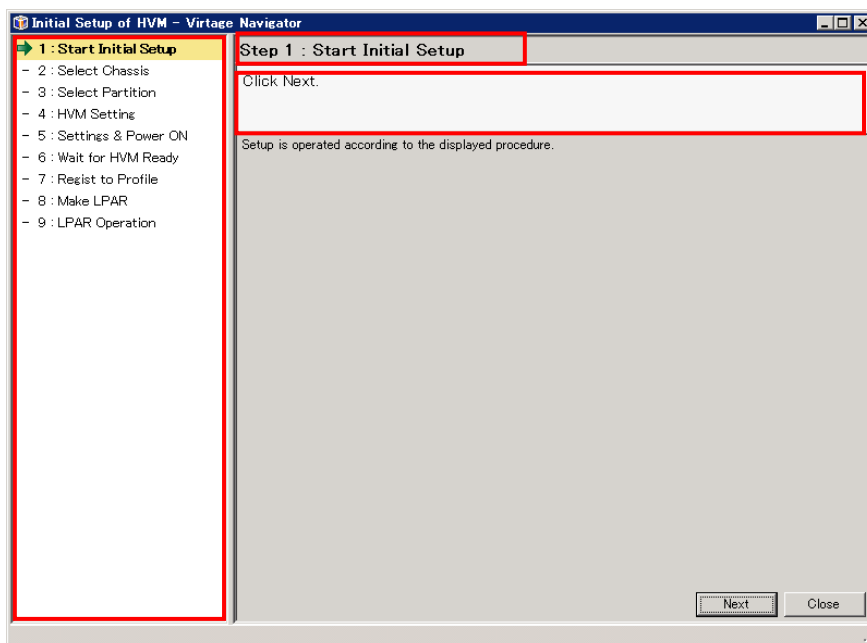


図 3-2 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 表示)

(2) Next ボタンをクリックします。

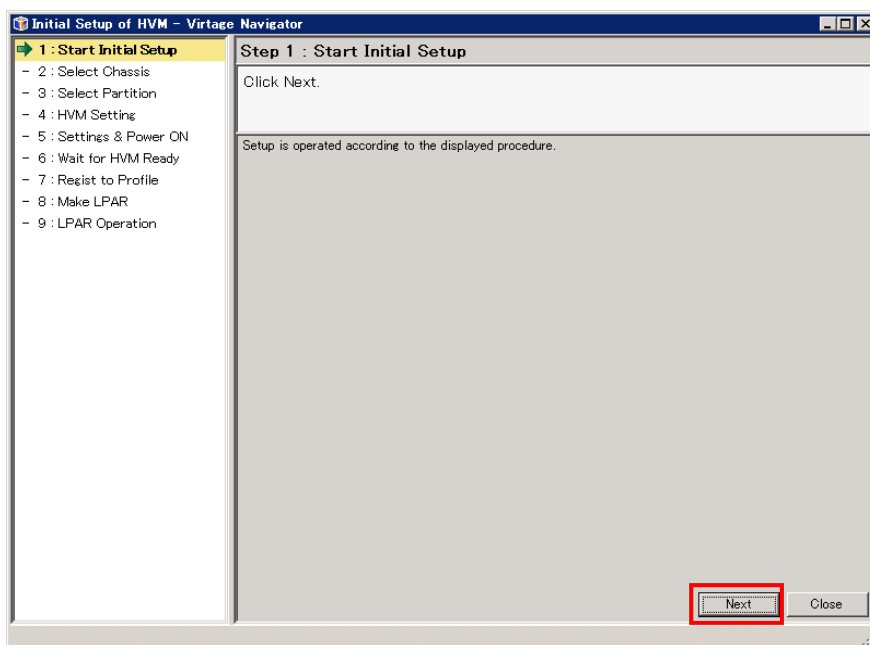


図 3-3 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 終了)

シャーン選択画面が表示されます。

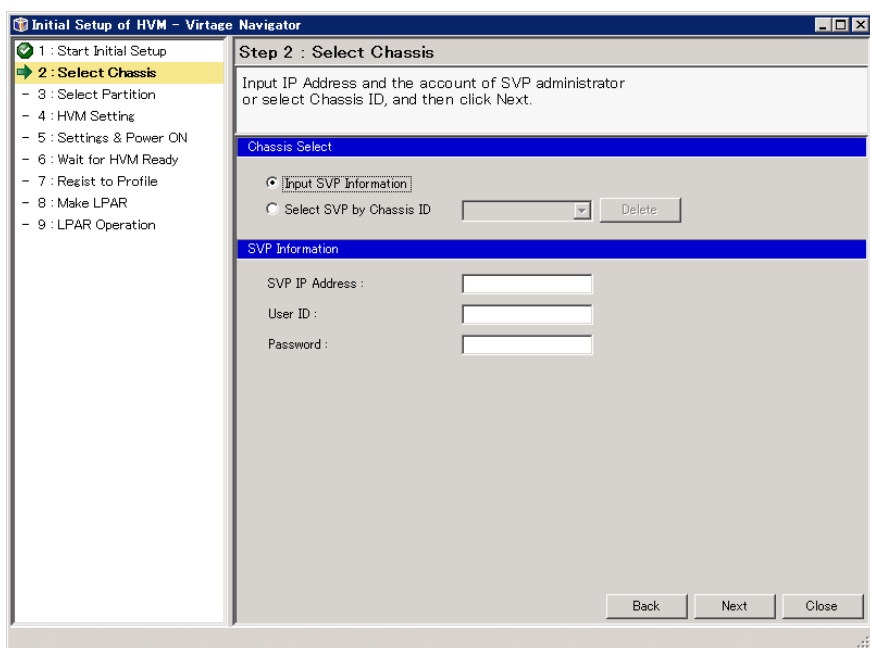


図 3-4 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 開始)

3.1.1 シャーシの選択

- (1) シャーシに対応付けられている SVP IP アドレスと管理者権限の SVP ログイン ID(ユーザ ID とパスワード)を入力し、Next ボタンをクリックします。

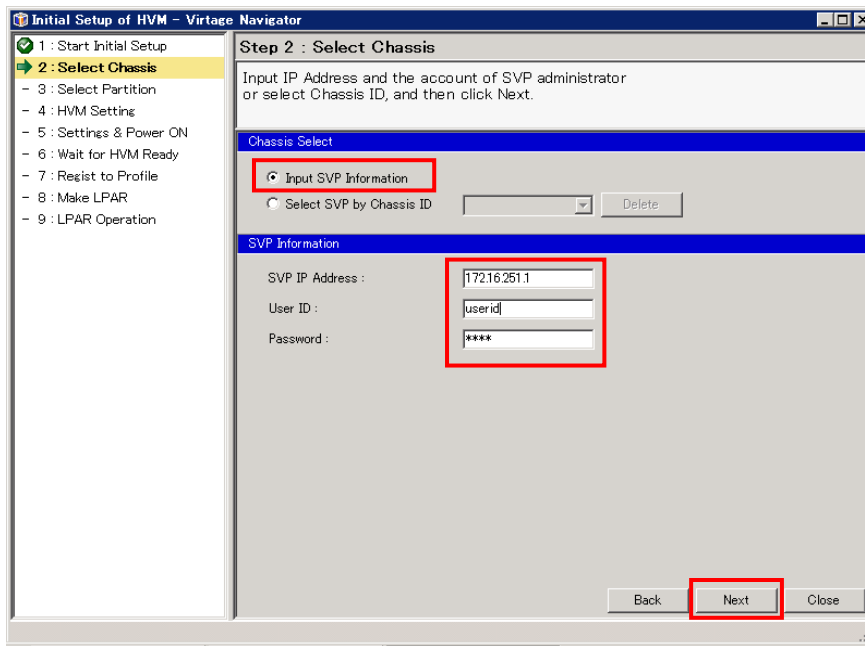


図 3-5 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 操作)

入力した内容が正しければ、シャーシ ID、シャーシのシーケンシャル番号、SVP のファームウェアバージョンが表示されます。内容を確認します。

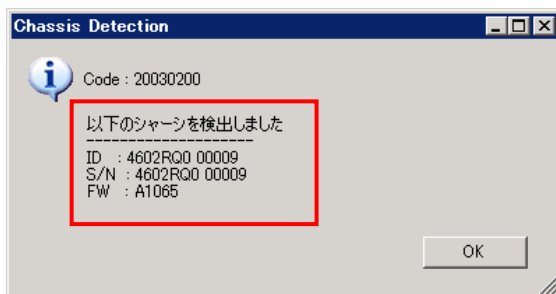


図 3-6 Chassis Detection ウィンドウ (Select Chassis 成功)

IP アドレスが SVP のものでない場合、あるいは SVP のファームウェアバージョンが LPAR 設定に必要な条件を満たしていない場合、以下のメッセージが表示されます。

IP アドレスの確認、または SVP のバージョンを確認し、OK ボタンをクリックします。

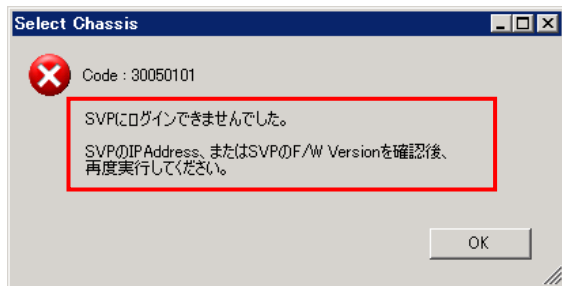


図 3-7 Select Chassis ウィンドウ (Select Chassis 失敗 1)

ログイン ID が SVP に登録されているものと異なっている場合、以下のメッセージが表示されます。SVP のログイン ID を確認します。OK ボタンをクリックします。

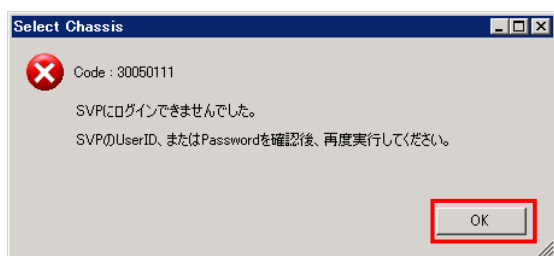


図 3-8 Select Chassis ウィンドウ (Select Chassis 失敗 2)

3.1.2 パーティションの選択

- (1) Information、Firmware Version に表示される内容を確認しながら、画面中央でパーティション番号を選択します。

パーティション番号は、サーバブレード番号と同意義です。

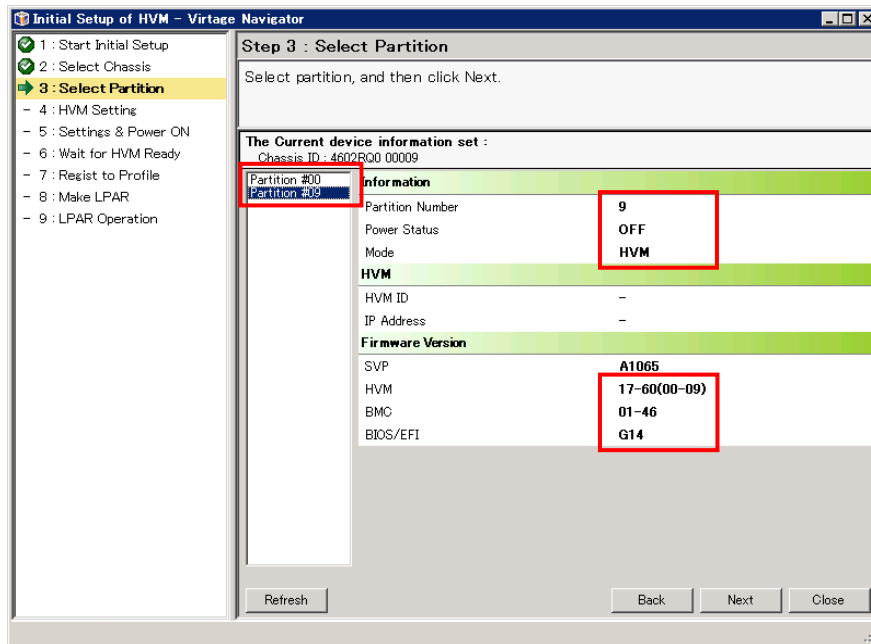


図 3-9 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Partition 操作)

- (2) Next ボタンをクリックします。

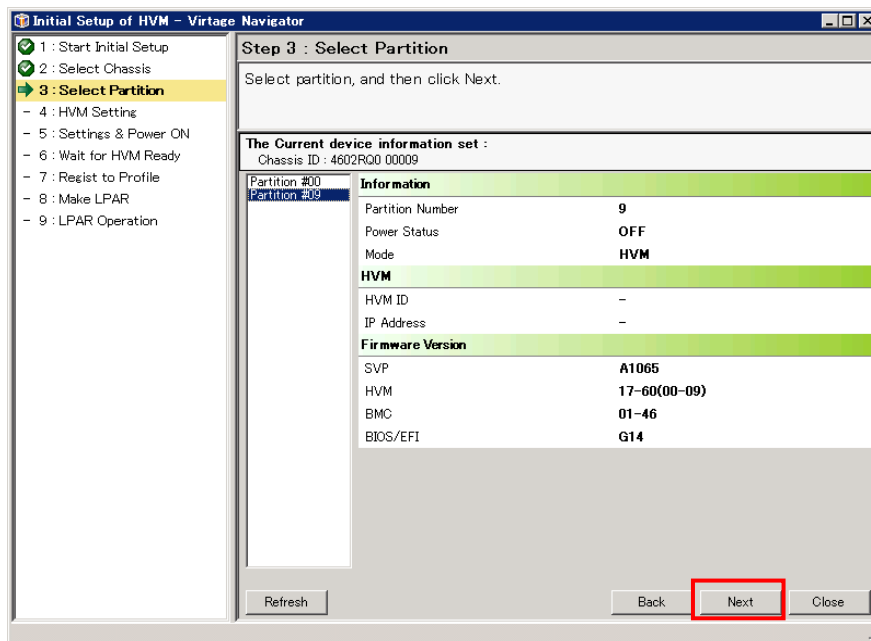


図 3-10 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Partition 完了)

- (3) 再度、バージョンを確認し、OK ボタンをクリックします。

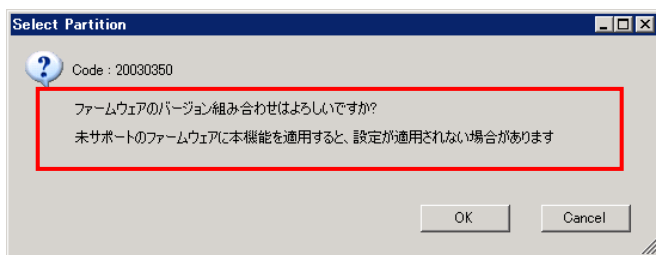


図 3-11 Select Partition ウィンドウ (Select Partition 完了)

3.1.3 HVMの設定

- (1) HVM IP アドレス、サブネットマスク、VNIC System No. を入力し、Next ボタンをクリックします。
Default Gateway、HVM ID、CLI IP Address は必須ではありませんが、入力することを推奨します。

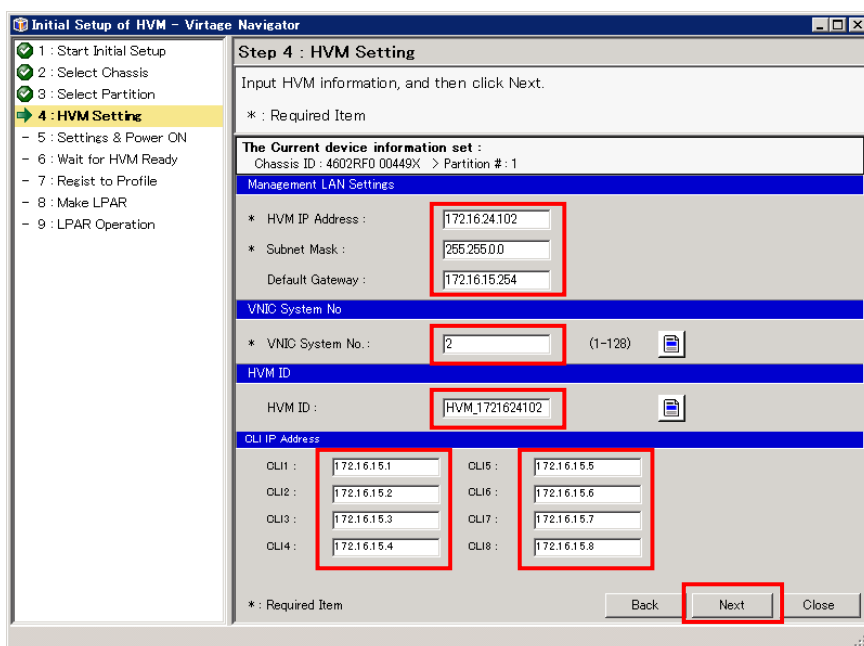


図 3-12 Initial Setup of HVM ウィンドウ (HVM Setting 操作)

3.1.4 HVMの起動

(1) HVM の設定情報を確認します。内容に間違いがなければ、Next ボタンをクリックします。

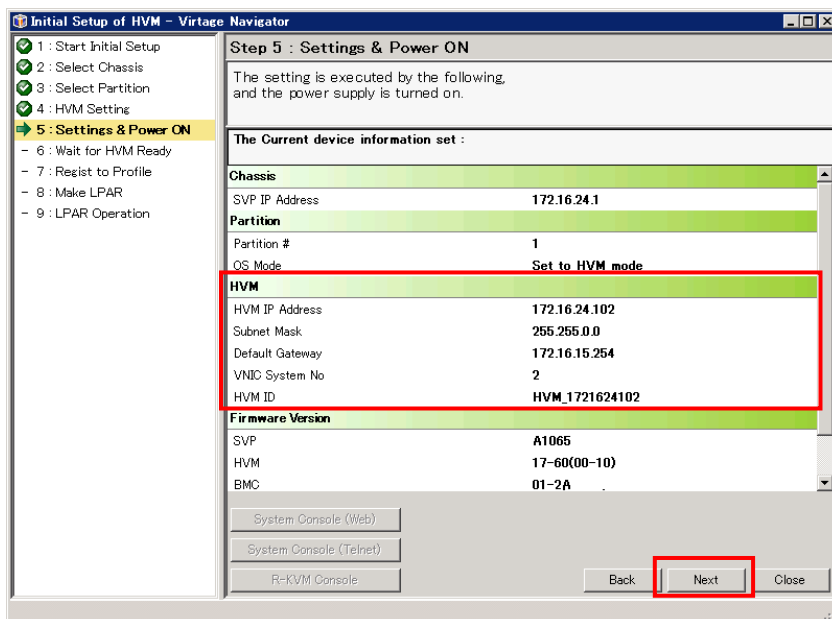


図 3-13 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power ON 表示)

HVM を正常に起動させるには、サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されている必要があります。サーバブレードの BIOS 設定は、以下の条件を満たす場合、HVM 必須値に自動設定されます。

- ・ SVP バージョンが A1075 以降かつ BIOS バージョンが G16 以降の場合

上記条件を満たさない場合、BIOS 設定の設定状態を確認するメッセージが表示されます。

BIOS 設定の内容は、サーバブレードの出荷形態によって異なります。

BIOS の設定手順については、3.5 BIOS の設定を参照してください。

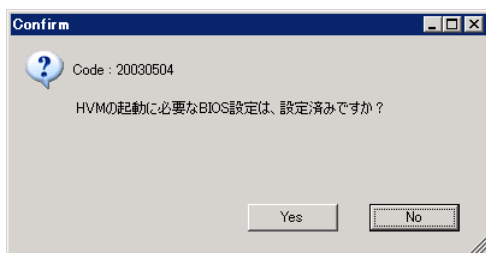


図 3-14 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認)

サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されていない場合は、No ボタンをクリックします。

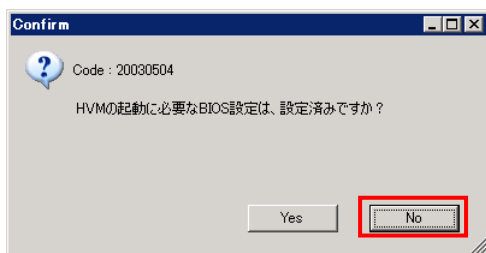


図 3-15 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認 1)

Remote KVM コンソールを使用する際に、予め準備しておく事項を表示します。

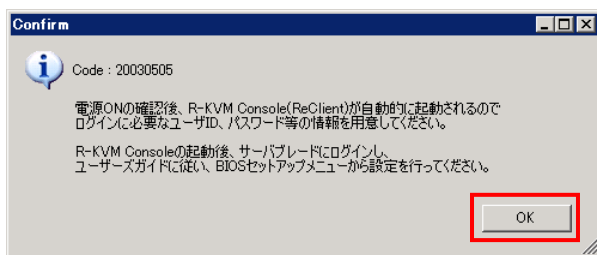


図 3-16 Confirm ウィンドウ (Remote KVM コンソール注意事項)

(2) サーバブレードの BIOS 設定が HVM 必須値に設定されている場合は、Yes ボタンをクリックします。

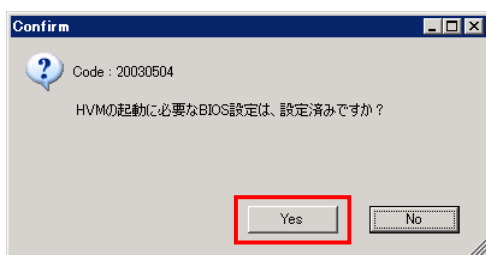


図 3-17 Confirm ウィンドウ (BIOS 設定確認 2)

Setting & Power On ステップに移行し、サーバブレードの電源 On 待ちを示す画面が表示されます。

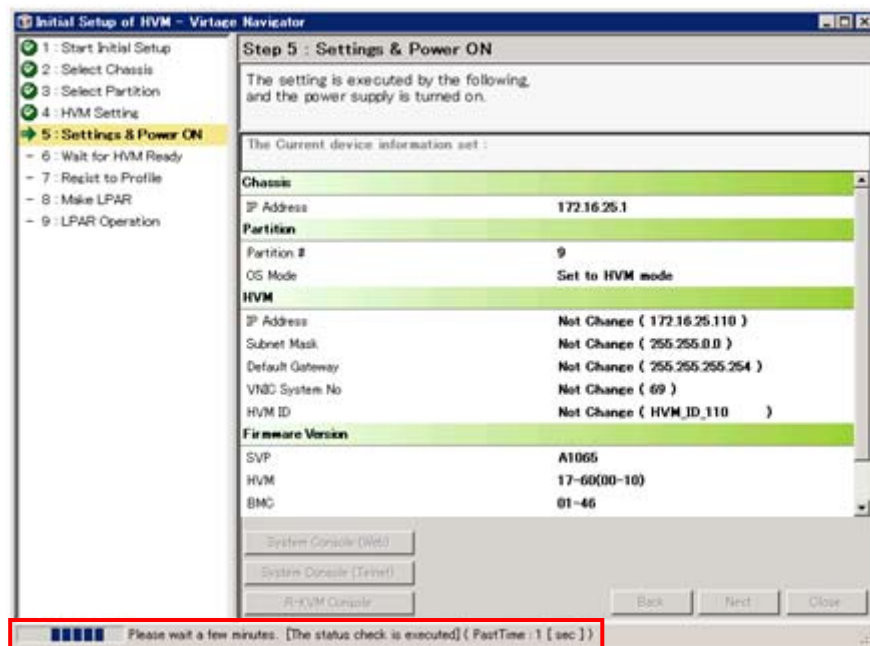


図 3-18 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power On 動作中)

サーバブレードの電源が On になると、Waiting for HVM Ready ステップに移行します。
HVM の立ち上げ待ちを示すメッセージが表示されます。
この間に BIOS 起動と HVM 起動が行われ、この画面は約 5 分間表示されます。
BIOS 設定が指示された場合、Remote KVM コンソールが自動的に起動されます。
この場合、3.5 BIOS の設定に記載されている手順で BIOS を設定してください。

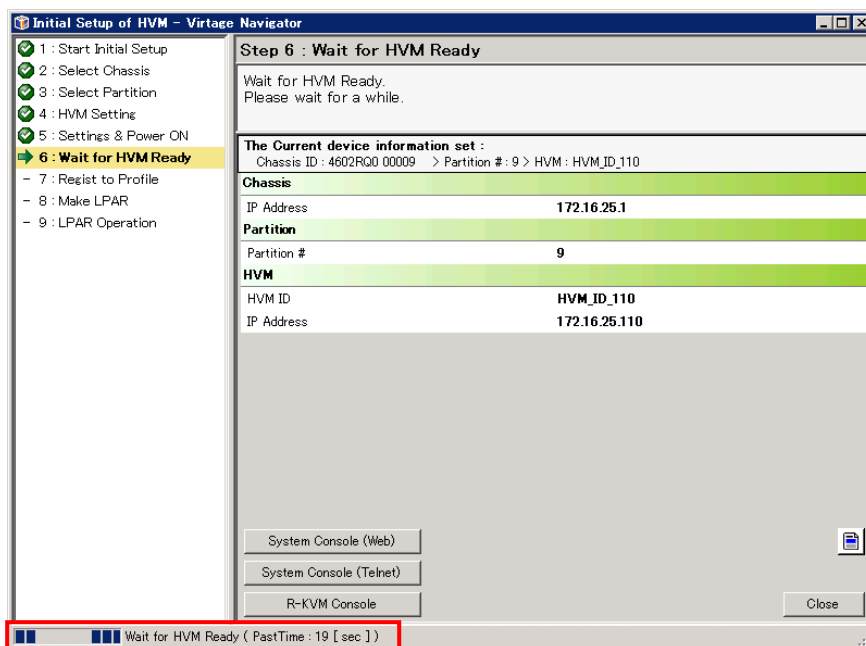


図 3-19 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Wait for HVM Ready 動作中)

HVM の立ち上げに成功すると、自動的に Register to Profile ステップに移行します。

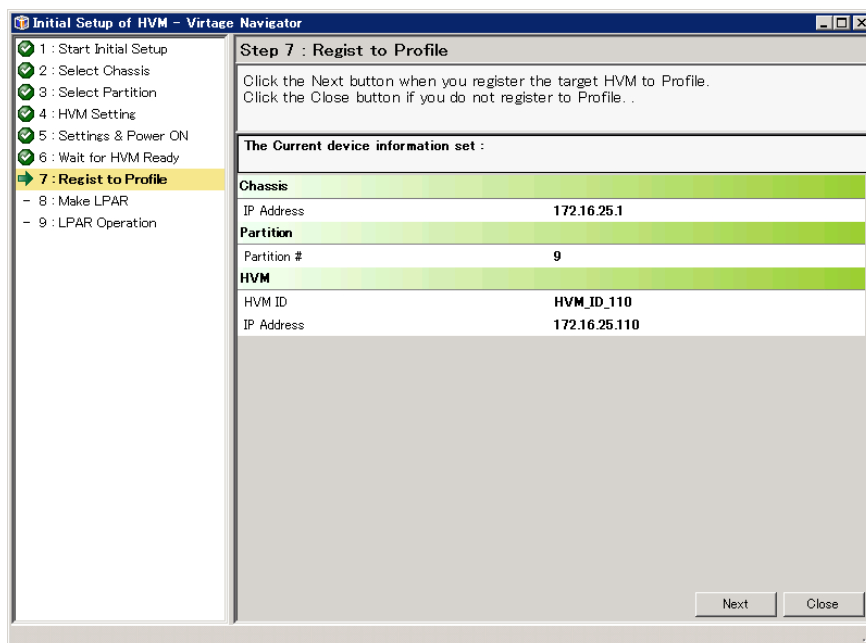


図 3-20 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Setting & Power On 完了)

3.1.5 HVMの登録

- (1) HVM の登録は、HVM Console、Monitoring、Viewer、Migration を使用するために必要な操作です。
Next ボタンをクリックします。

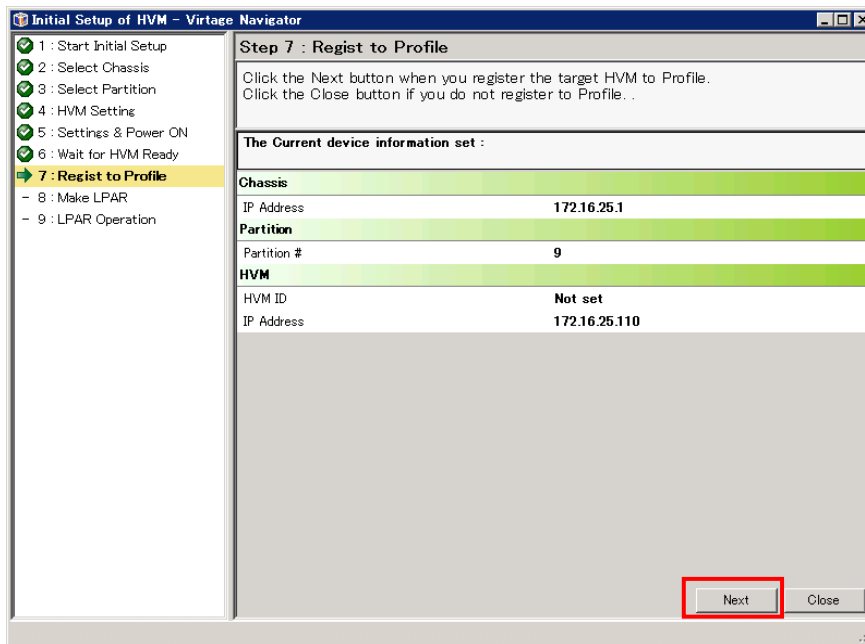


図 3-21 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Regist to Profile)

HVM の登録が完了すると、自動的に Make LPAR のステップに移行します。

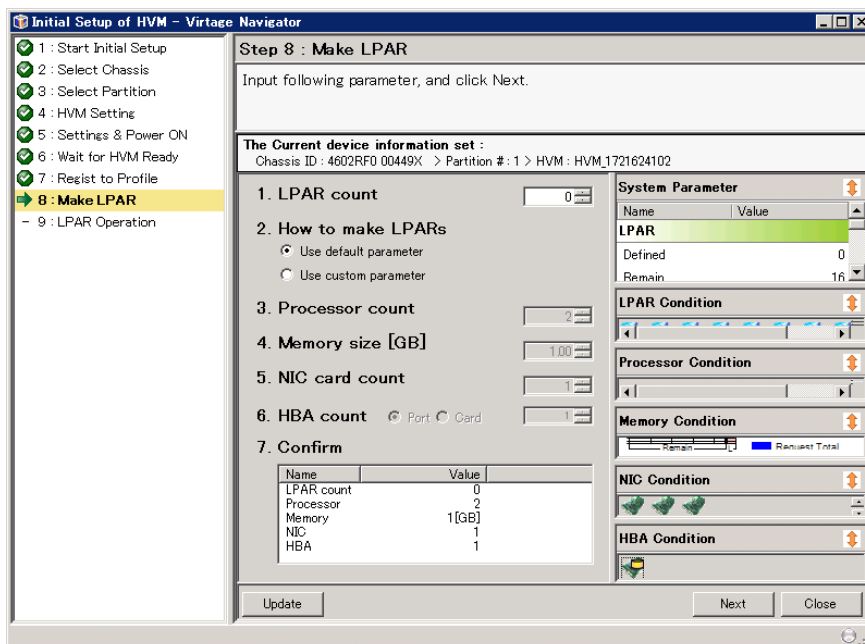


図 3-22 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR)

3.1.6 LPARの作成

LPAR 作成では、以下に示す項目で LPAR を作成します。

表 3-2 LPAR 作成の指定項目

No.	設定項目	説明	補足															
1	LPAR 数	新しく作成する LPAR の個数を指定します。 同じ構成の LPAR を複数作成する場合は、2 以上を指定してください	個数が 0 で Next ボタンをクリックすると、LPAR を作成せず次のステップに進みます。															
2	作成方法	作成する LPAR の構成を選択します。 ＜デフォルト構成＞ HVM が推奨するデフォルトの LPAR 構成を指定します。 デフォルト LPAR 構成 <table><tr><th>No.</th><th>構成</th><th>設定値</th></tr><tr><td>1</td><td>プロセッサ数</td><td>2</td></tr><tr><td>2</td><td>メモリサイズ</td><td>1 [GB]</td></tr><tr><td>3</td><td>NIC カード数</td><td>1</td></tr><tr><td>4</td><td>HBA カード数</td><td>1</td></tr></table> ＜カスタム構成＞ LPAR 構成の値を直接指定できます。	No.	構成	設定値	1	プロセッサ数	2	2	メモリサイズ	1 [GB]	3	NIC カード数	1	4	HBA カード数	1	導入時はデフォルト構成を指定することを推奨します。
No.	構成	設定値																
1	プロセッサ数	2																
2	メモリサイズ	1 [GB]																
3	NIC カード数	1																
4	HBA カード数	1																
3	プロセッサ数	LPAR の CPU 数を指定します。	—															
4	メモリサイズ	LPAR のメモリ容量を指定します。	—															
5	NIC カード数	LPAR の NIC の数を指定します。	ポート数でないことに注意してください。															
6	HBA 数	指定方法 (ポート数またはカード数) を選択します。 ＜ポート数指定＞ LPAR の FC HBA のポート数を指定します。 ＜カード数指定＞ LPAR の FC HBA のカード数を指定します。	—															
7	保存	HVM 上に生成した LPAR の構成を装置の外部記憶装置に保存します。	—															

(1) リソースの空き状態が画面右側に表示されます。

この内容を確認しながら、作成する LPAR のパラメータを指定します。

作成する LPAR のパラメータが決まったところで、Next ボタンをクリックします。

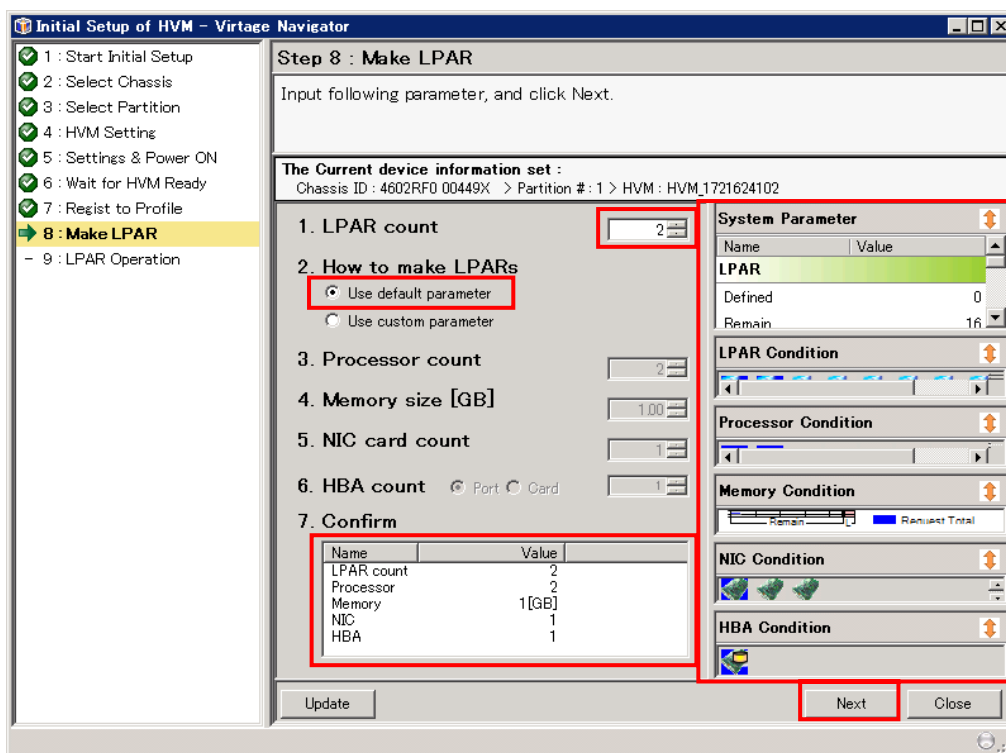


図 3-23 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR 操作)

(2) LPAR の作成が完了すると、自動的に Operation LPAR のステップに移行します。

LPAR を選択して、作成した LPAR の構成を確認します。

構成に問題がなければ、Save ボタンをクリックして LPAR 構成保存をします。

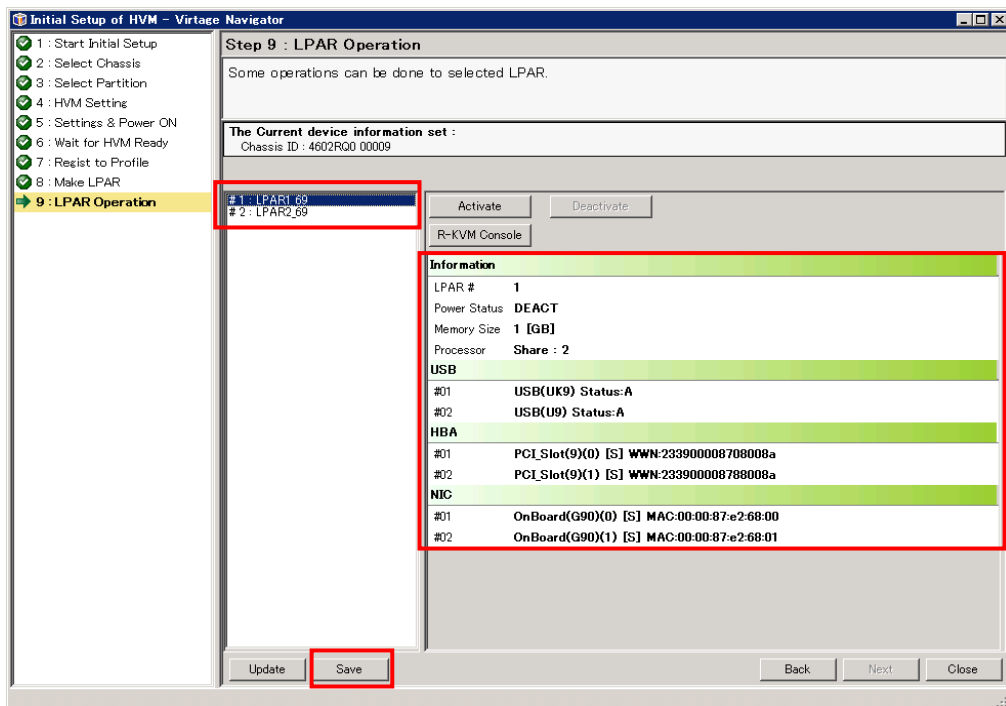


図 3-24 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Make LPAR の完了)

LPAR 構成情報保存の確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

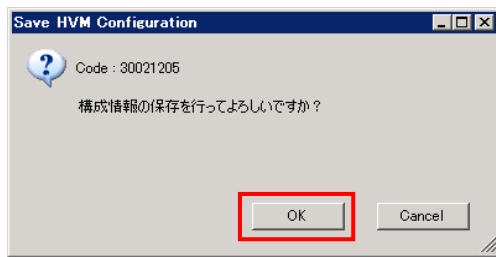


図 3-25 Save HVM Configuration ウィンドウ (LPAR 構成保存の確認)

正常終了のメッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

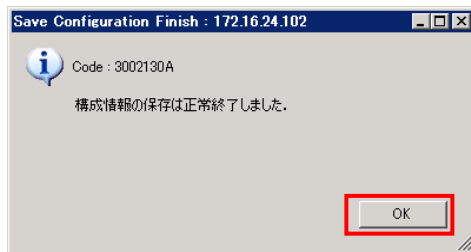


図 3-26 Save HVM Configuration ウィンドウ (LPAR 構成保存の完了)

3.1.7 LPARの開始

(1) LPAR を選択して、Activate ボタンをクリックします。

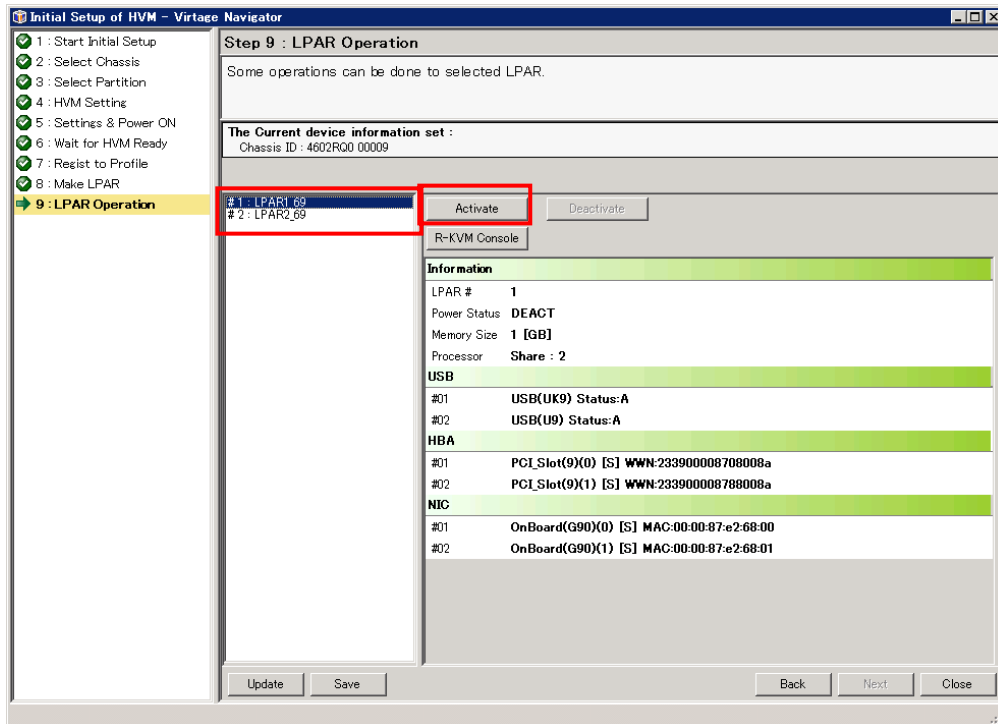


図 3-27 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Activate の開始)

(2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

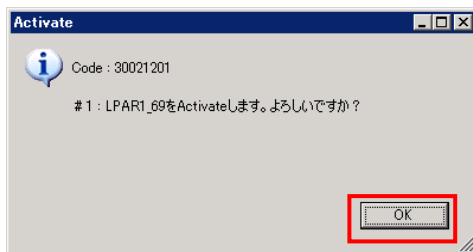


図 3-28 Activate ウィンドウ (LPAR の Activate の確認)

LPAR の Activate が完了すると、LPAR の状態が ACT に変化します。

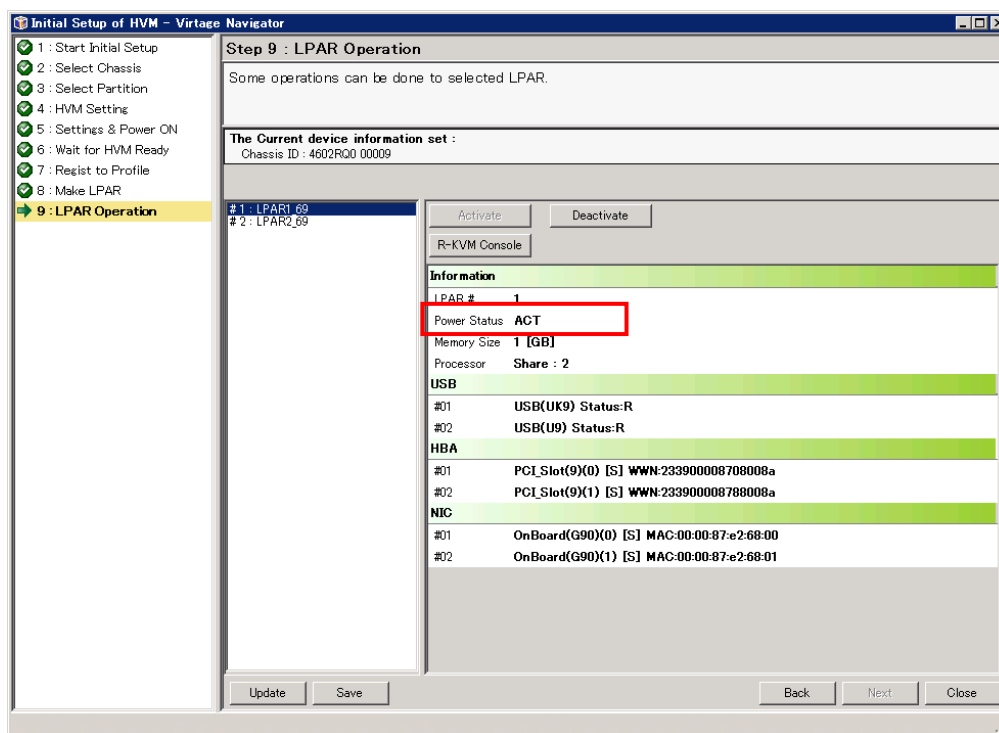


図 3-29 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Activate の完了)

(3) LPAR が Activate されると、ゲスト論理 EFI が起動します。

ゲスト論理 EFI のスクリーンを表示するために、R-KVM Console ボタンをクリックします。

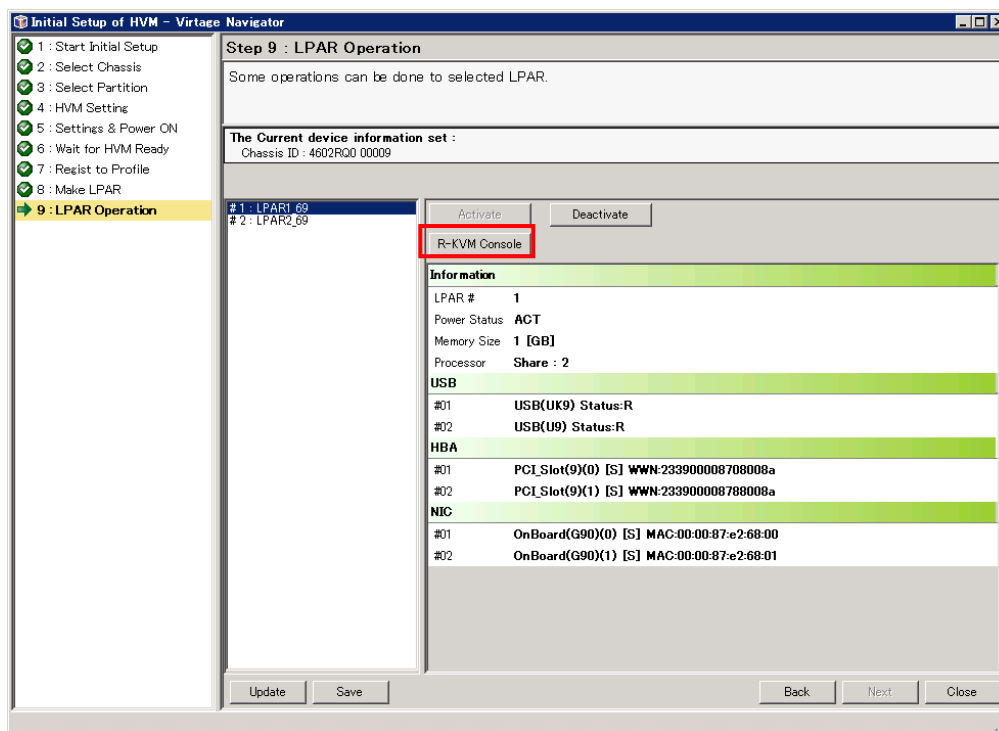


図 3-30 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールの起動)

- (4) Remote KVM コンソールが起動されるので、接続ボタンをクリックします。

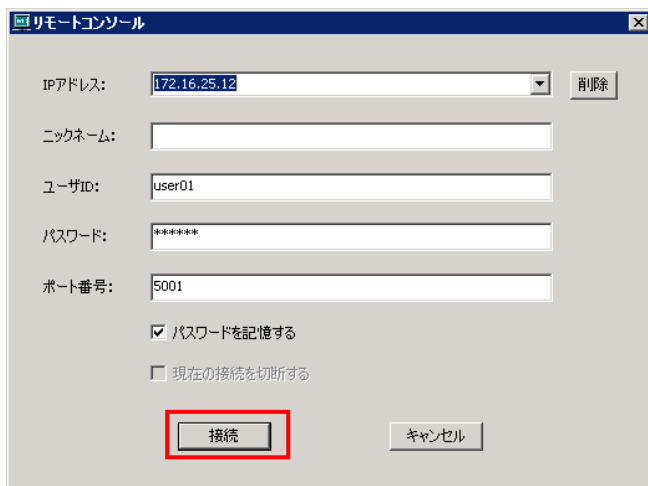
A screenshot of a 'リモートコンソール' (Remote Console) window. It contains several input fields: 'IPアドレス' (IP Address) with '172.16.25.12' and a '削除' (Delete) button; 'ニックネーム' (Nickname) which is empty; 'ユーザID' (User ID) with 'user01'; 'パスワード' (Password) with '*****'; and 'ポート番号' (Port Number) with '5001'. There are two checkboxes: 'パスワードを記憶する' (Remember password) which is checked, and '現在の接続を切断する' (Disconnect current connection) which is unchecked. At the bottom, there are two buttons: '接続' (Connect) which is highlighted with a red rectangle, and 'キャンセル' (Cancel).

図 3-31 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールのログイン画面)

- (5) フルスクリーンでゲスト論理 EFI のスクリーンが表示されます。

[Alt]+[q]を押下することで部分描写とフルスクリーンを交互に切り替えることができますが、操作はフルスクリーンに限られます。

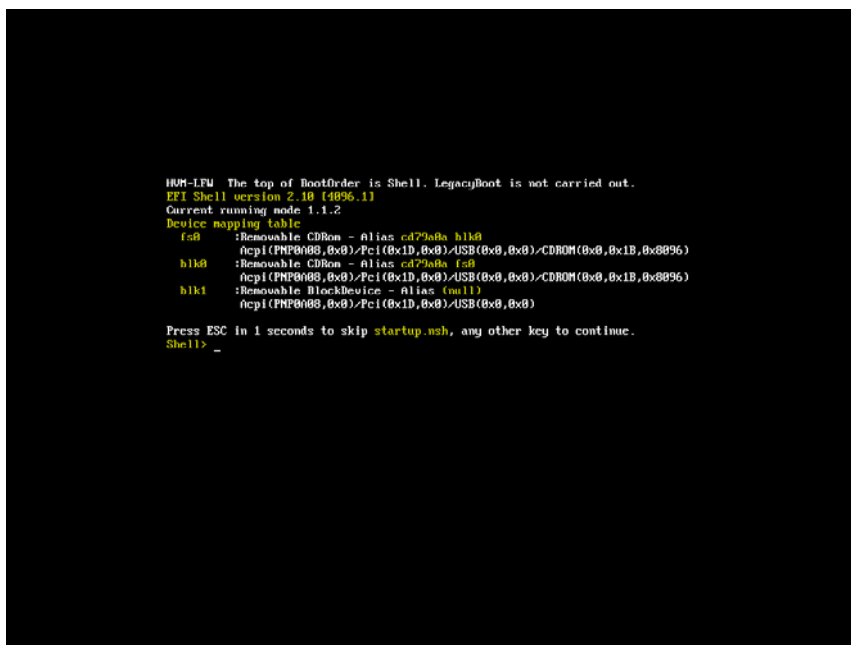


図 3-32 Initial Setup of HVM ウィンドウ (ゲスト論理 EFI の開始画面 (フルスクリーン))

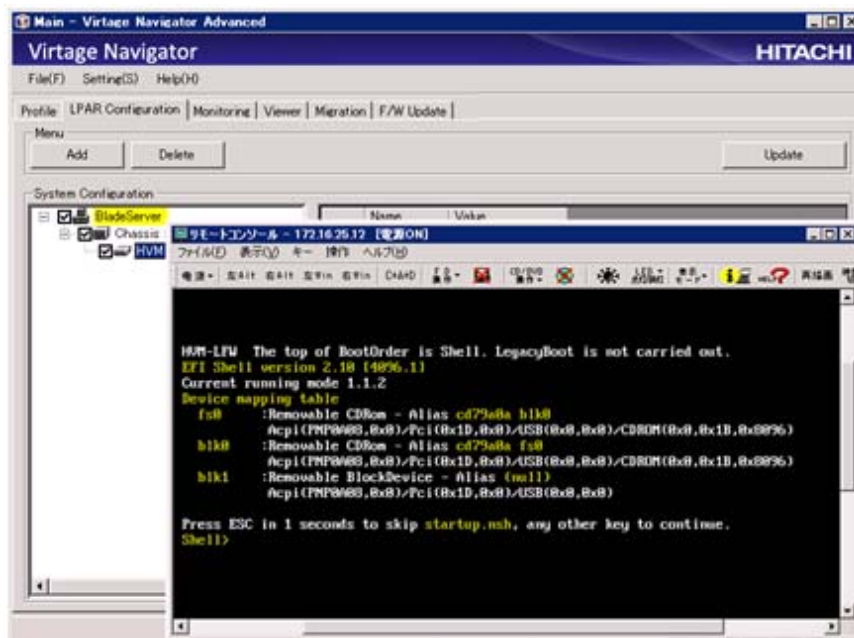


図 3-33 Initial Setup of HVM ウィンドウ(ゲスト論理 EFI の開始画面(部分描写))

以降、ゲスト論理 EFI の操作でブート設定を行い、OS のインストール作業ができます。
OS インストール手順は「Virtage OS インストール手順書」をご参照ください。

3.1.8 LPARの終了

LPAR の終了は、LPAR を Deactivate することで行います。

ゲスト論理 EFI が走行中の場合は、Virtage Navigator から LPAR を Deactivate します。

しかし、OS 走行中は、OS が提供する方法でシャットダウンしてください。

(1) LPAR を選択し、Deactivate ボタンをクリックします。

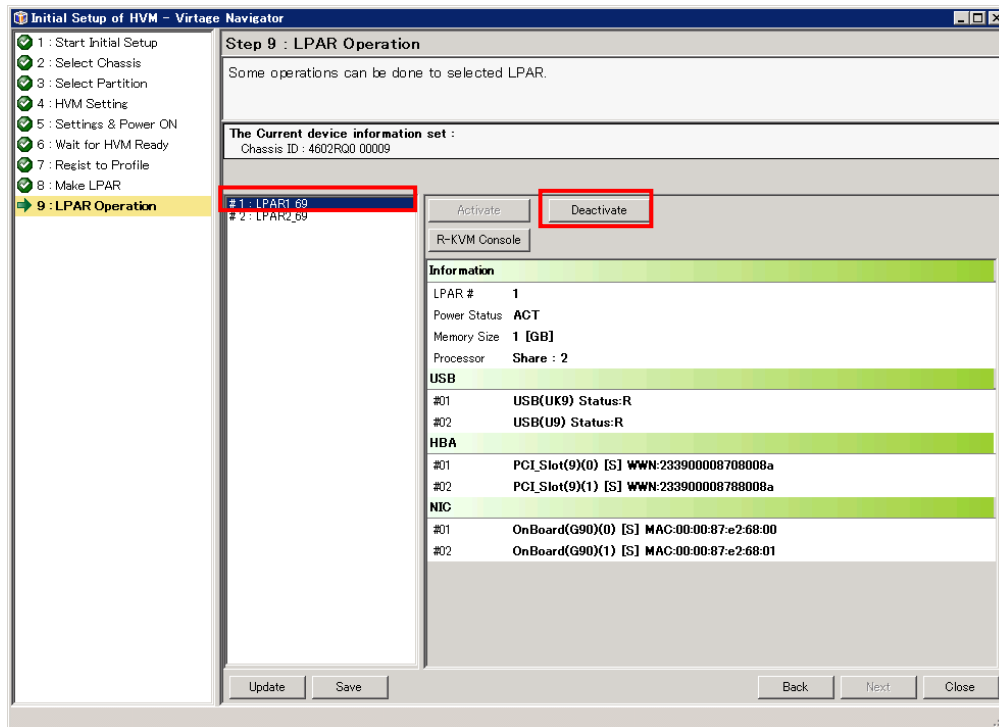


図 3-34 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Deactivate の開始)

(2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

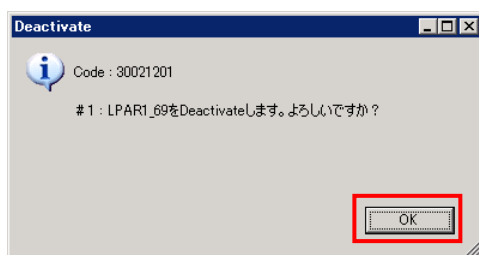


図 3-35 Deactivate ウィンドウ (LPAR の Deactivate の確認)

LPAR の Deactivate が完了すると、LPAR の状態が DEACT に変化します。

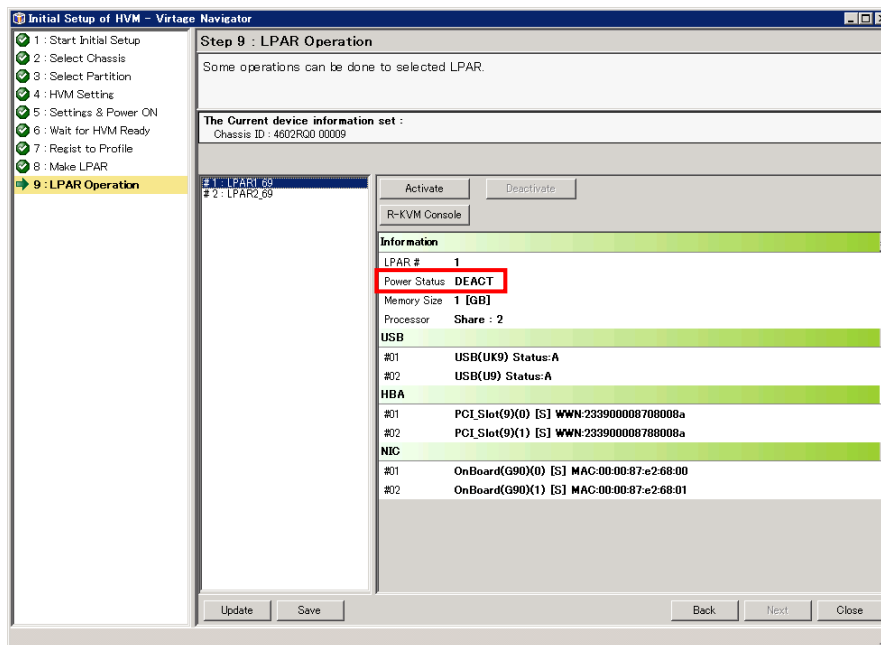


図 3-36 Initial Setup of HVM ウィンドウ (LPAR の Deactivate の完了)

3.2 LPARの追加(簡易)

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の Make LPAR ボタンをクリックします。

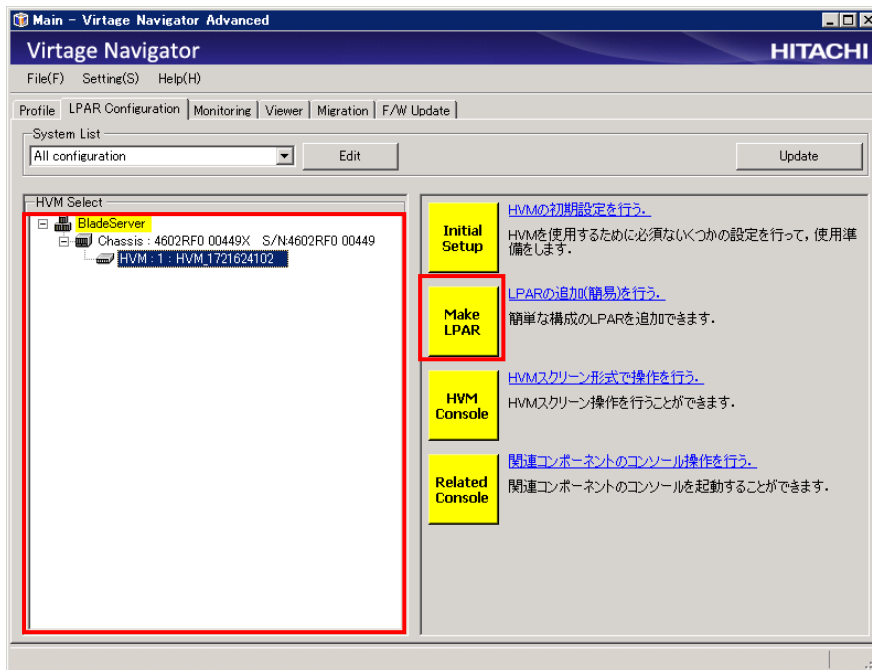


図 3-37 Main ウィンドウ (Make LPAR の開始)

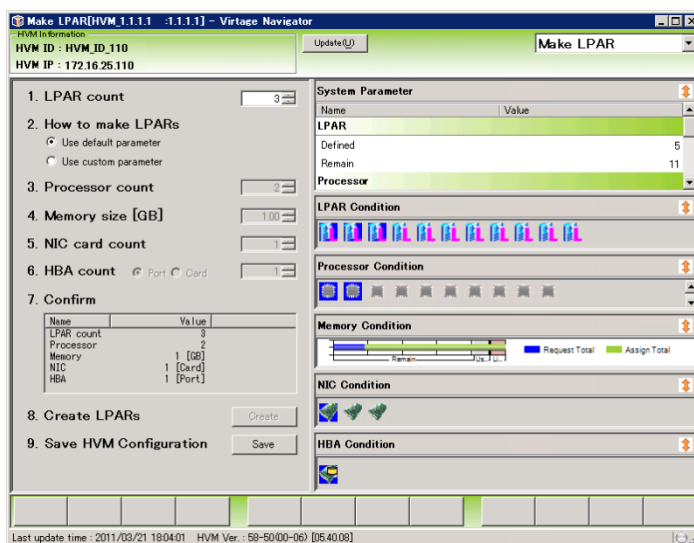


図 3-38 Make LPAR ウィンドウ (Make LPAR の開始)

- (2) LPAR 作成に必要なパラメータを指定します。
- 3.1.6 LPARの作成に示す操作と同じなので、そちらをご参照ください。

LPARの詳細設定につきましては、3.3 LPARの詳細設定をご参照ください。

3.3 LPARの詳細設定

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の HVM Console ボタンをクリックします。

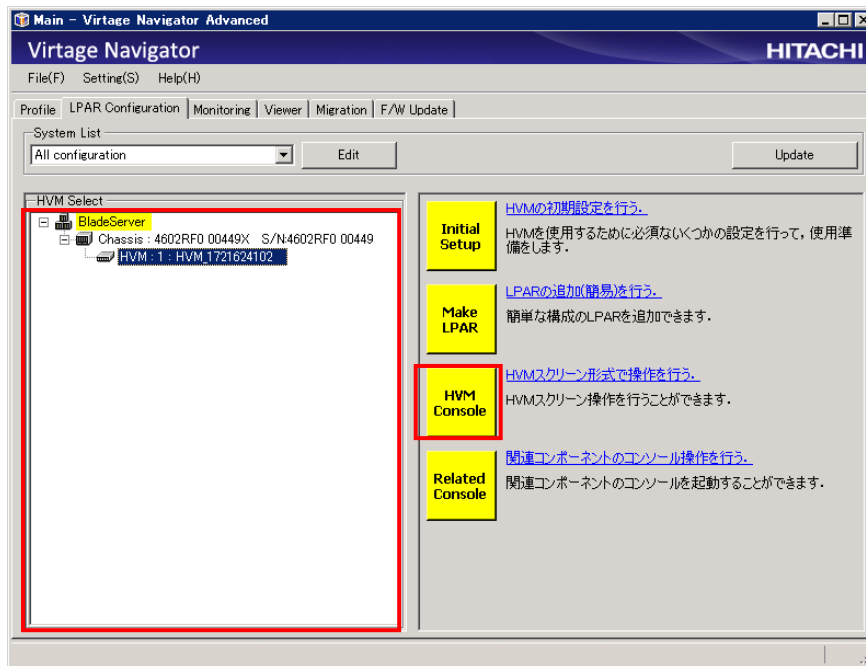


図 3-39 Main ウィンドウ (HVM Console の開始)

HVM コンソールのメニューが表示されます。

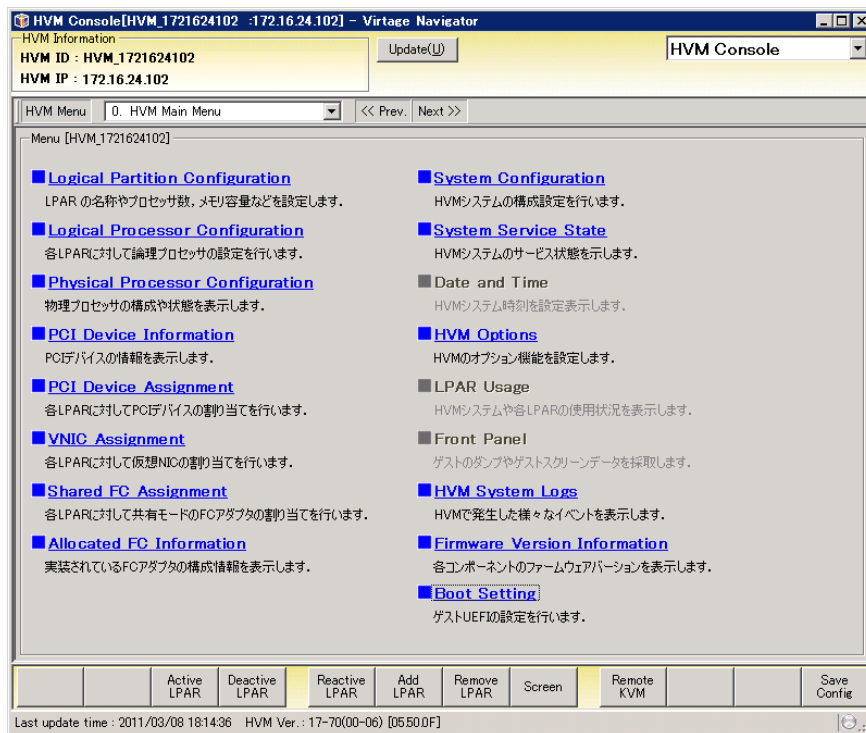


図 3-40 HVM Console ウィンドウ (HVM Console)

3.3.1 LPARの設定

3.3.1.1 LPARの追加

(1) HVM Console メニューで Logical Partition Configuration を選択します。

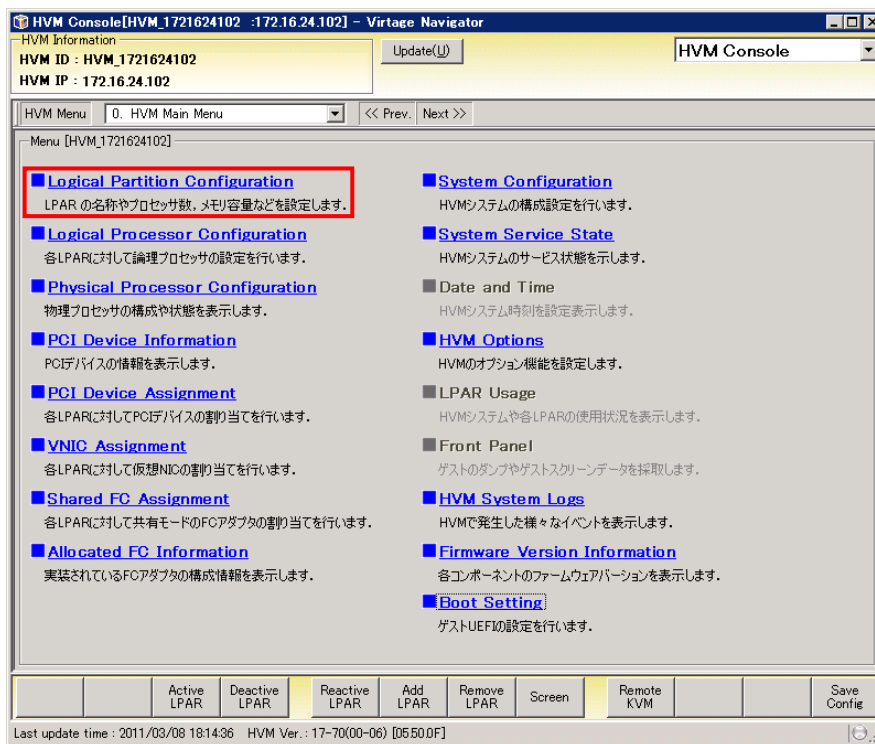


図 3-41 HVM Console ウィンドウ (Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Add LPAR ボタンをクリックします。

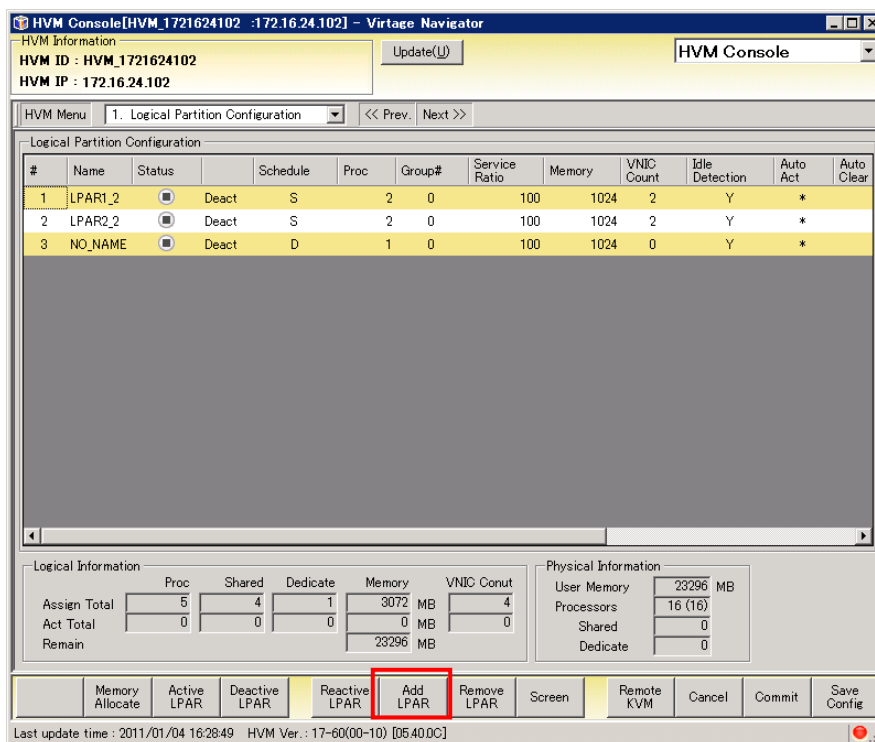


図 3-42 HVM Console ウィンドウ (Add ボタンのクリック)

(3) 作成する LPAR を選択し、OK ボタンをクリックします。

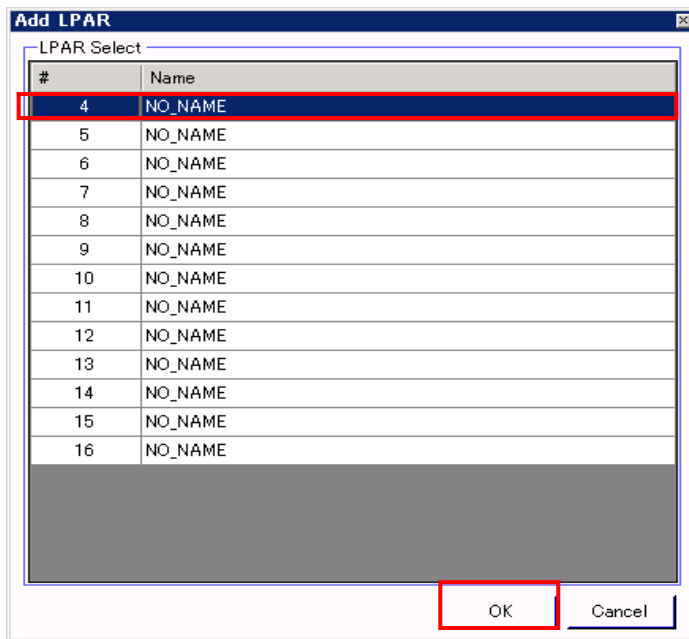


図 3-43 Add LPAR ウィンドウ (作成 LPAR の選択)

(4) 作成する LPAR を確認し、OK ボタンをクリックします。

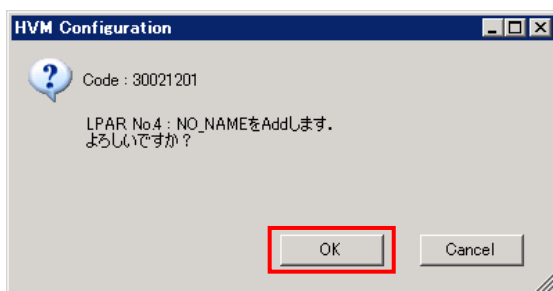


図 3-44 HVM Configuration ウィンドウ (作成 LPAR の確認)

(5) Logical Partition Configuration で作成した LPAR の Name 列を選択し、LPAR 名称を変更します。

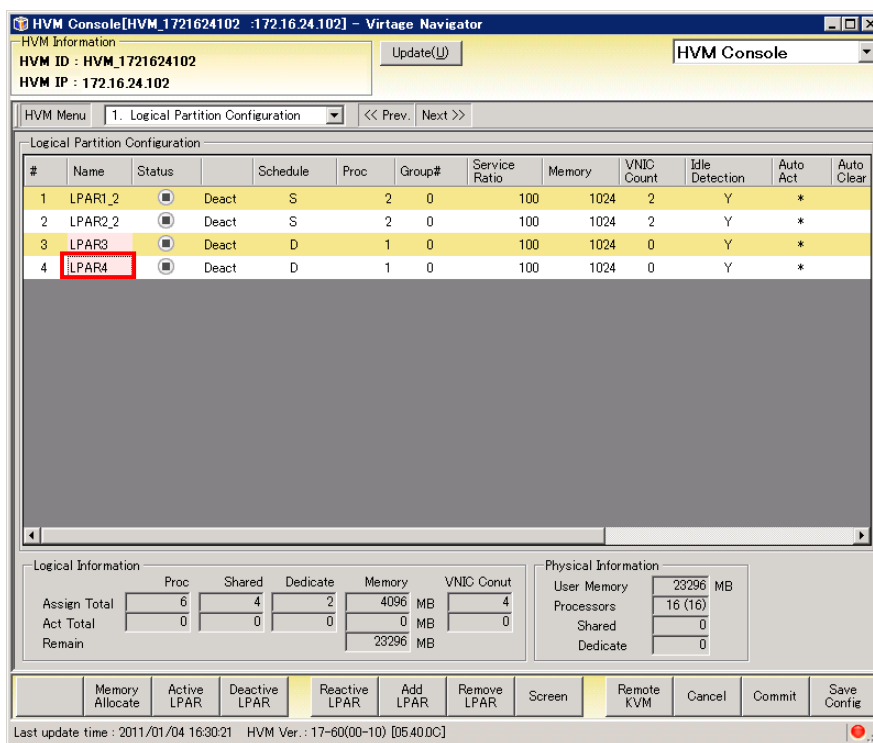


図 3-45 HVM Console ウィンドウ (LPAR 名称の変更)

(6) Commit ボタンをクリックします。

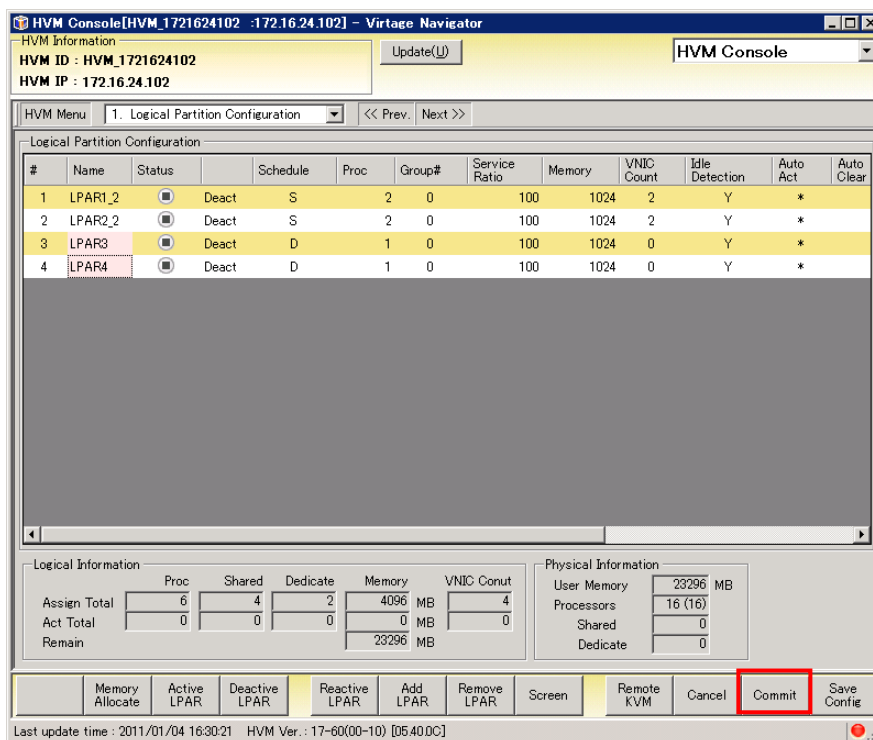


図 3-46 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(7) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

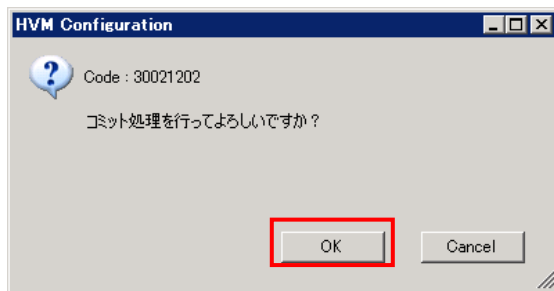


図 3-47 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.2 プロセッサ数の設定

(1) Logical Partition Configuration で作成した LPAR の Proc 列を選択し、プロセッサ数を設定します。

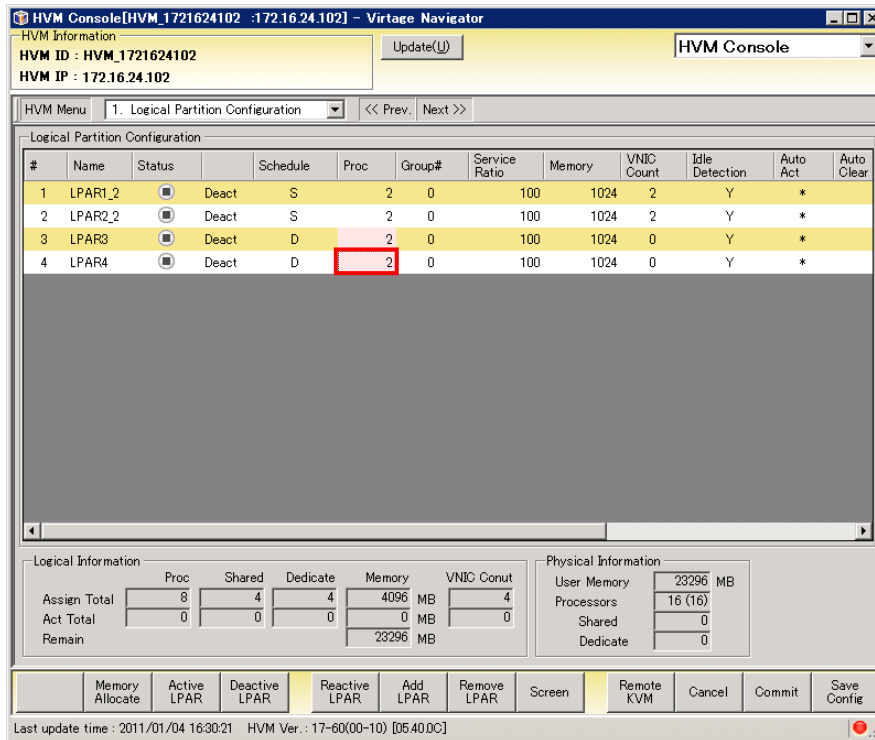


図 3-48 HVM Console ウィンドウ (プロセッサ数の設定)

(2) Commit ボタンをクリックします。

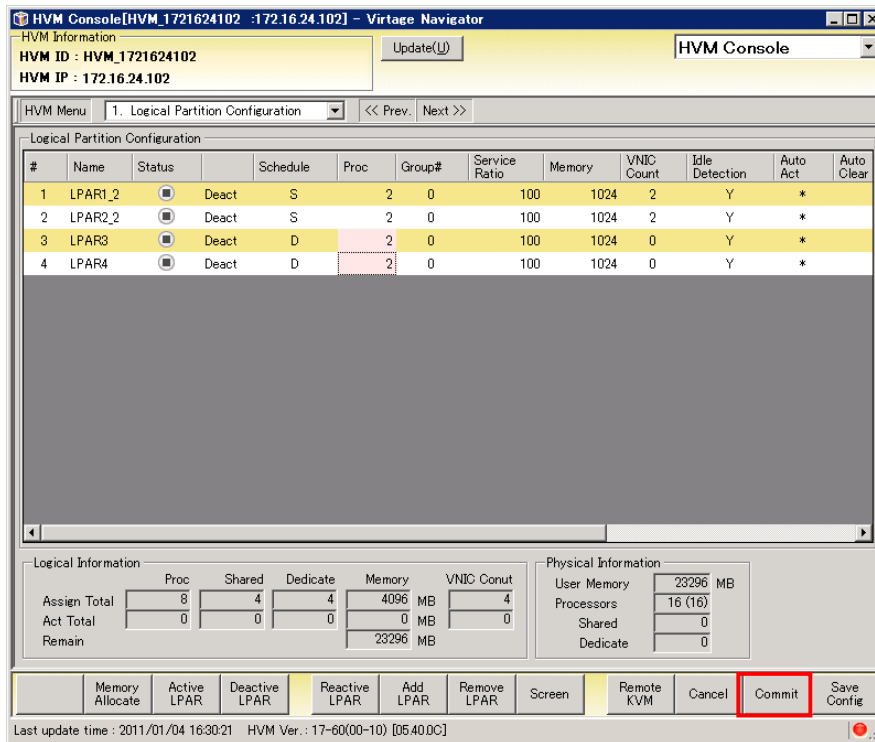


図 3-49 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(3) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

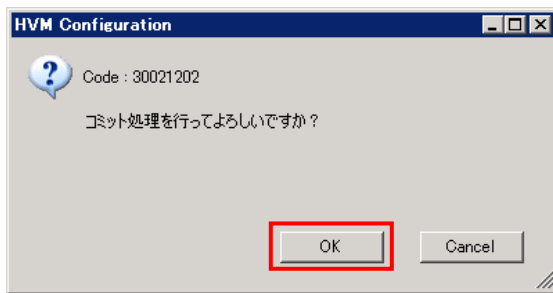


図 3-50 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.3 メモリサイズの設定

(1) Logical Partition Configurationで作成した LPAR の Memory 列を選択します。

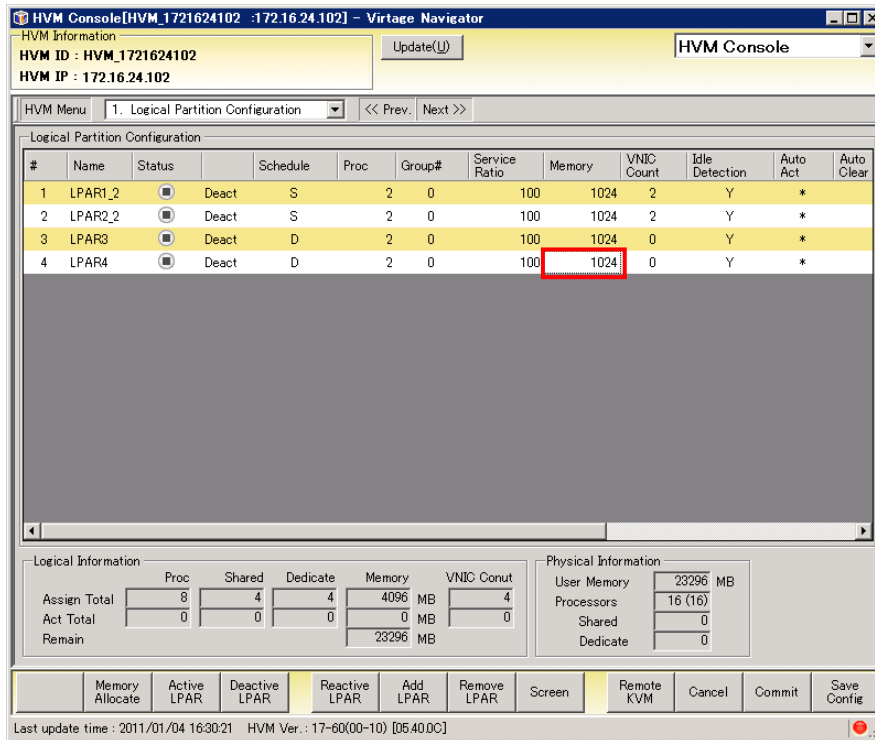


図 3-51 HVM Console ウィンドウ (Memory 列の選択)

(2) メモリサイズを設定します。

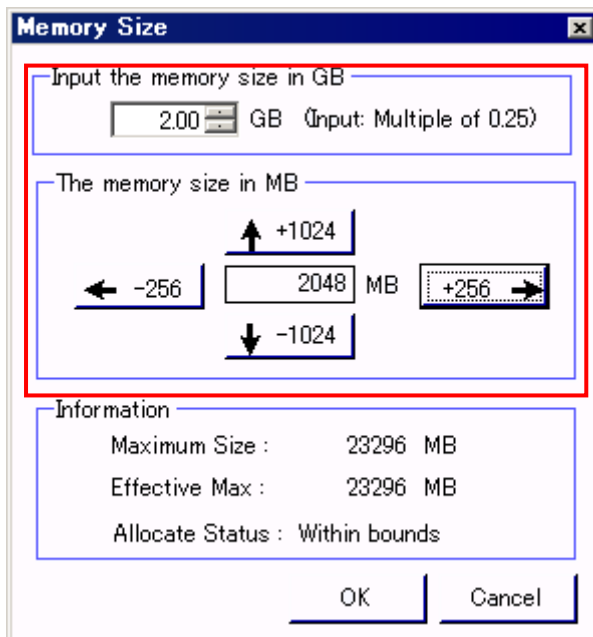


図 3-52 Memory Size ウィンドウ (メモリサイズの設定)

(3) Commit ボタンをクリックします。

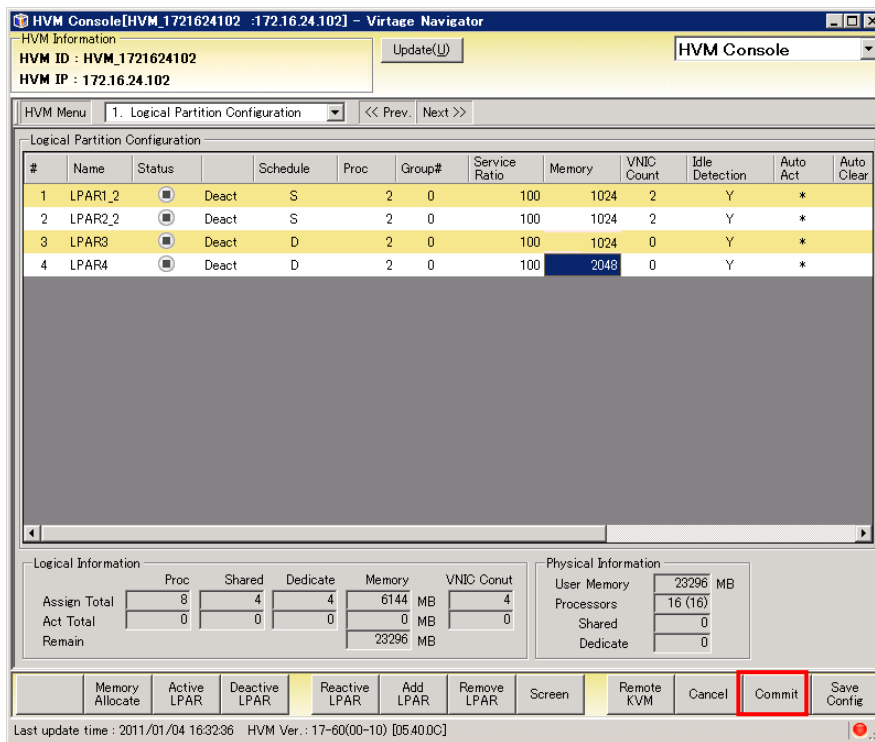


図 3-53 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

(4) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

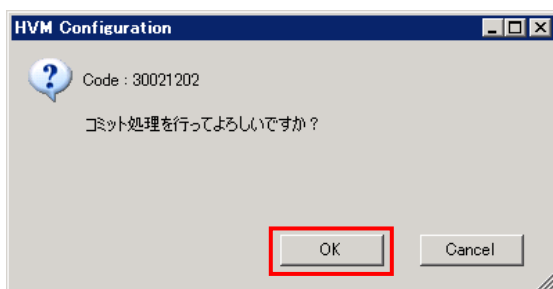


図 3-54 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.4 共有NICの設定

(1) HVM Console メニューで VNIC Assignment を選択します。

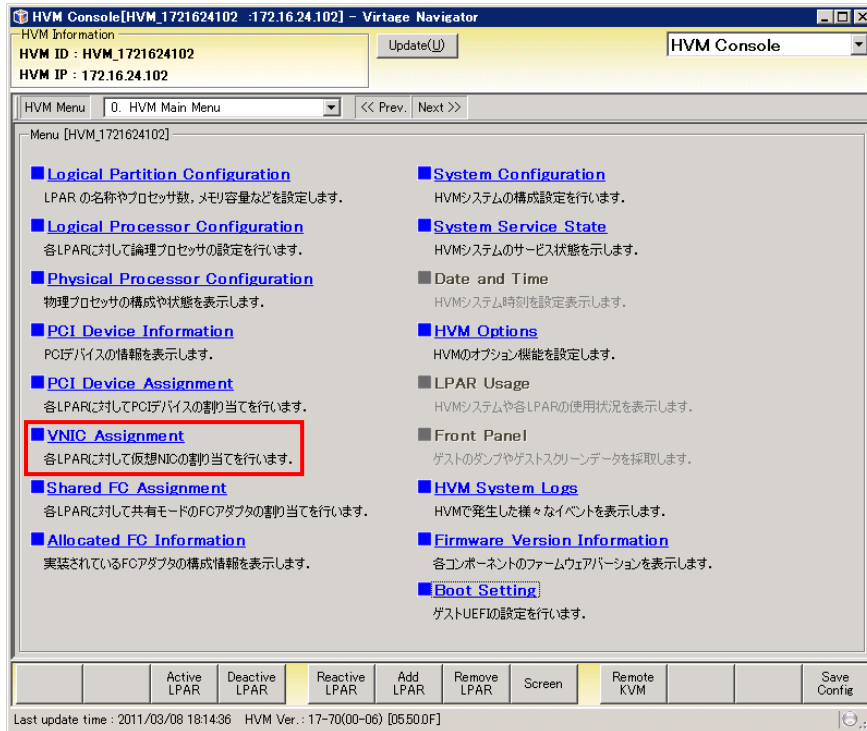


図 3-55 HVM Console ウィンドウ (VNIC Assignment の選択)

(2) 作成した LPAR の Virtual NIC Number の 0 列を選択します。

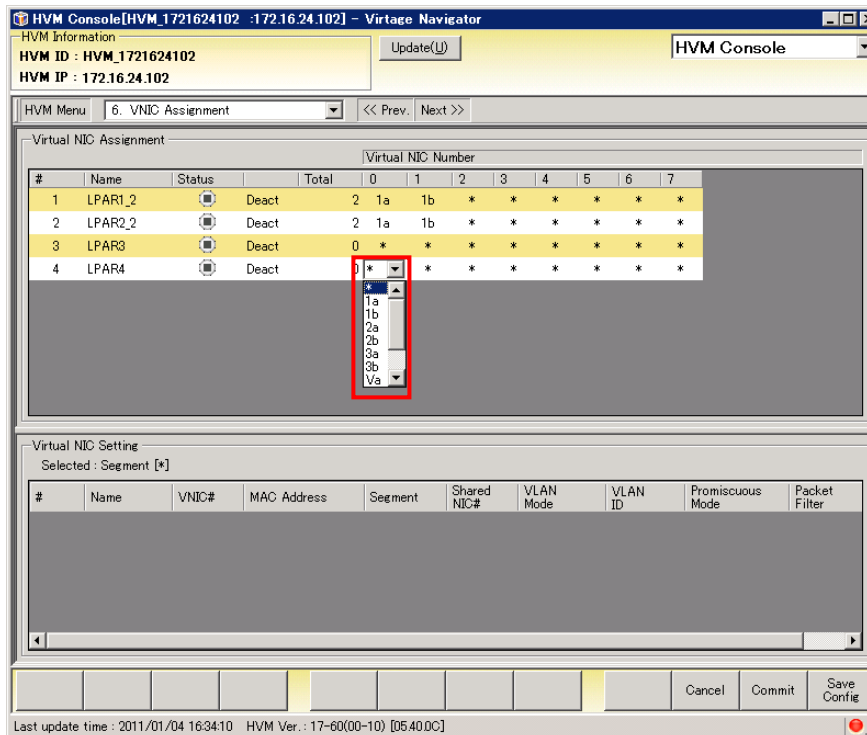


図 3-56 HVM Console ウィンドウ (Virtual NIC Number の選択)

(3) 1a を選択します。

共有 NIC は物理 LAN コントローラ単位で割り当てを行うため、1a を選択すると 1b も選択されます。

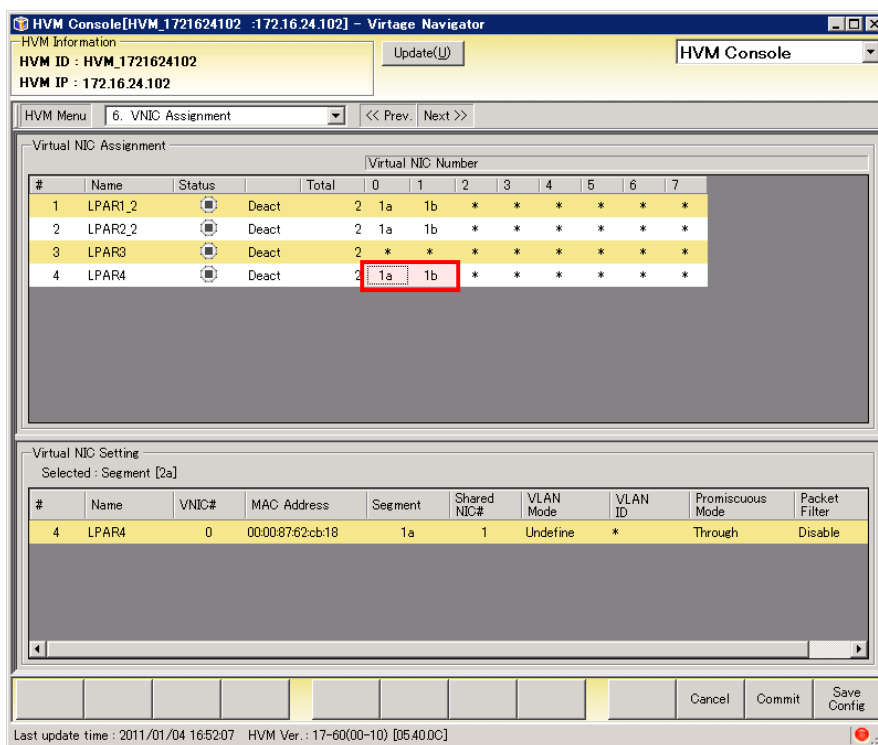


図 3-57 HVM Console ウィンドウ (Virtual NIC の選択)

(4) Commit ボタンをクリックします。

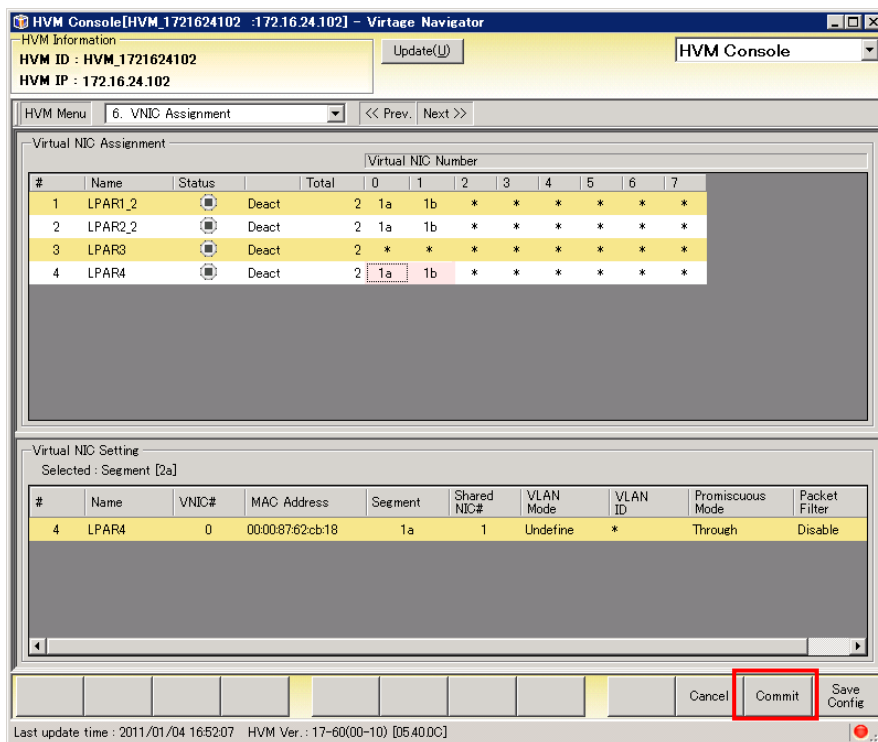


図 3-58 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

- (5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

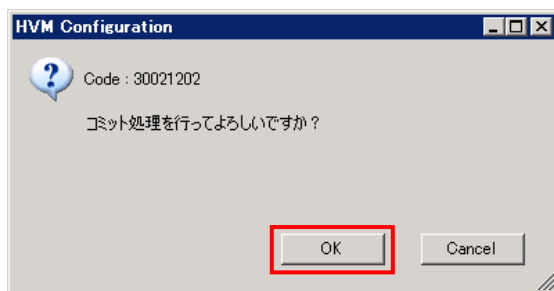


図 3-59 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.5 共有FCポートの設定

(1) HVM Console メニューで Shared FC Assignment を選択します。

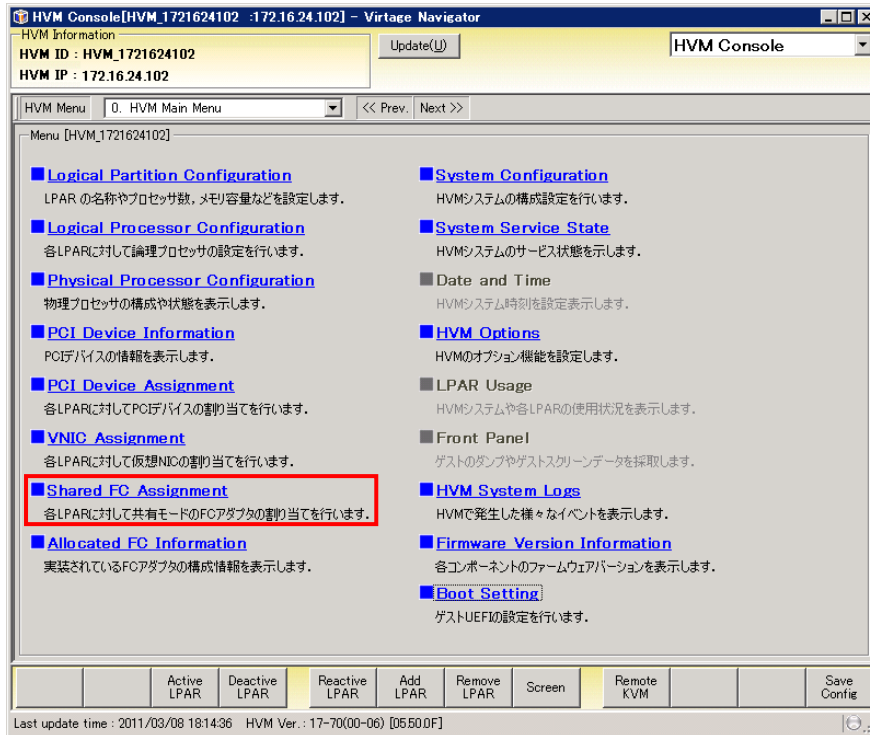


図 3-60 HVM Console ウィンドウ (Shared FC Assignment の選択)

(2) 作成した LPAR の Shared FC#を選択します。

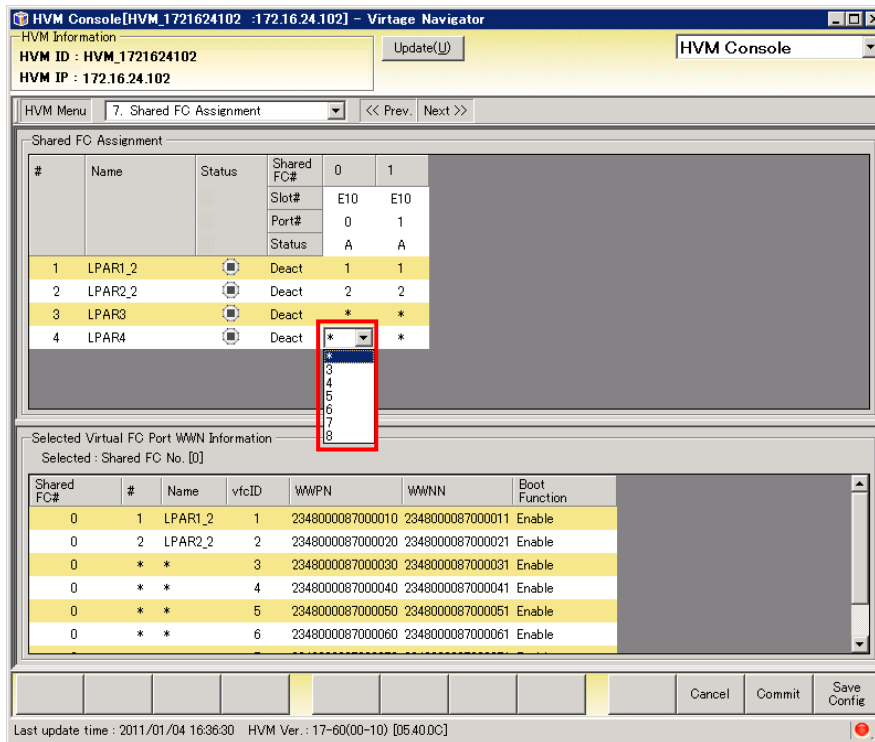


図 3-61 HVM Console ウィンドウ (Shared FC#の選択)

(3) 共有 FC ポートを選択します。

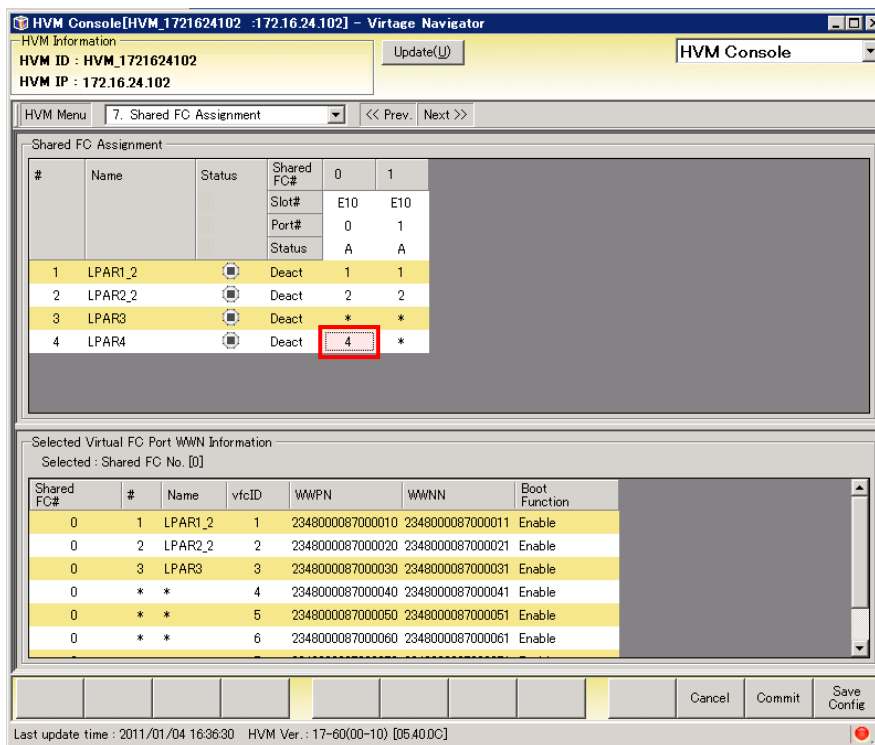


図 3-62 HVM Console ウィンドウ(共有 FC ポートの選択)

(4) Commit ボタンをクリックします。

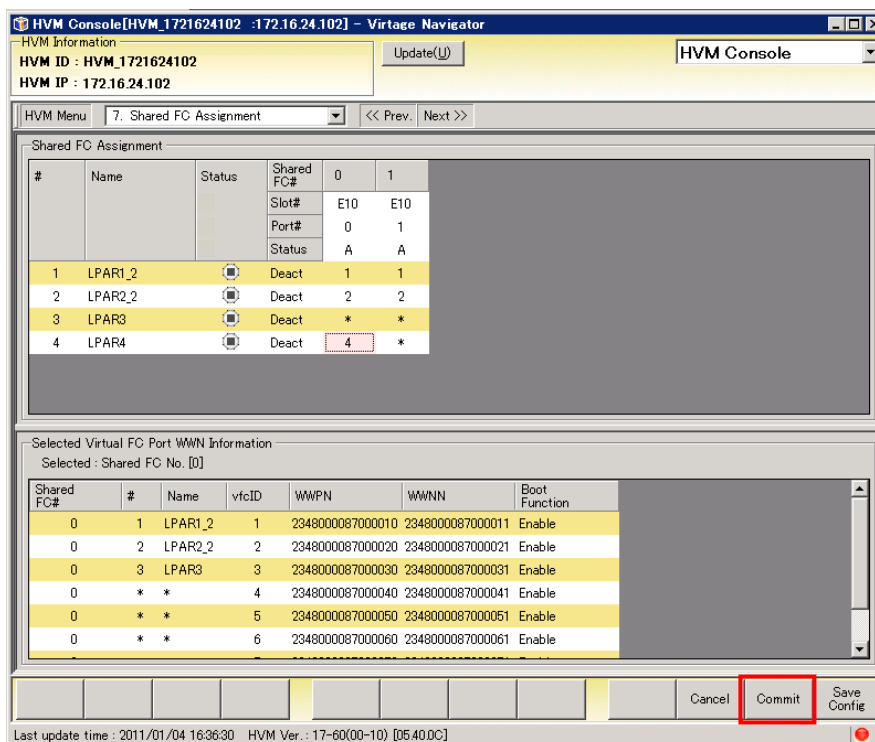


図 3-63 HVM Console ウィンドウ(Commit ボタンのクリック)

- (5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

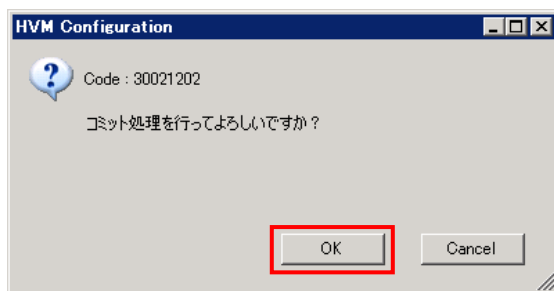


図 3-64 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.6 USBの設定

- (1) HVM Console メニューで PCI Device Assignment を選択します。

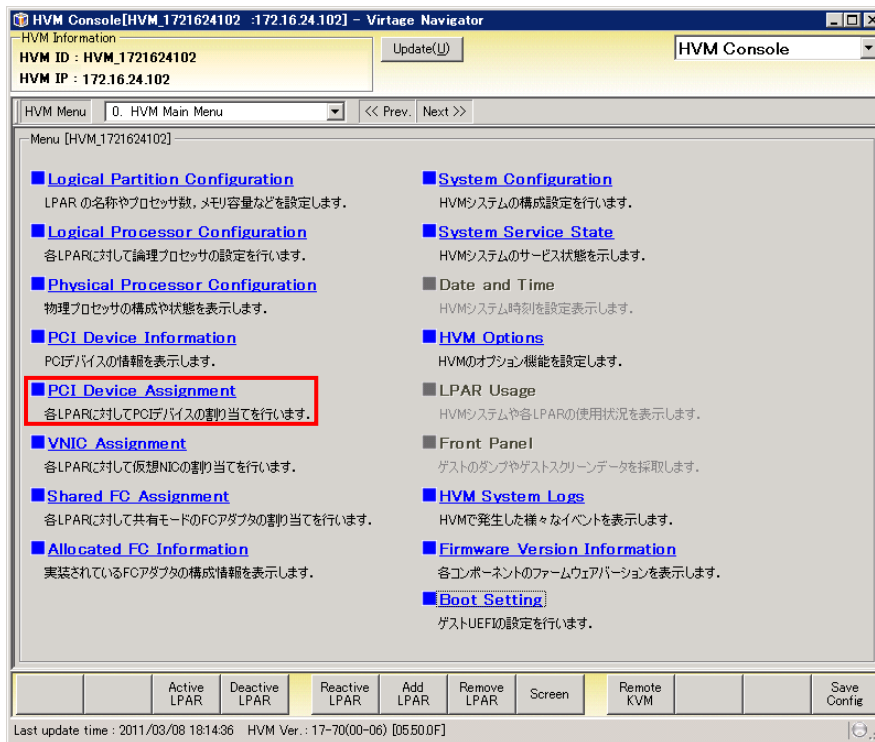


図 3-65 HVM Console ウィンドウ (PCI Device Assignment の選択)

- (2) 作成した LPAR の Type 行が「U」となっている列を選択します。

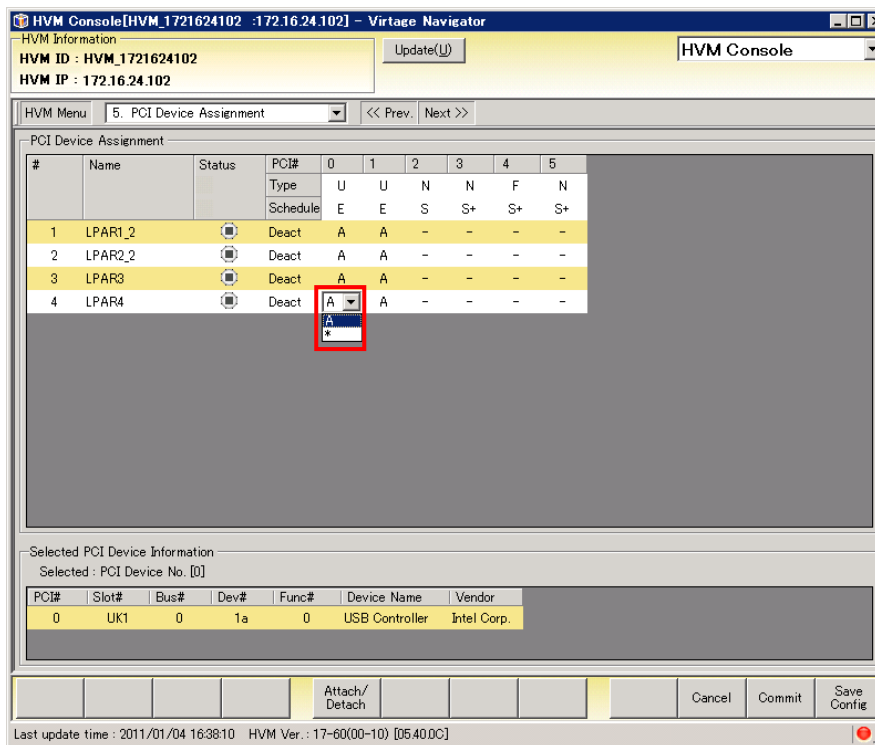


図 3-66 HVM Console ウィンドウ (USB の選択)

(3) A を設定し USB を設定します。

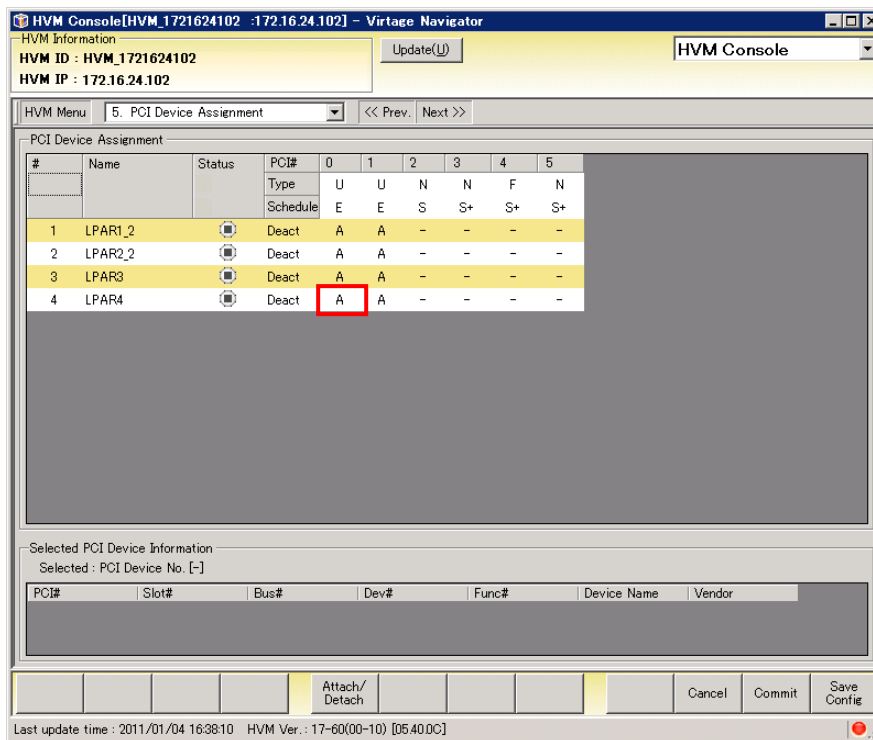


図 3-67 HVM Console ウィンドウ (USB の設定)

(4) Commit ボタンをクリックします。

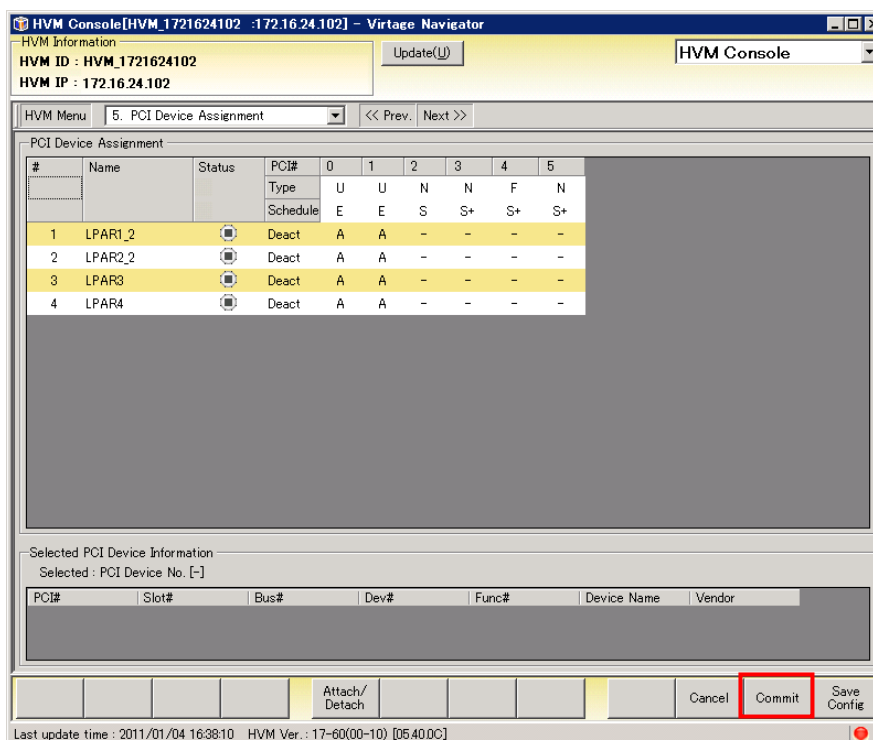


図 3-68 HVM Console ウィンドウ (Commit ボタンのクリック)

- (5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

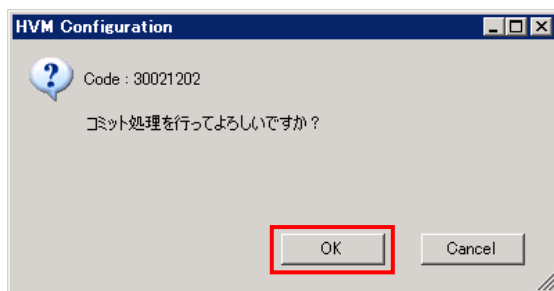


図 3-69 HVM Configuration ウィンドウ (Commit の確認)

3.3.1.7 HVM構成情報の保存

- (1) HVM Console メニューから Save Config ボタンをクリックします。

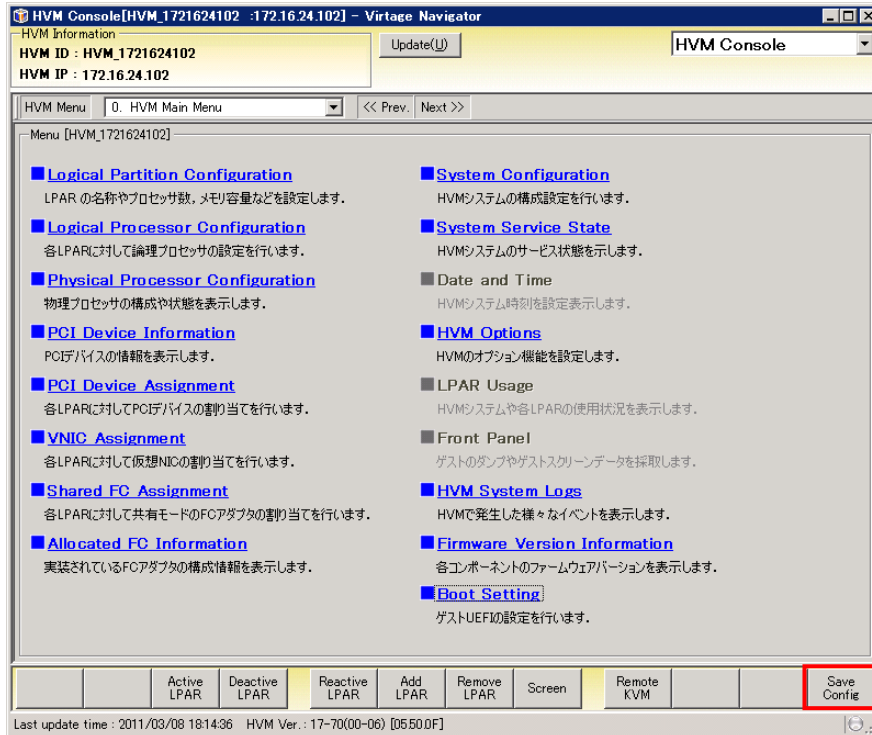


図 3-70 HVM Console ウィンドウ (Save ボタンのクリック)

- (2) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

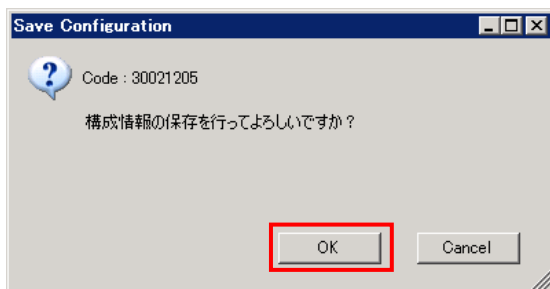


図 3-71 Save Configuration ウィンドウ (HVM 構成情報の保存)

HVM 構成情報の保存中のプログレスバーが表示されます。

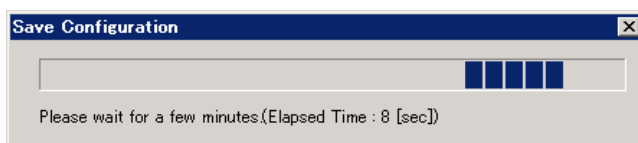


図 3-72 Save Configuration ウィンドウ (HVM 構成情報の保存中のプログレスバー表示)

- (3) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

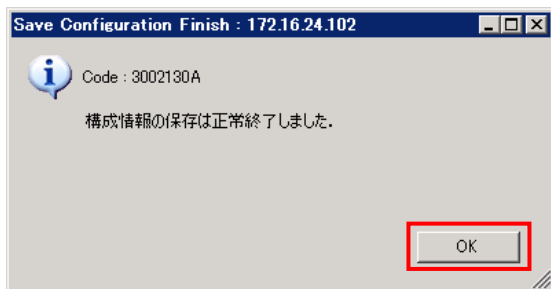


図 3-73 Save Configuration Finish ウィンドウ (HVM 構成情報の完了)

3.3.2 ブート設定

3.3.2.1 HBAブートドライバの設定

(1) HVM Console メニューで Boot Setting を選択します。

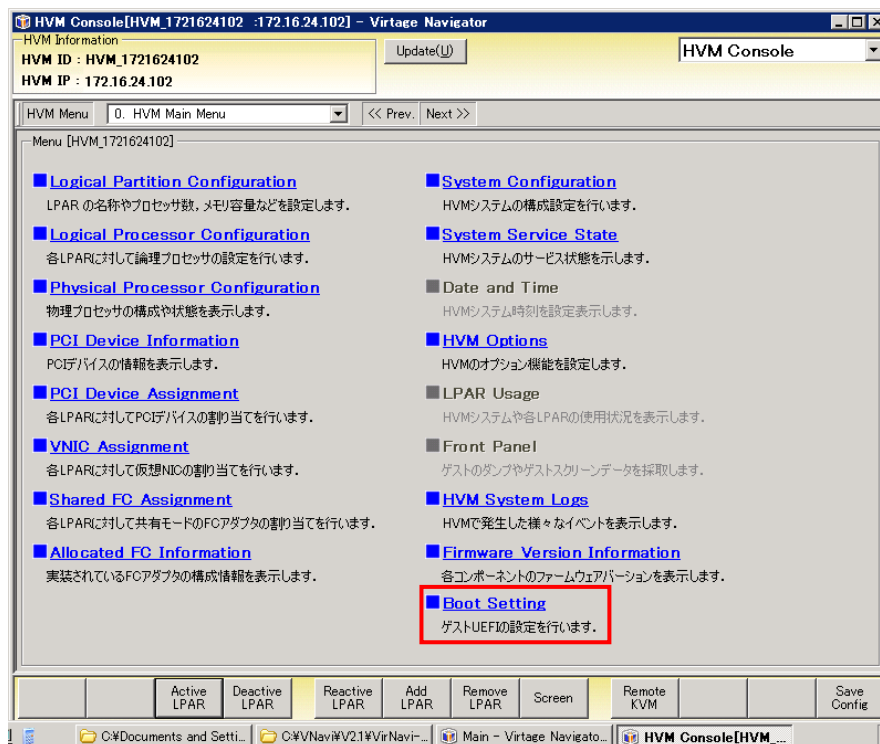


図 3-74 HVM Console ウィンドウ (Boot Setting の選択)

(2) LPAR Select で LPAR を選択します。

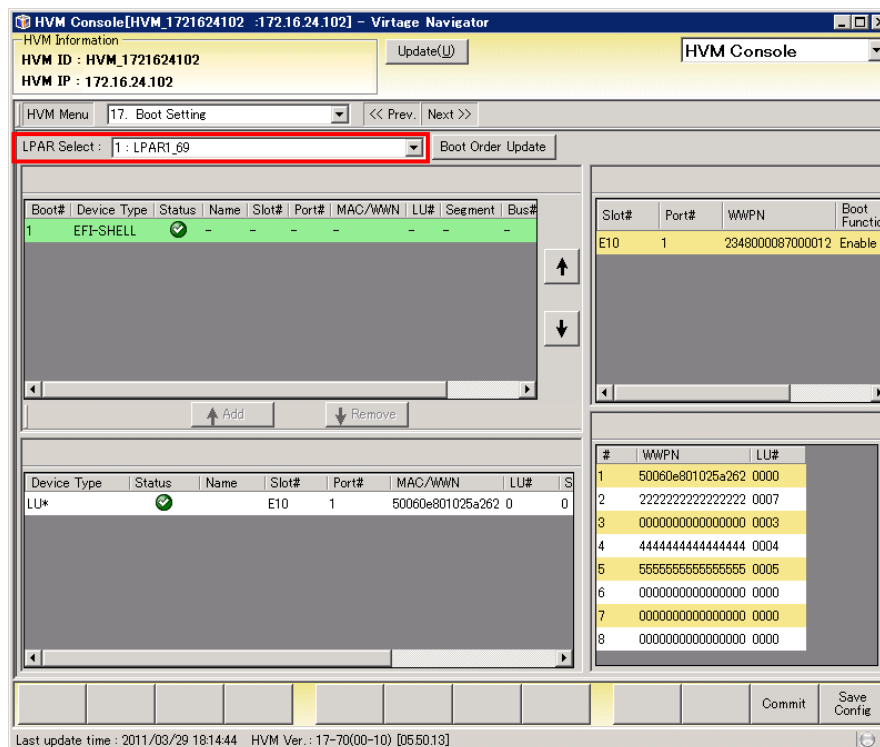


図 3-75 Boot Setting ウィンドウ (LPAR の選択)

(3) FC HBA Setting で、Boot Function 列を選択し、Enable に設定します。

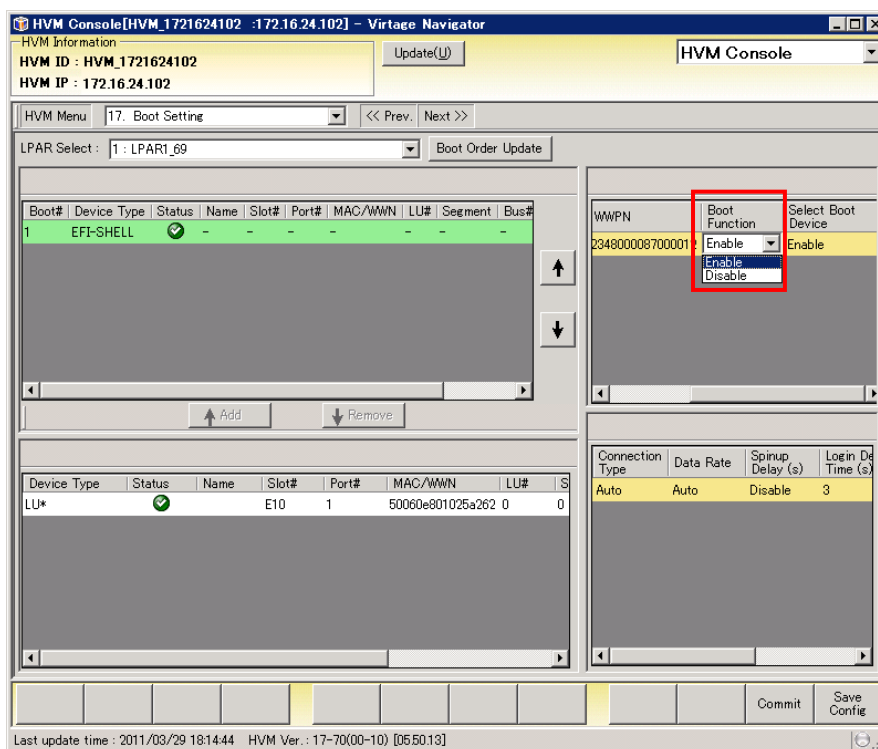


図 3-76 Boot Setting ウィンドウ(Boot Function の設定)

(4) FC HBA Setting で、Boot Device Enable を選択し、Enable に設定します。

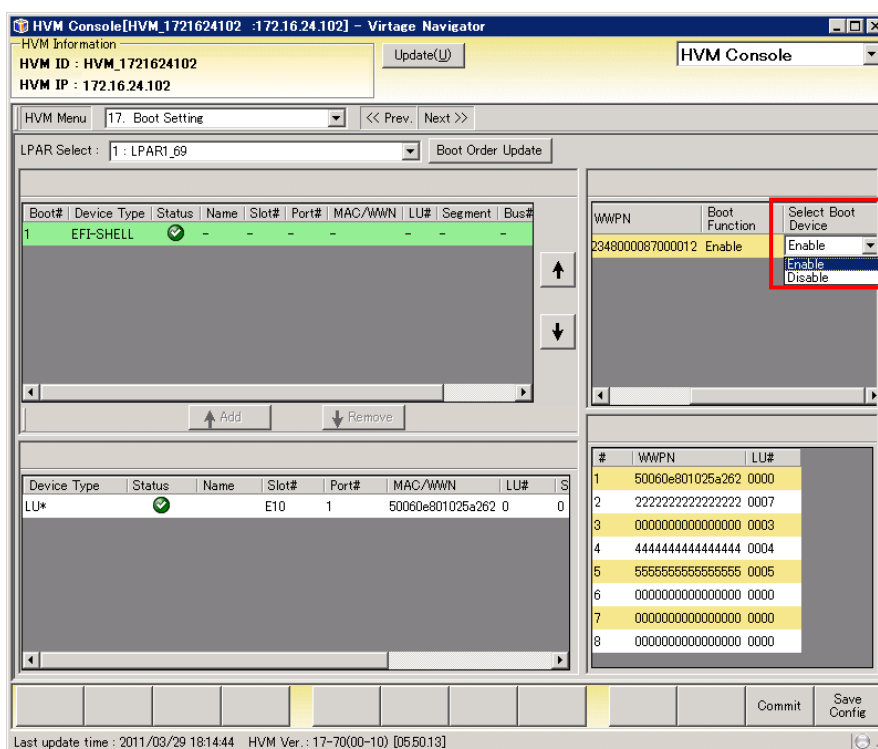


図 3-77 Boot Setting ウィンドウ(Boot Device Enable の設定)

- (5) Detail Setting で、対象となる外付けディスクアレイ装置で使用するポートの WWPN を設定します。

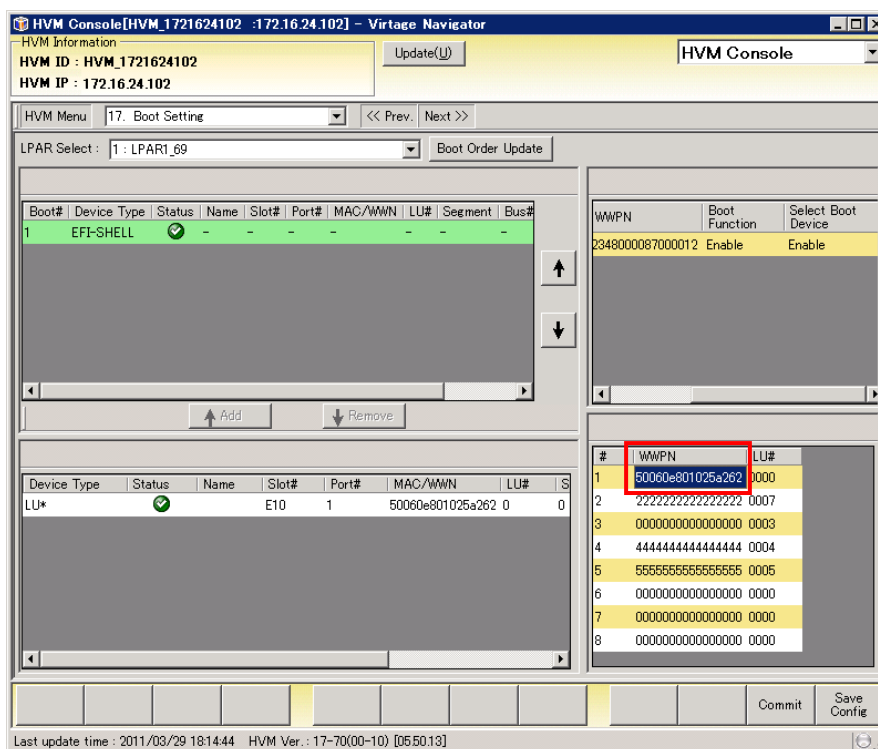


図 3-78 Boot Setting ウィンドウ (WWPN の設定)

- (6) Detail Setting で、対象となる外付けディスクアレイ装置で使用するポートの LU 番号を設定します。

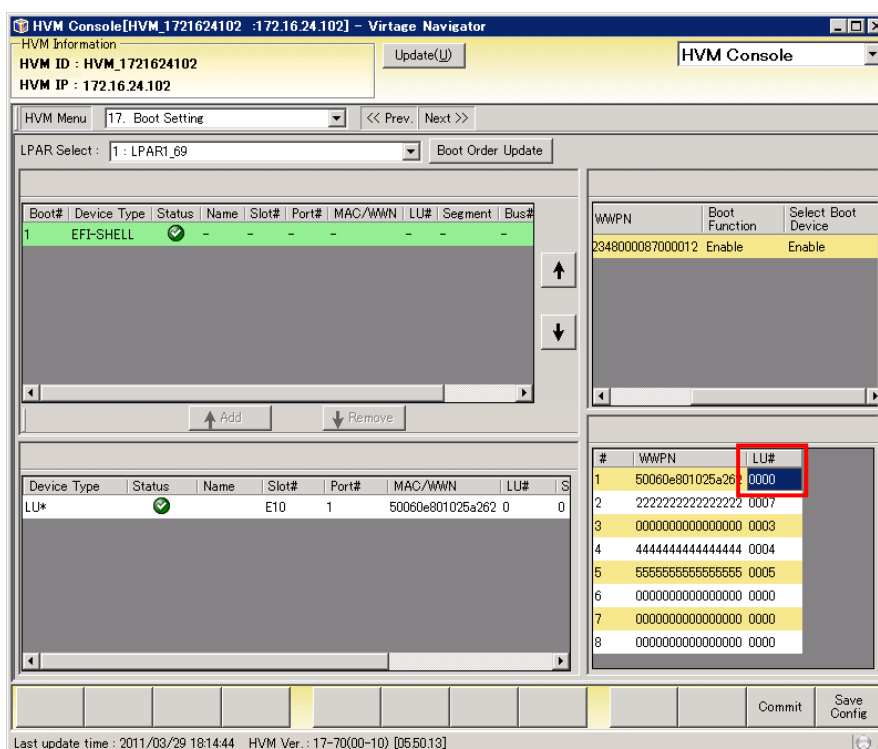


図 3-79 Boot Setting ウィンドウ (LUN 番号の設定)

3.3.2.2 リモートコンソールアプリケーションへの接続

(1) HVM Console メニューで、Remote KVM ボタンをクリックします。

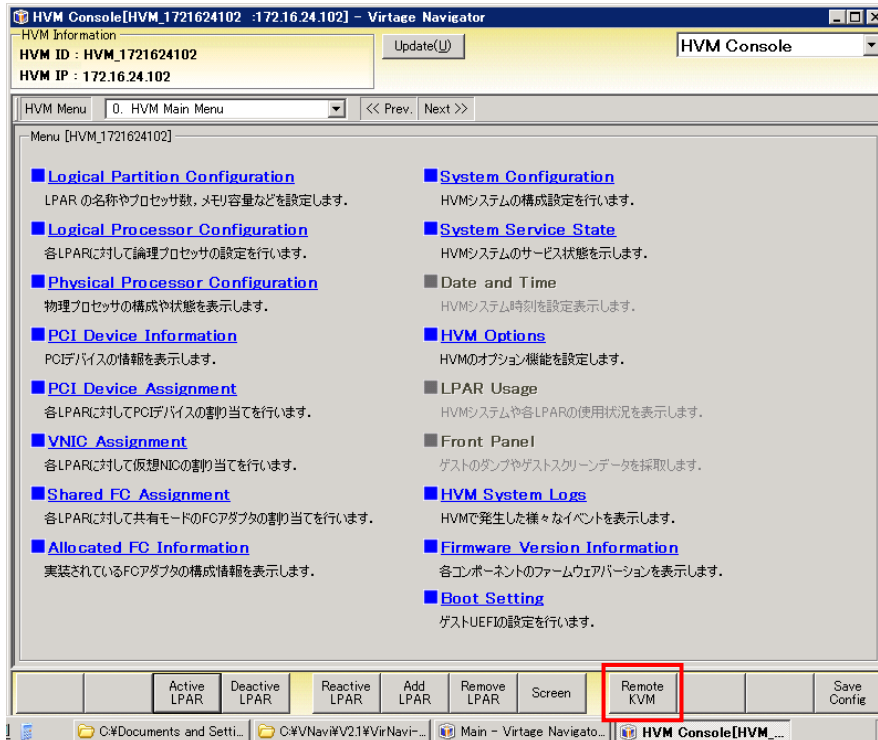


図 3-80 HVM Console ウィンドウ(Logical Partition Configuration の選択)

(2) 接続する LPAR を選択します。

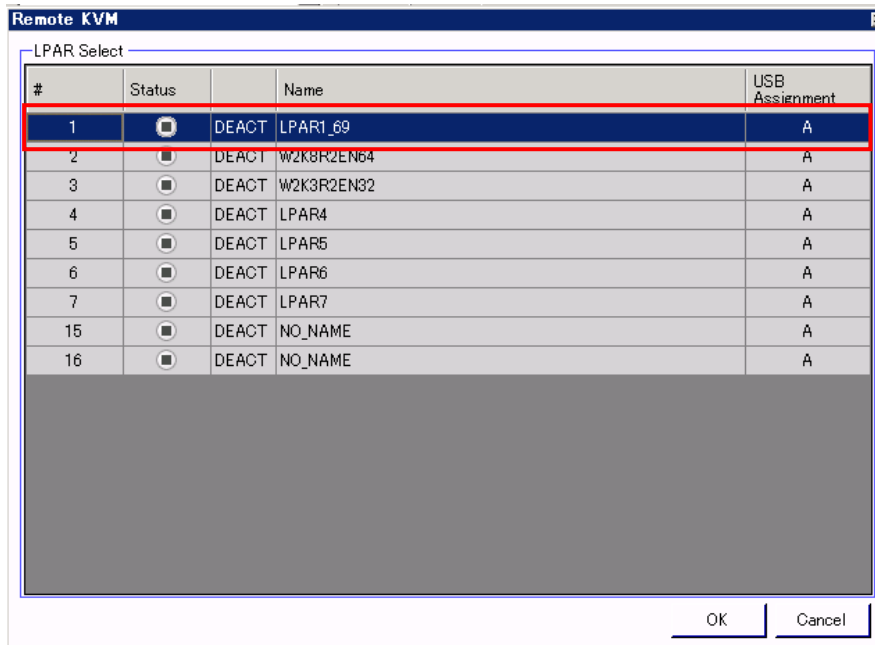


図 3-81 Remote KVM ウィンドウ(接続 LPAR の選択)

(3) OK ボタンをクリックします。

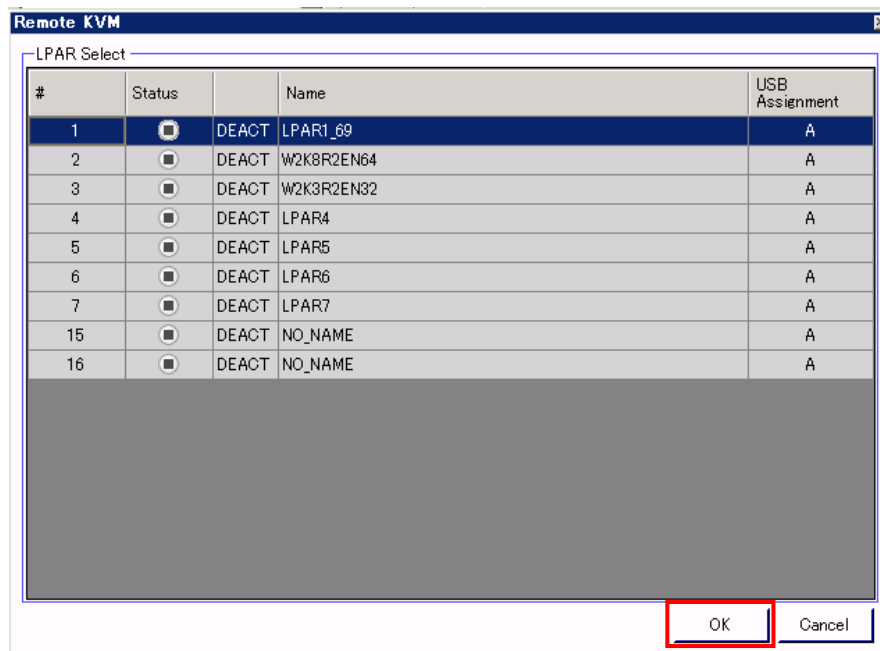


図 3-82 Remote KVM ウィンドウ (OK ボタンのクリック)

(4) ユーザ ID、パスワードを入力します。

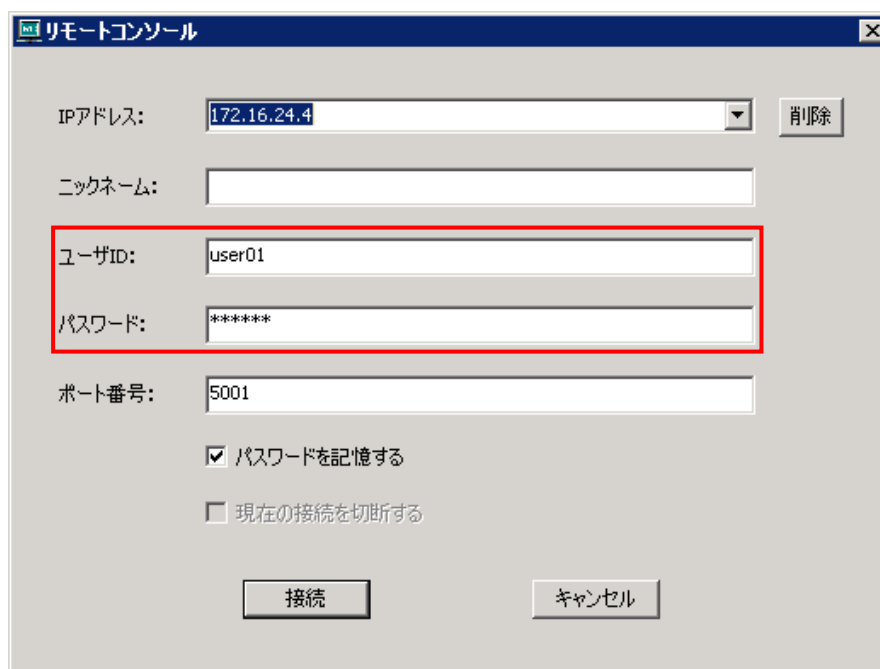


図 3-83 リモートコンソールウィンドウ (接続設定)

(5) 接続ボタンをクリックします。

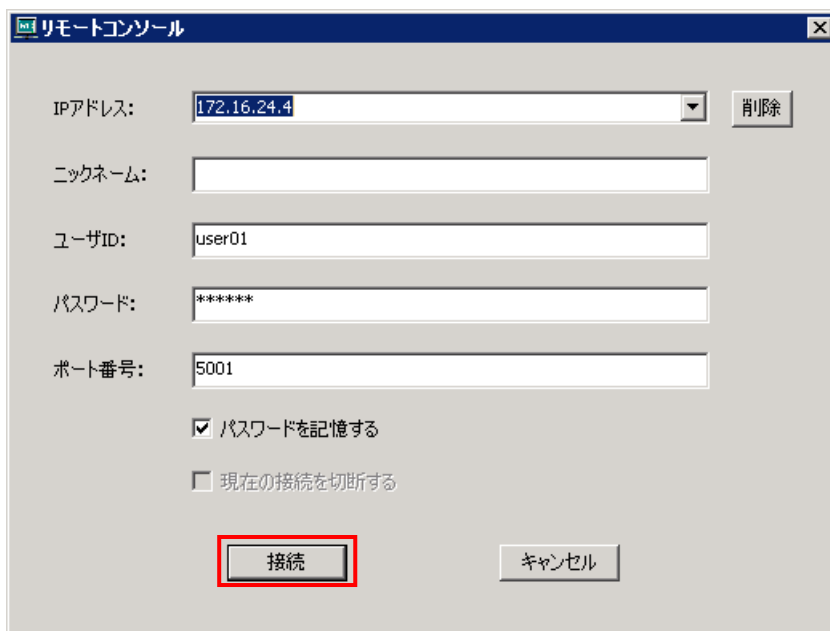


図 3-84 リモートコンソールウィンドウ(接続ボタンのクリック)

リモートコンソールの画面が表示され、リモートコンソールウィンドウが出ます。

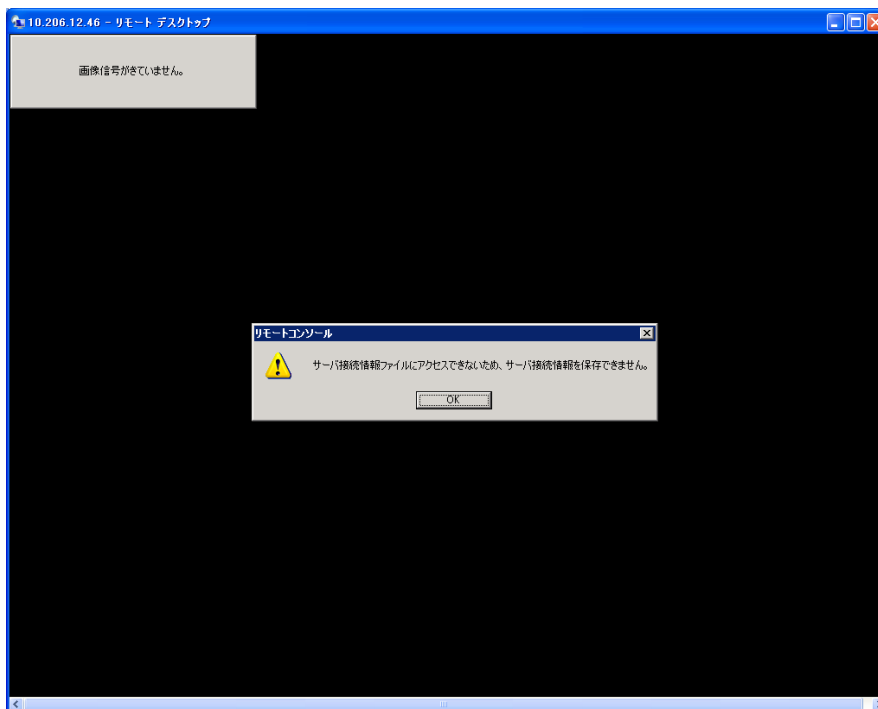


図 3-85 リモートコンソールの表示

(6) リモートコンソールウィンドウで、OK ボタンをクリックします。

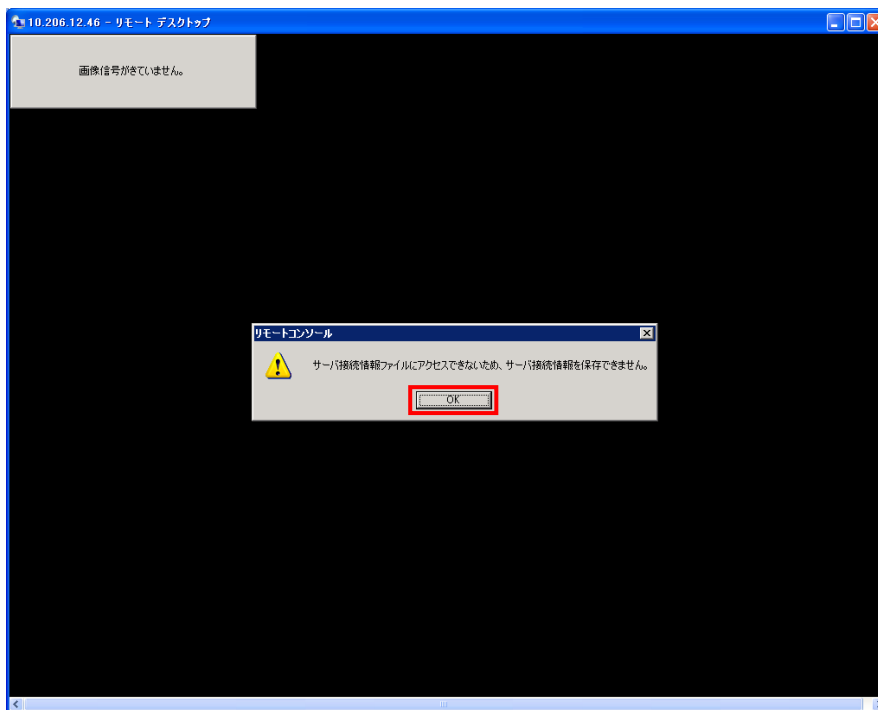


図 3-86 リモートコンソールウィンドウ (OK ボタンのクリック)

※リモート CD/DVD (ドライブ)、またはリモート CD/DVD (イメージ) を使用する場合は (8) に進んでください。
フロント USB を使用する場合は (11) に進んでください。

(7) Alt キーを押しながら、G ボタンを押します。

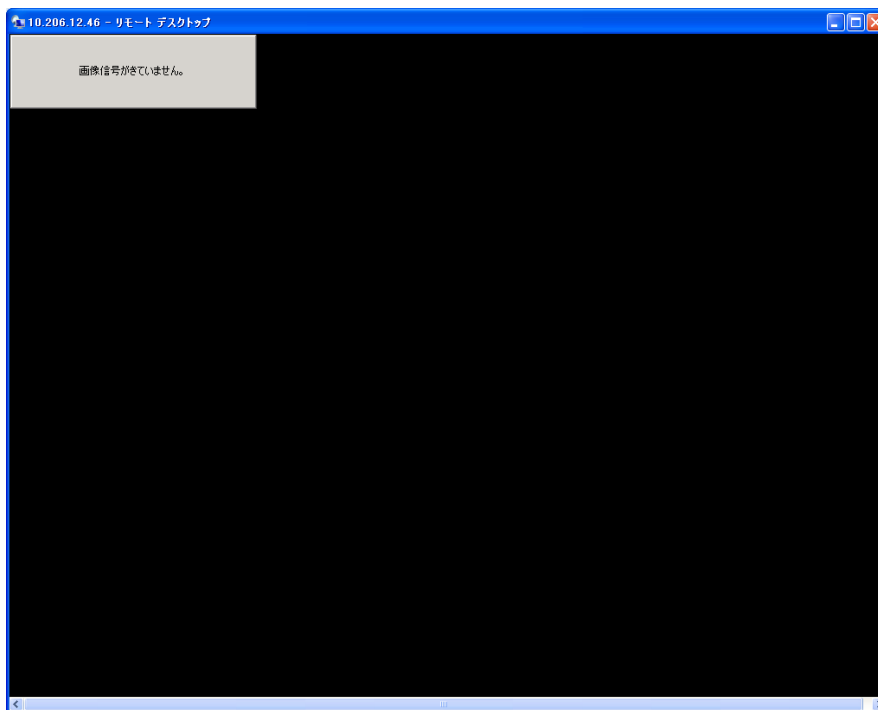


図 3-87 リモートコンソール (メニューバー表示)

(8) リモートコンソールのメニューバーから[CD/DVD 操作]–[CD/DVD 選択]を選択します。

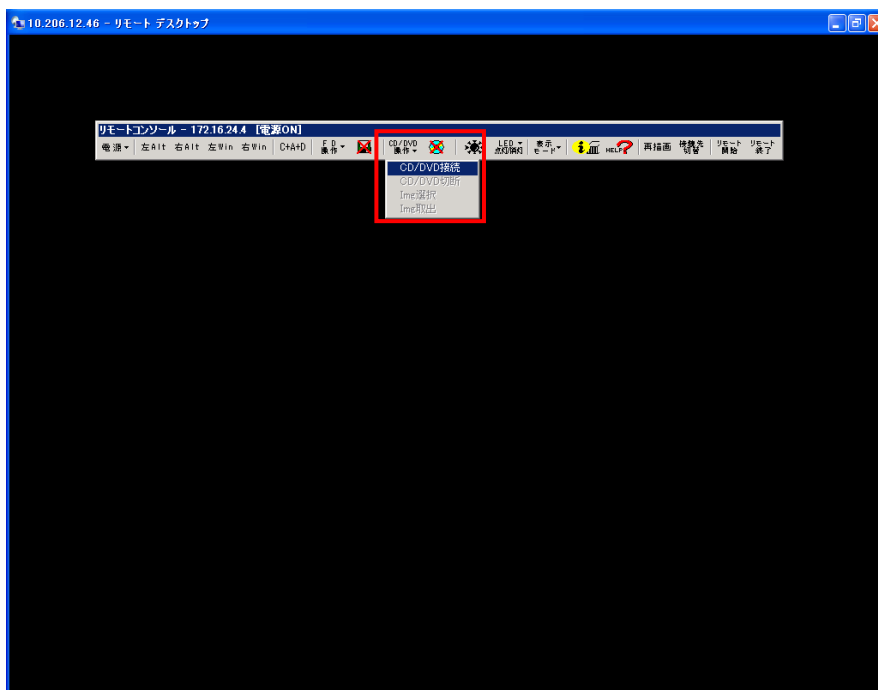


図 3-88 リモートコンソール(CD/DVD 選択)

(9) ドライブ/イメージ選択ウインドウで、以下の操作をします。

(a) リモート CD/DVD (ドライブ) を使用する場合

CD/DVD ドライブを選択します。

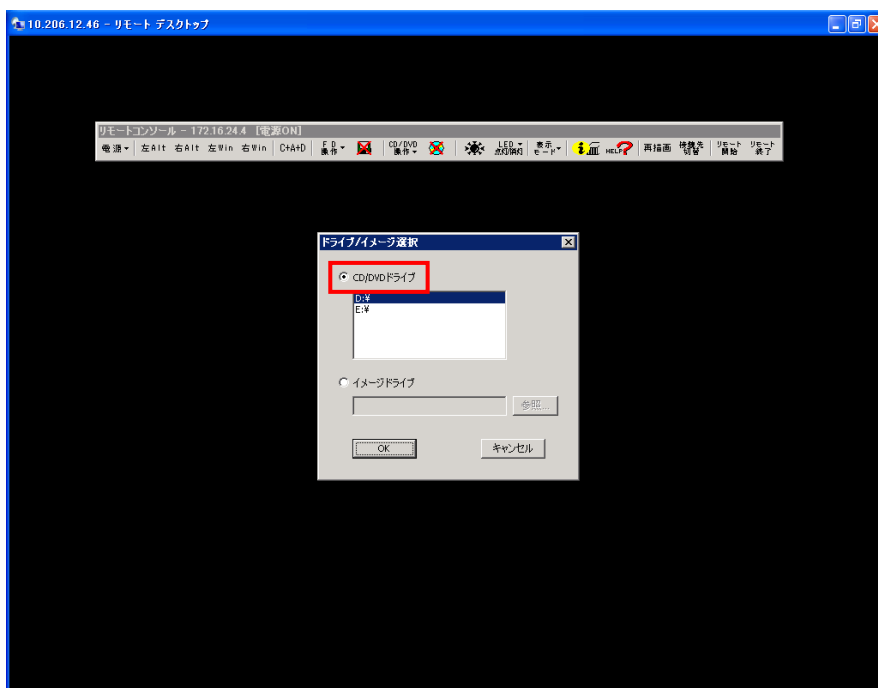


図 3-89 ドライブ/イメージ選択ウインドウ(CD/DVD ドライブの選択)

ドライブを選択します。

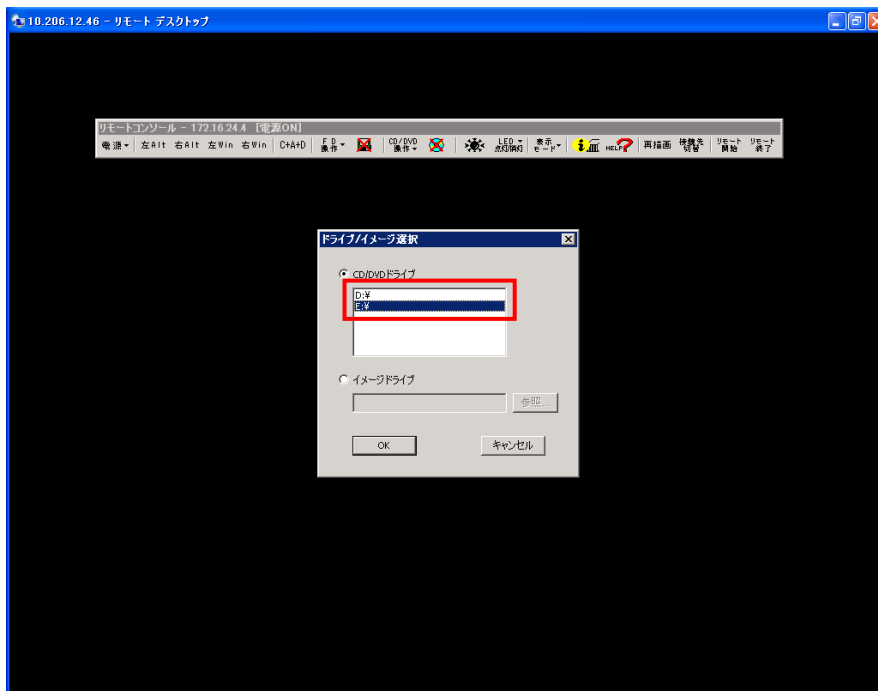


図 3-90 ドライブ/イメージ選択ウインドウ(ドライブの選択)

OK ボタンをクリックします。

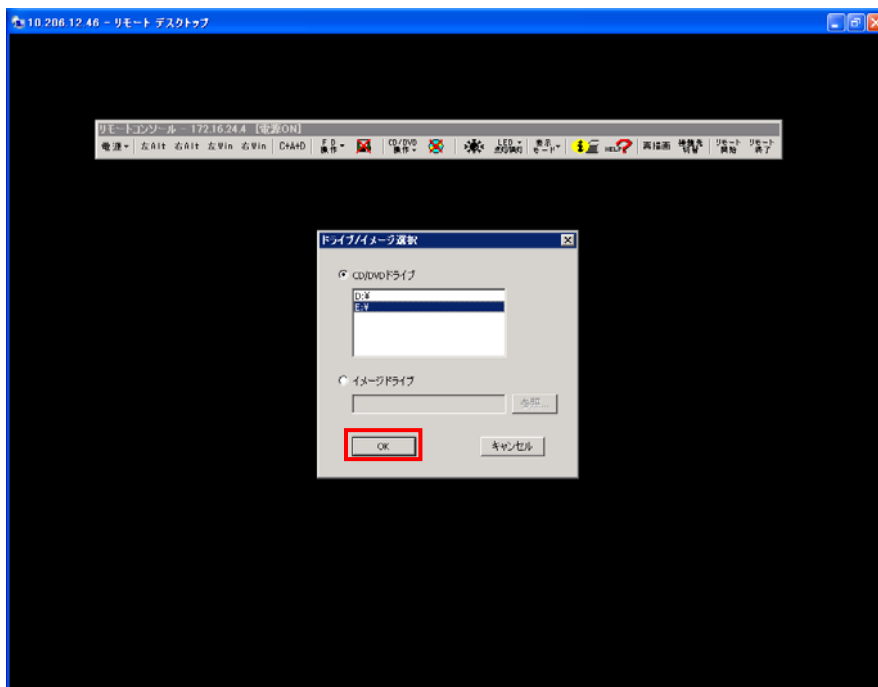


図 3-91 ドライブ/イメージ選択ウインドウ(OK ボタンのクリック)

- (b) リモート CD/DVD(イメージ)を使用する場合
イメージファイルを選択します。

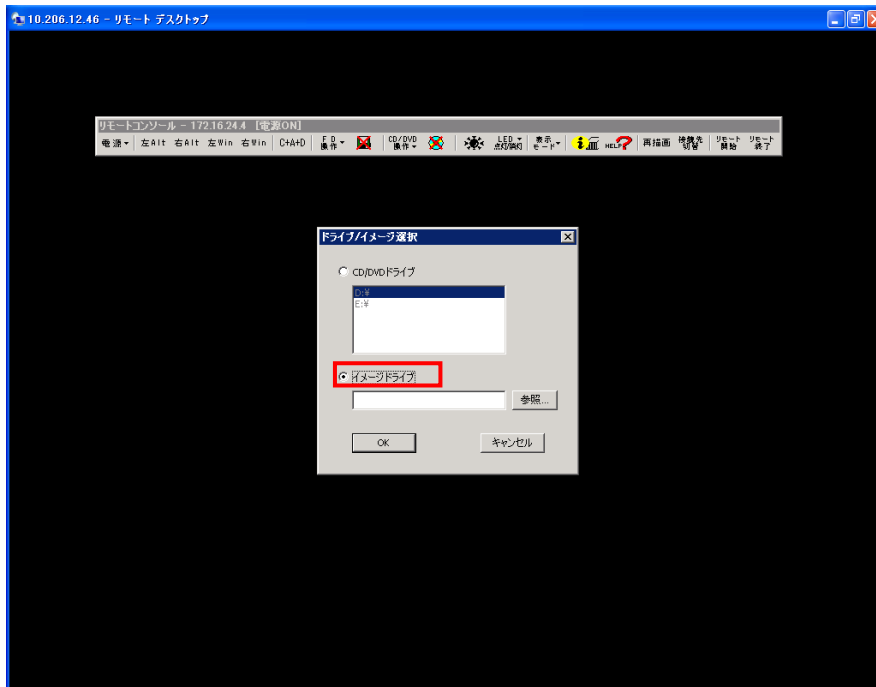


図 3-92 ドライブ/イメージ選択ウインドウ(イメージドライブの選択)

参照... をクリックし、OS メディアを選択します。

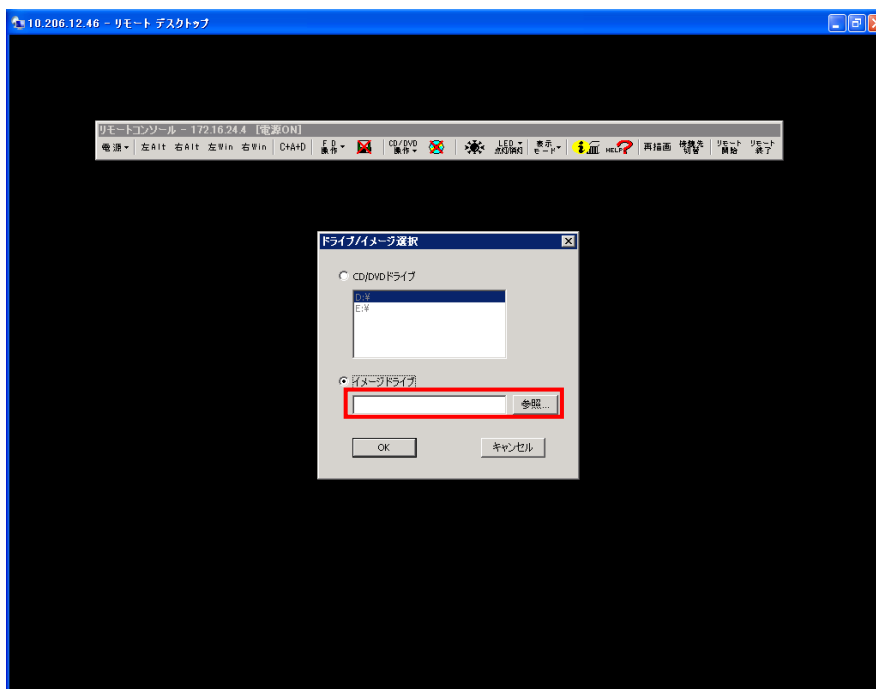


図 3-93 ドライブ/イメージ選択ウインドウ(OS メディアの選択)

OK ボタンをクリックします。

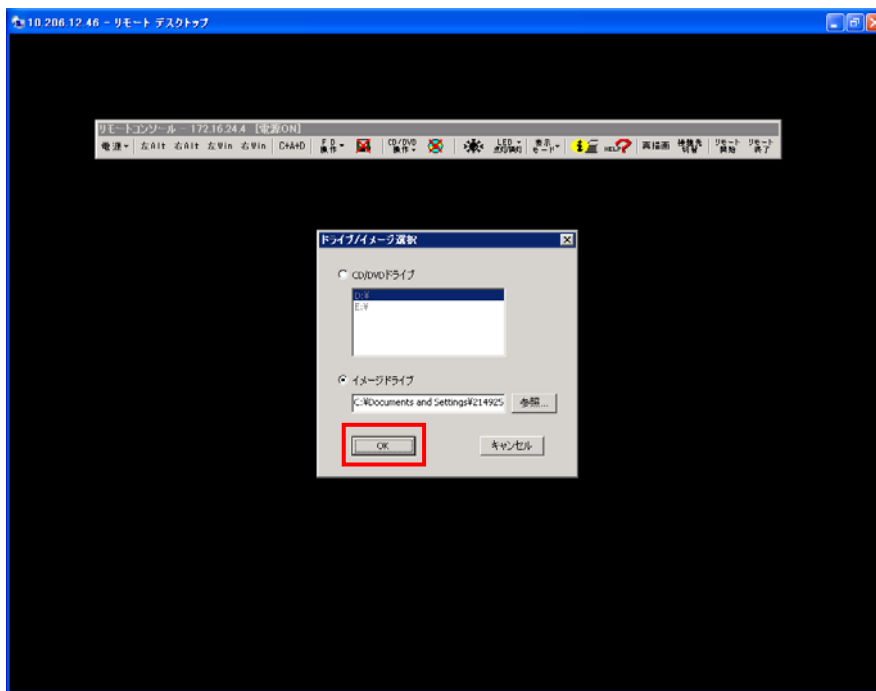


図 3-94 ドライブ/イメージ選択ウインドウ (OK ボタンのクリック)

(10) Alt キーを押しながら、Q ボタンを押します。

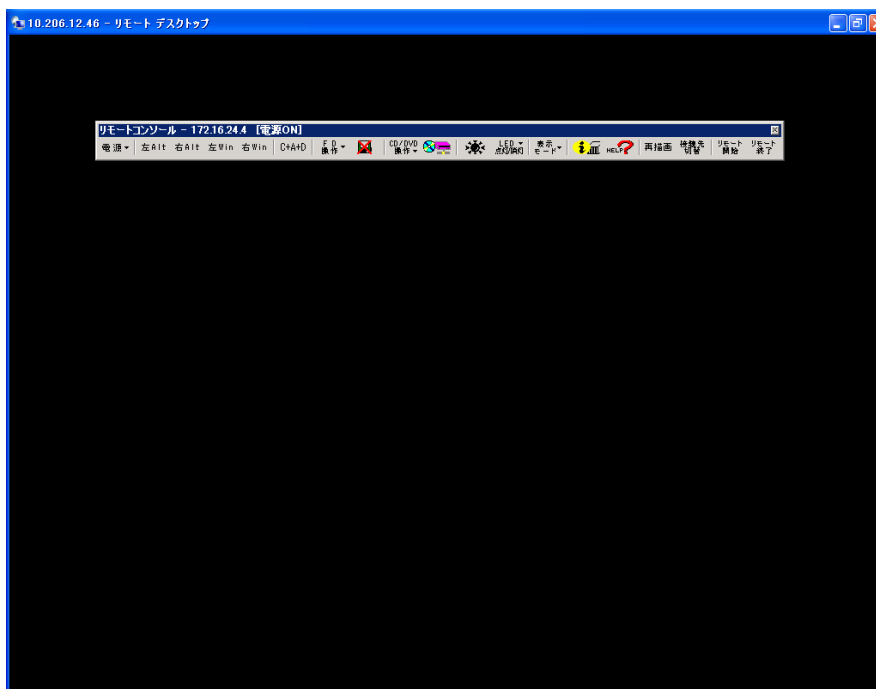


図 3-95 リモートコンソール (全画面表示の解除)

(11) リモートコンソールを最小化します。

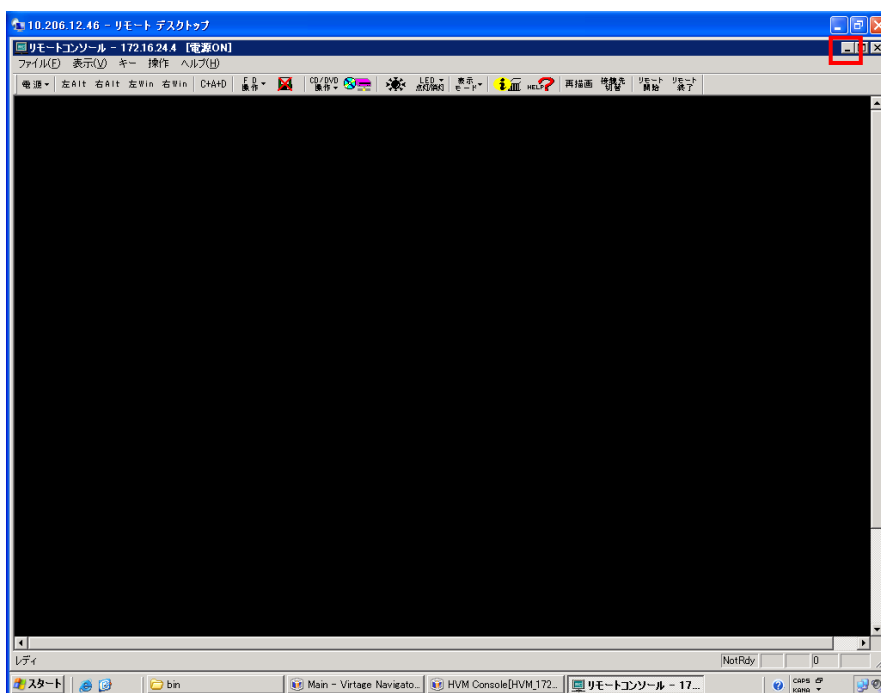


図 3-96 リモートコンソール(リモートコンソールの最小化)

3.3.2.3 ブートデバイスの選択

Virtage Navigator では、ブートデバイスタイプを 6 種類に分類しています。

FC デバイスブート、前面 USB-CD/DVD デバイスブート、KVM-CD/DVD デバイスブート、ネットワークデバイスブート (PXE ブート)、および EFI Shell ブートのブートオプションがあります。

なお、以前ブートデバイスに設定したデバイスで、現在未割り当てとなっているデバイスが Unknown になります。

表 3-3 ブートデバイスタイプの種類

No.	ブートデバイスタイプ	ブートデバイス種別	用途
1	LU	FC デバイスブート	ゲスト OS の起動
2	CD/DVD-Front	前面 USB-CD/DVD デバイスブート	サーバブレード前面の USB ポート使用
3	CD/DVD-KVM	KVM-CD/DVD デバイスブート	リモート CD/DVD の使用
4	PXE	ネットワークデバイスブート	JP1/SC/DPM の使用
5	EFI-SHELL	EFI Shell ブート	EFI ドライバの設定
6	Unknown	不明	なし

ブートデバイスの選択例を以下に示します。

- (1) Boot Order Update ボタンをクリックします。

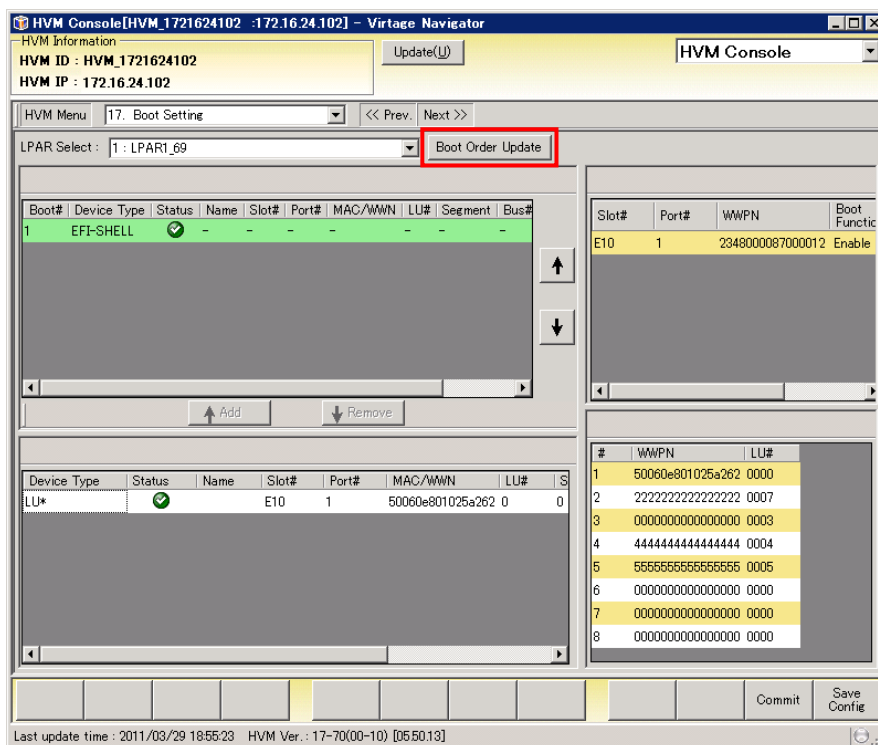


図 3-97 Boot Setting ウィンドウ (Boot Order Update ボタンのクリック)

Update 中は Update ウィンドウが表示されます。

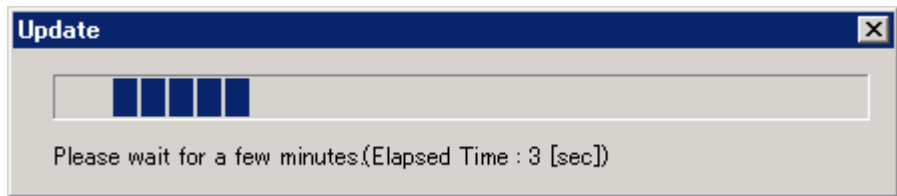


図 3-98 Update ウィンドウ(ブートオーダーの Update 中)

ブートデバイスの候補に CD/DVD-KVM が加わります。

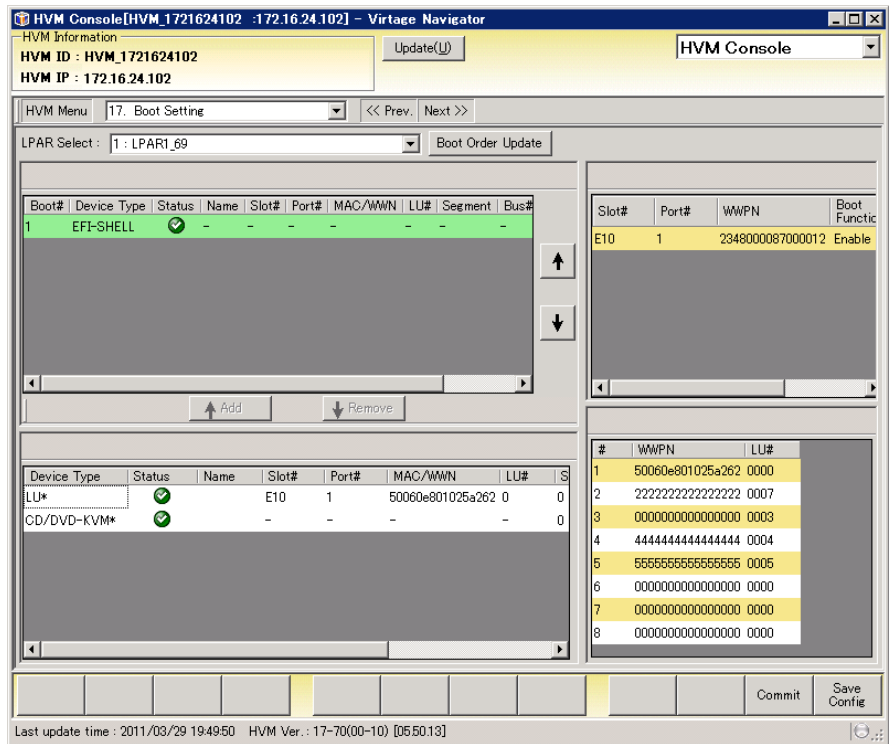


図 3-99 Boot Setting ウィンドウ(ブートデバイスの選択例)

図 3-99 Boot Settingウィンドウ(ブートデバイスの選択例)では、ブートデバイスにEFI-SHELLが設定されていますが、LUとCD/DVD-KVMは設定されていません。ここでは、例としてLUとCD/DVD-KVMをブートデバイスに設定します。

(2) Excluded Boot Order の CD/DVD-KVM を選択します。

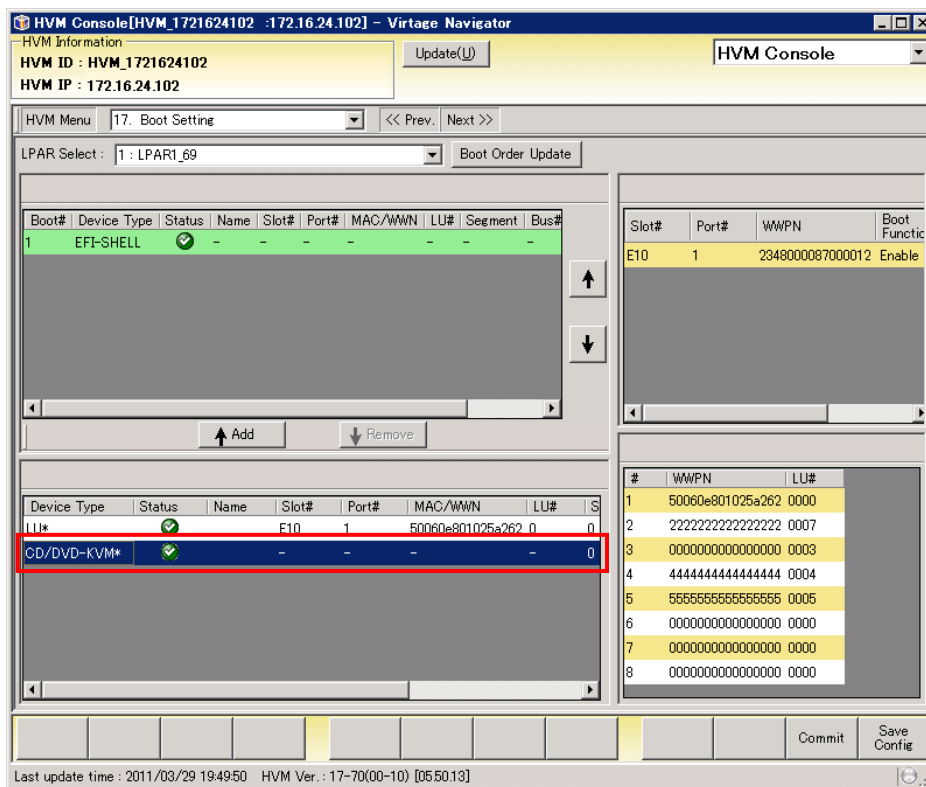


図 3-100 Boot Setting ウィンドウ (CD/DVD-KVM の選択)

(3) Add ボタンをクリックします。

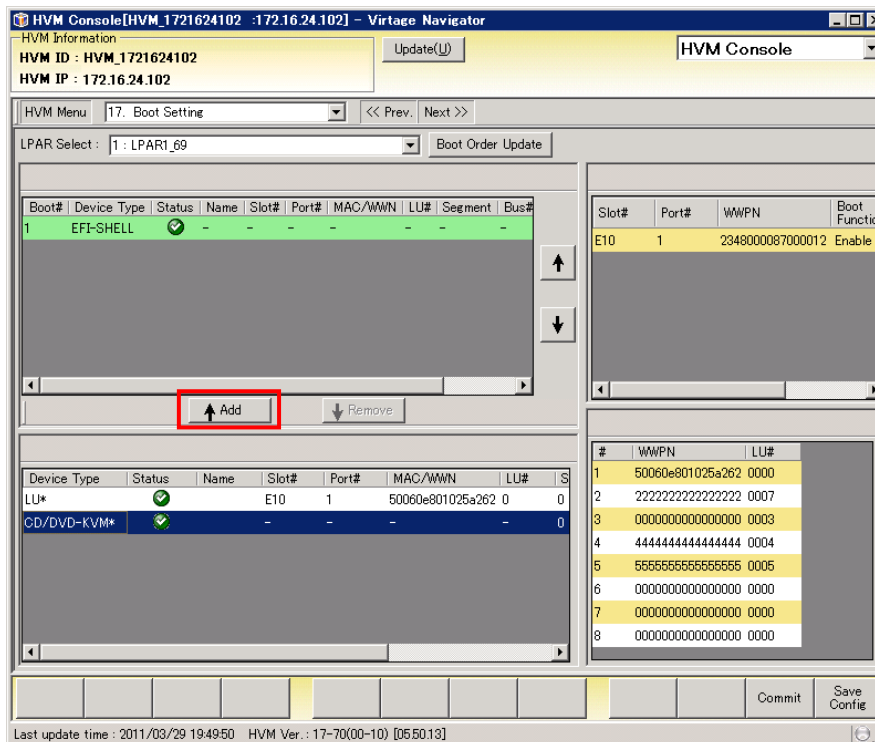


図 3-101 Boot Setting ウィンドウ (Add ボタンのクリック)

CD/DVD-KVM が Boot Order に表示されます。

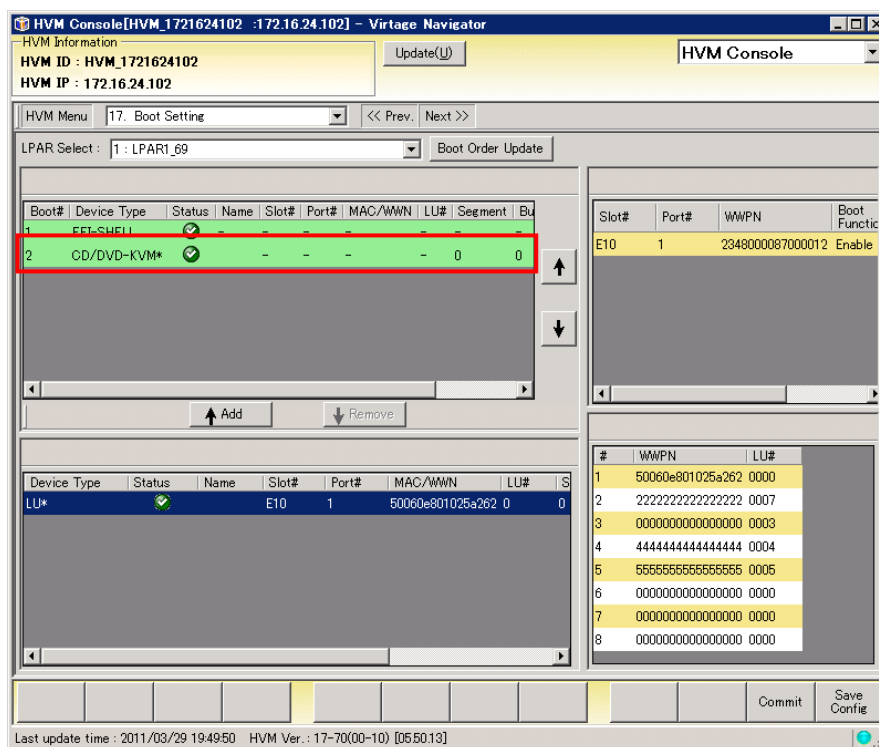


図 3-102 Boot Setting ウィンドウ (CD/DVD-KVM の追加)

同様に、LU もブートデバイスに設定します。

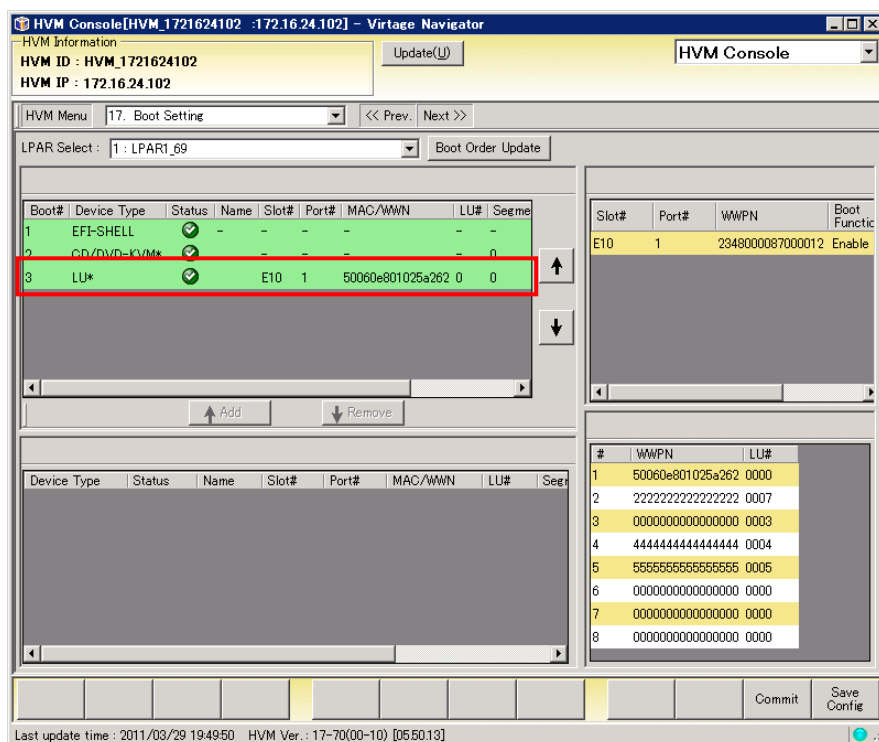


図 3-103 Boot Setting ウィンドウ (LU の追加)

3.3.2.4 ブートオーダーの変更

ブートオーダーを変更することにより、ブートするデバイスの優先順位を指定することができます。
ここでは、CD/DVD-KVM デバイスブートを行う場合のブートオーダーの変更例を示します。

(1) Boot Order の CD/DVD-KVM を選択します。

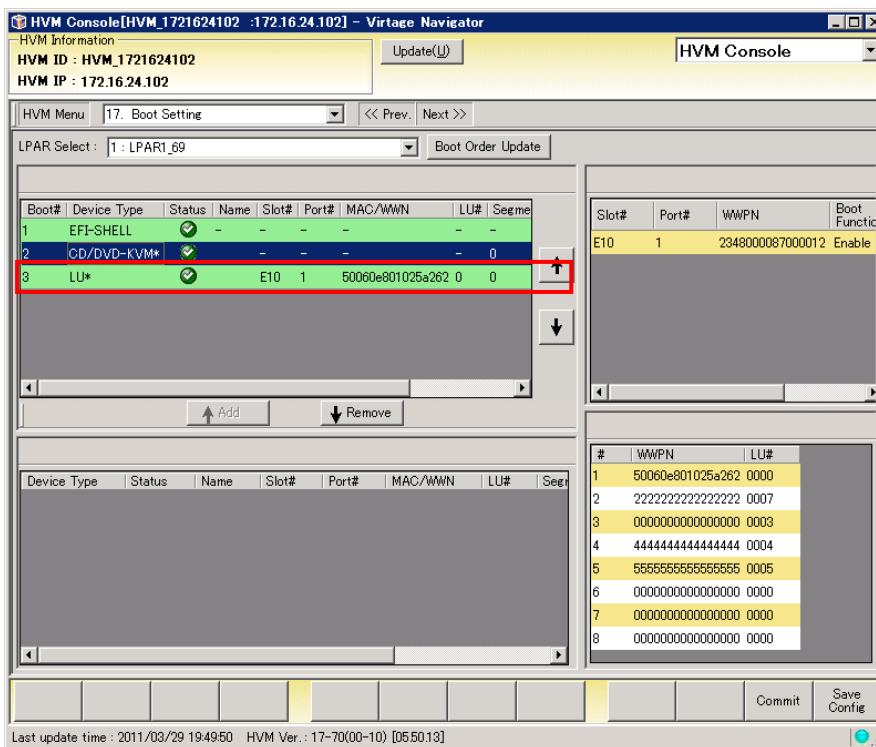


図 3-104 Boot Setting ウィンドウ (CD/DVD-KVM の選択)

(2) CD/DVD-KVM が一番上になるまで「↑」ボタンをクリックします。

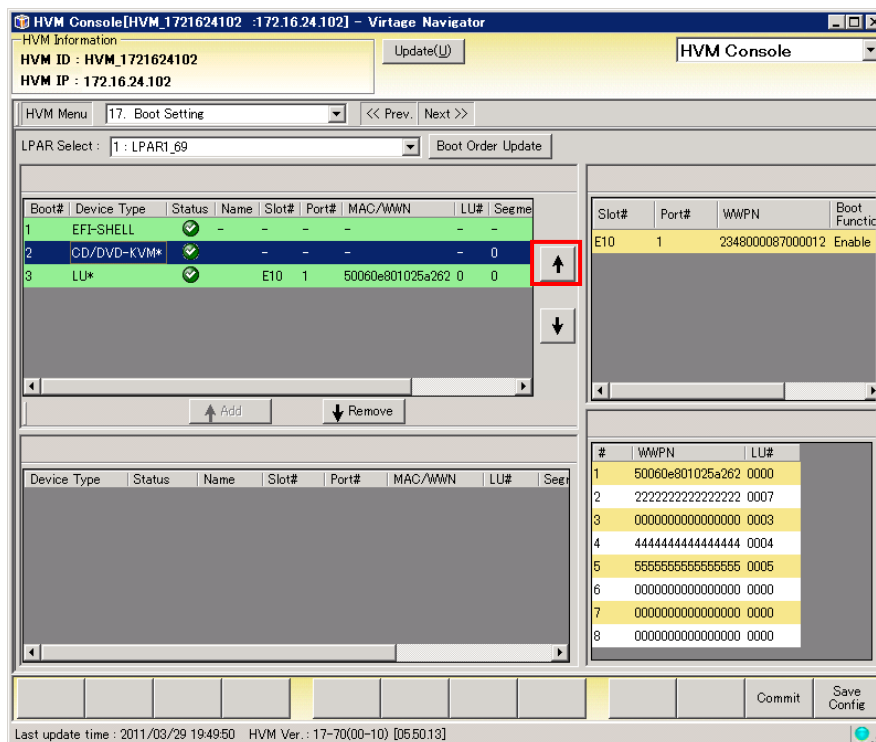


図 3-105 Boot Setting ウィンドウ (CD/DVD-KVM のブートオーダーの変更)

この場合、1 回「↑」ボタンをクリックすると、CD/DVD-KVM が一番上になります。
 CD/DVD-KVM を一番上に設定すると、CD/DVD-KVM デバイスブートになります。

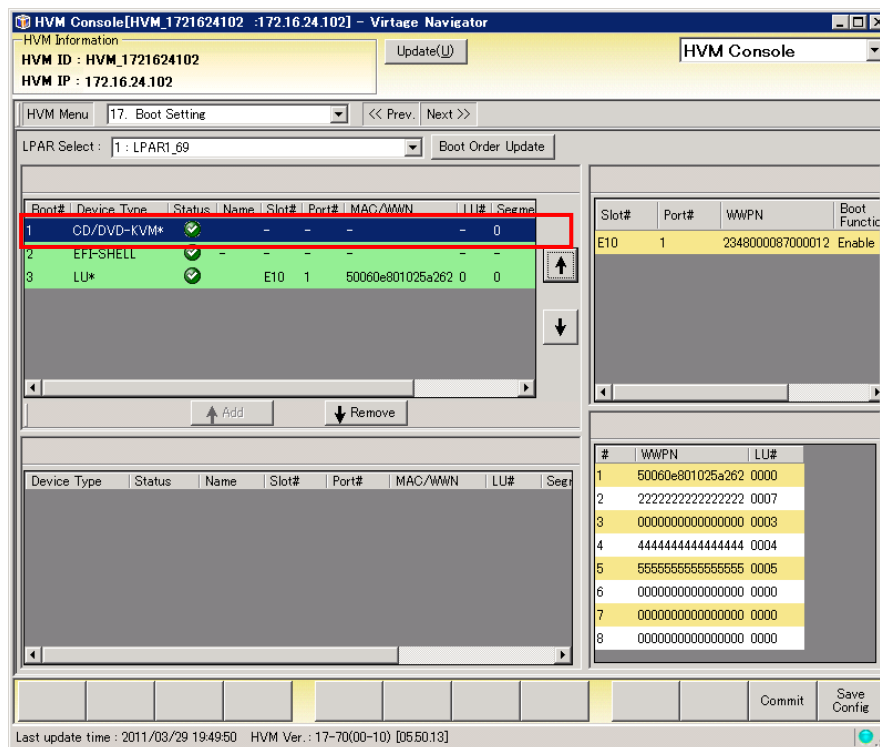


図 3-106 Boot Setting ウィンドウ (CD/DVD-KVM デバイスブート設定の完了)

3.3.3 LPARの起動

(1) HVM Console メニューで Logical Partition Configuration を選択します。

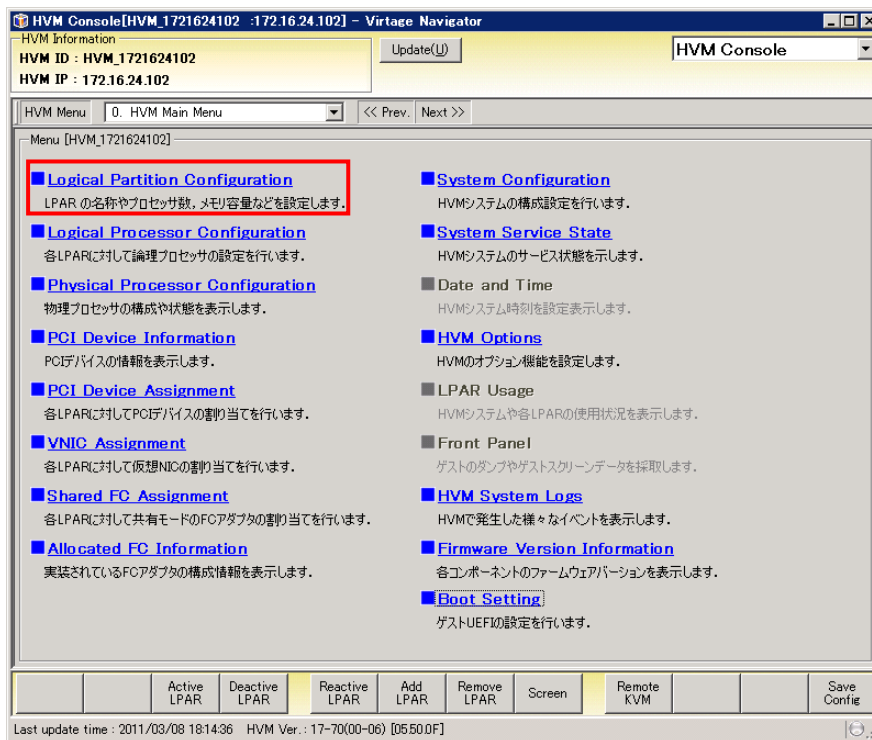


図 3-107 HVM Console ウィンドウ(Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Active LPAR ボタンをクリックします。

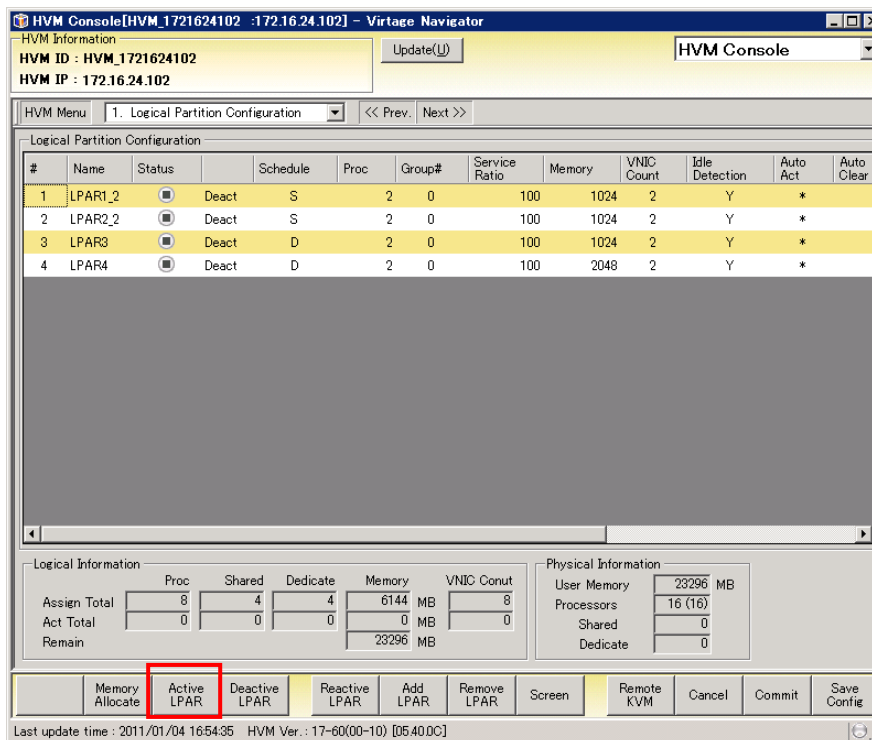


図 3-108 HVM Console ウィンドウ(Active LPAR ボタンのクリック)

(3) 作成した LPAR を選択し、OK ボタンをクリックします。

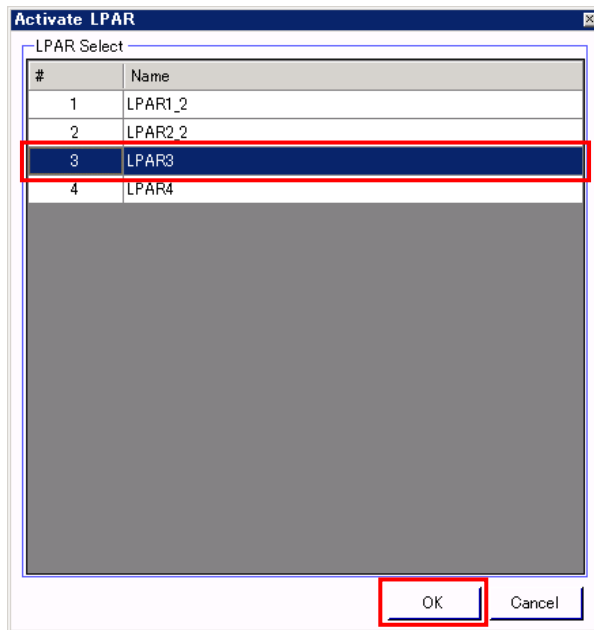


図 3-109 Activate LPAR ウィンドウ (起動する LPAR の選択)

(4) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

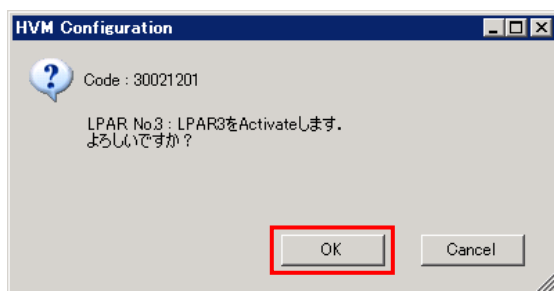


図 3-110 HVM Configuration ウィンドウ (起動する LPAR の確認)

LPAR が起動されます。

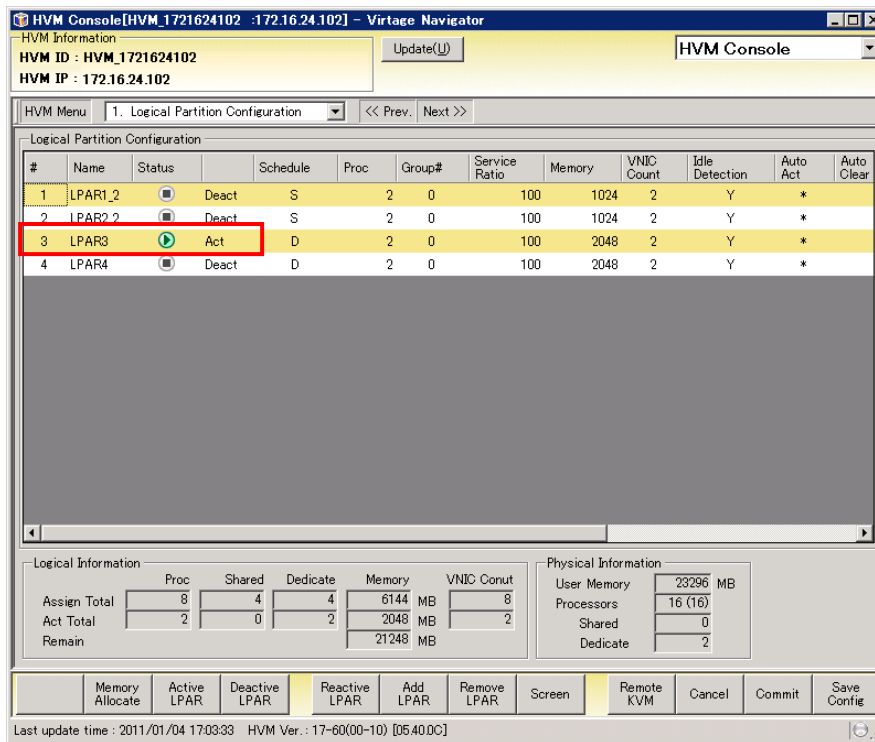


図 3-111 HVM Console ウィンドウ (LPAR の起動)

3.3.4 OSのインストール

3.3.2.2リモートコンソールアプリケーションへの接続の操作を行った後、OSインストールを行う場合は、「Virtage OSインストール手順書」をご参照ください。

(1) HVM Console メニューで Logical Partition Configuration を選択します。

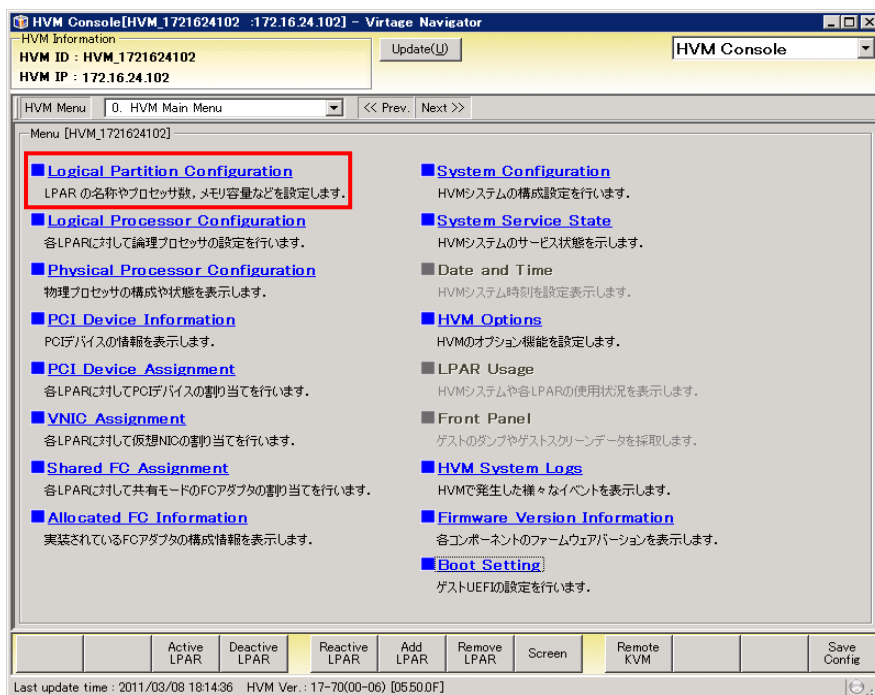


図 3-112 HVM Console ウィンドウ(Logical Partition Configuration の選択)

(2) Logical Partition Configuration で Remote KVM ボタンをクリックします。

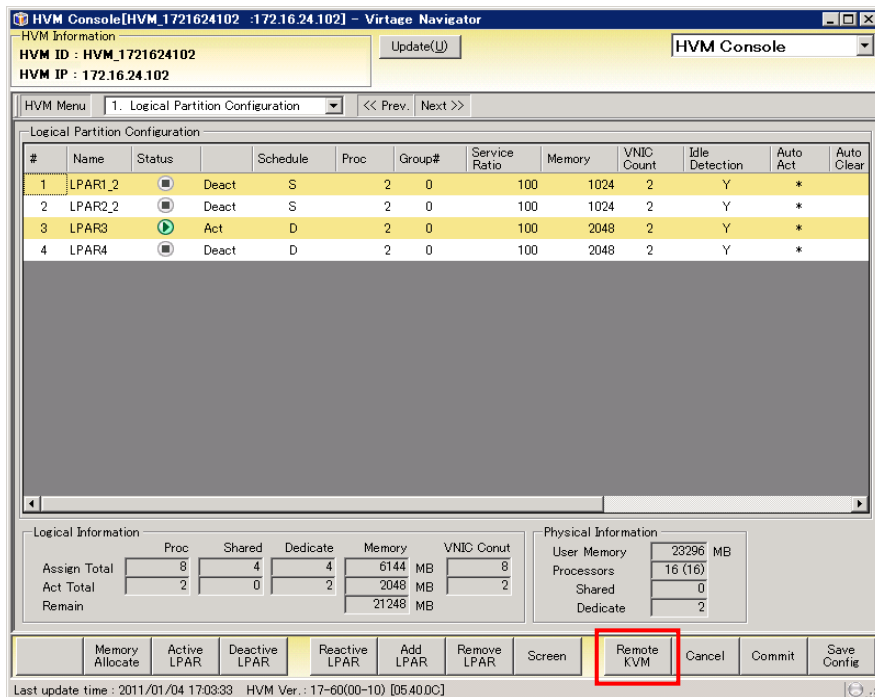


図 3-113 HVM Console ウィンドウ(Remote KVM ボタンのクリック)

(3) Remote KVM コンソールが起動されるので、接続ボタンをクリックします。

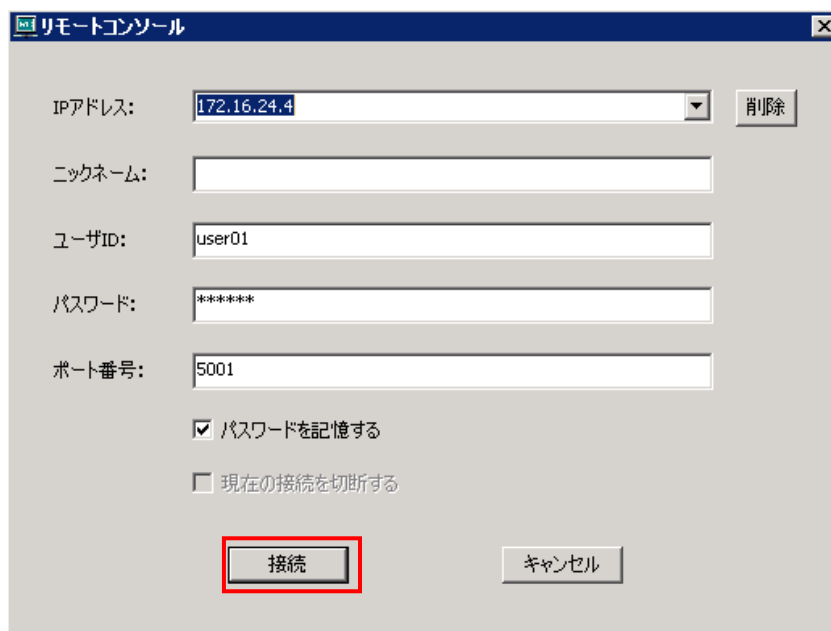


図 3-114 HVM Console ウィンドウ (Remote KVM 接続画面)

(4) フルスクリーンでゲスト論理 EFI のスクリーンが表示されます。

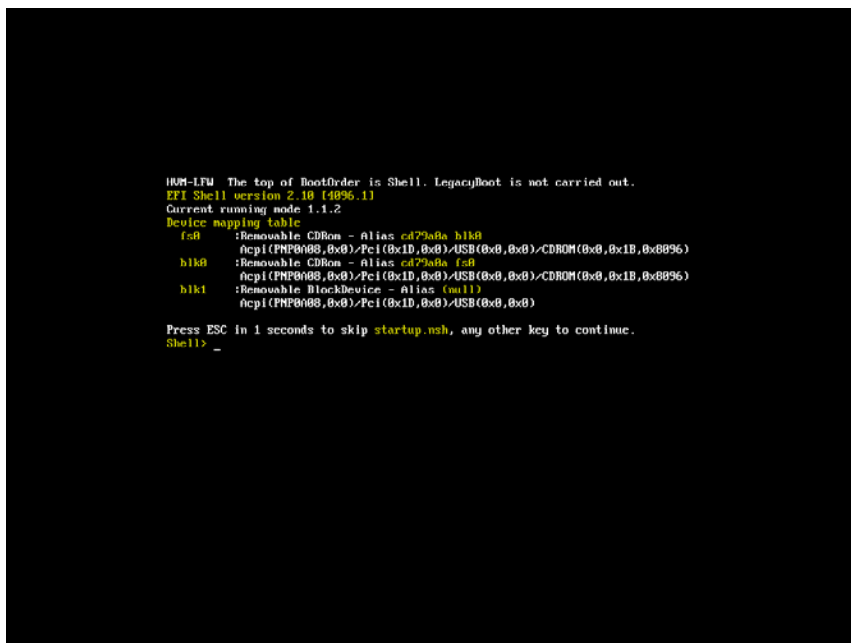


図 3-115 HVM Console ウィンドウ (ゲスト論理 EFI の開始画面 (フルスクリーン))

以降の OS インストール手順については「Virtage OS インストール手順書」をご参照ください。

3.4 関連コンソール起動

- (1) LPAR Configuration メニューの画面左側の HVM Select で HVM ID を選択し、画面右側の Related Console ボタンをクリックします。

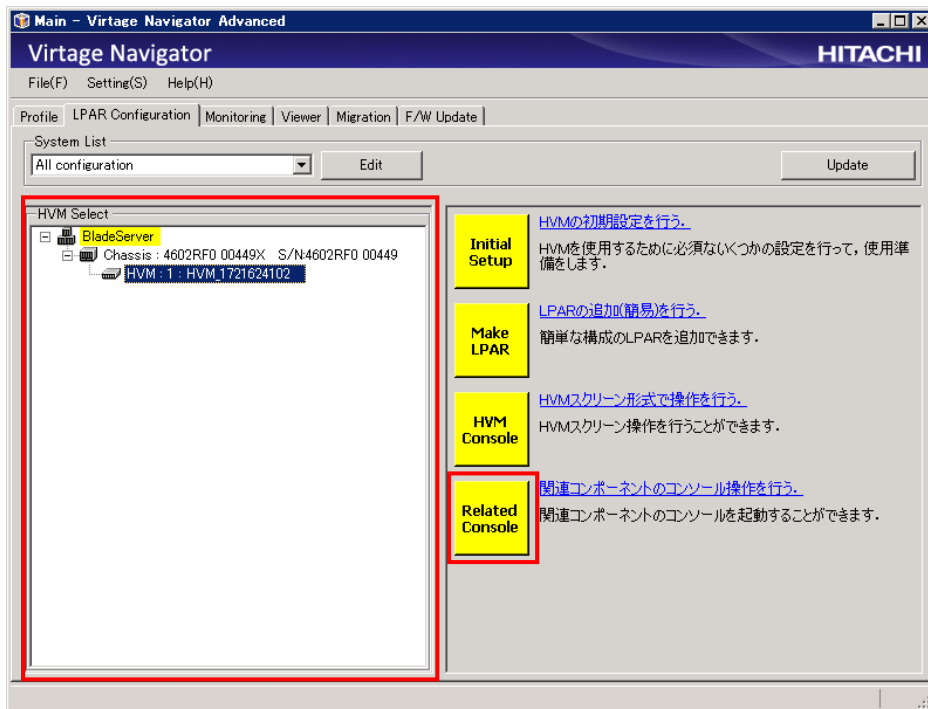


図 3-116 LPAR Configuration ウィンドウ (Related Console の開始)

Related Console のメニューが表示されます。

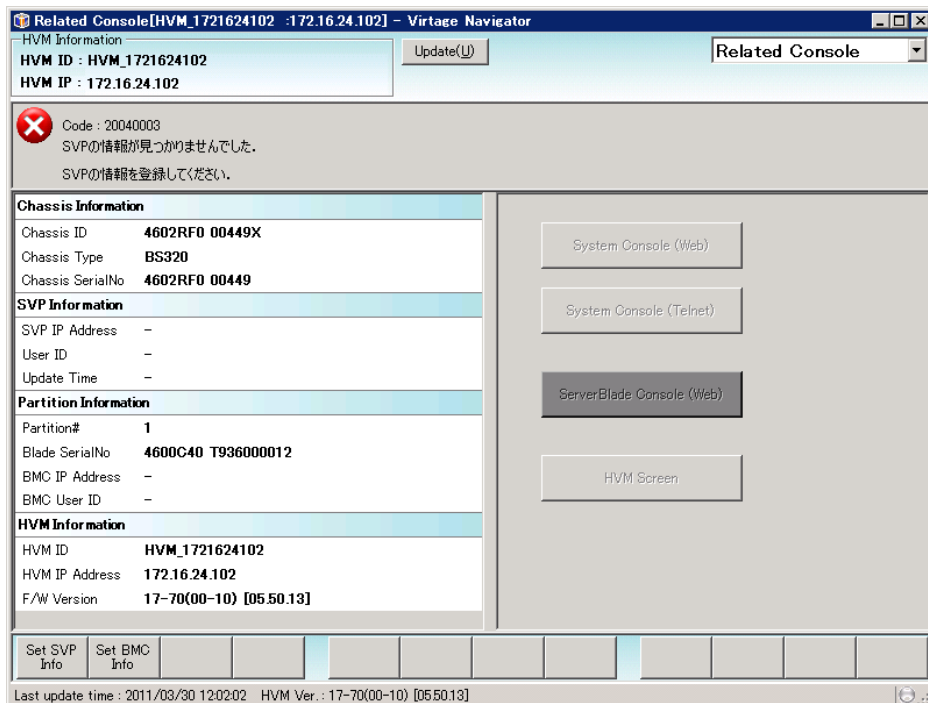


図 3-117 Related Console ウィンドウ (Related Console)

3.4.1 関連コンソールを使えるようにするには

Virtage Navigatorから呼び出せる関連コンソールは4つあり、呼び出すためにはそれぞれ以下の設定が必要です。なお、3.1HVM導入時の初期起動を行った場合、設定する必要はありません。

表 3-4 関連コンソールの呼び出し設定

No.	関連コンソール	必要設定	対応機種	
			BS320	BS2000
1	System Console (Web)	SVP IP の設定	○	○
2	System Console (Telnet)	SVP IP の設定	○	○
3	ServerBlade Console (Web)	BMC IP の設定	×	○
4	HVM Screen	【BS320 の場合】 SVP IP の設定 【BS2000 の場合】 BMC IP の設定	○	○

○:サポート, ×:未サポート

注意) SVP IP の設定、BMC IP の設定を行う際は、設定値をよくご確認ください。

設定を誤った場合、関連コンソールを起動することができません。

3.4.1.1 SVP IPの設定

(1) Set SVP Info ボタンをクリックします。

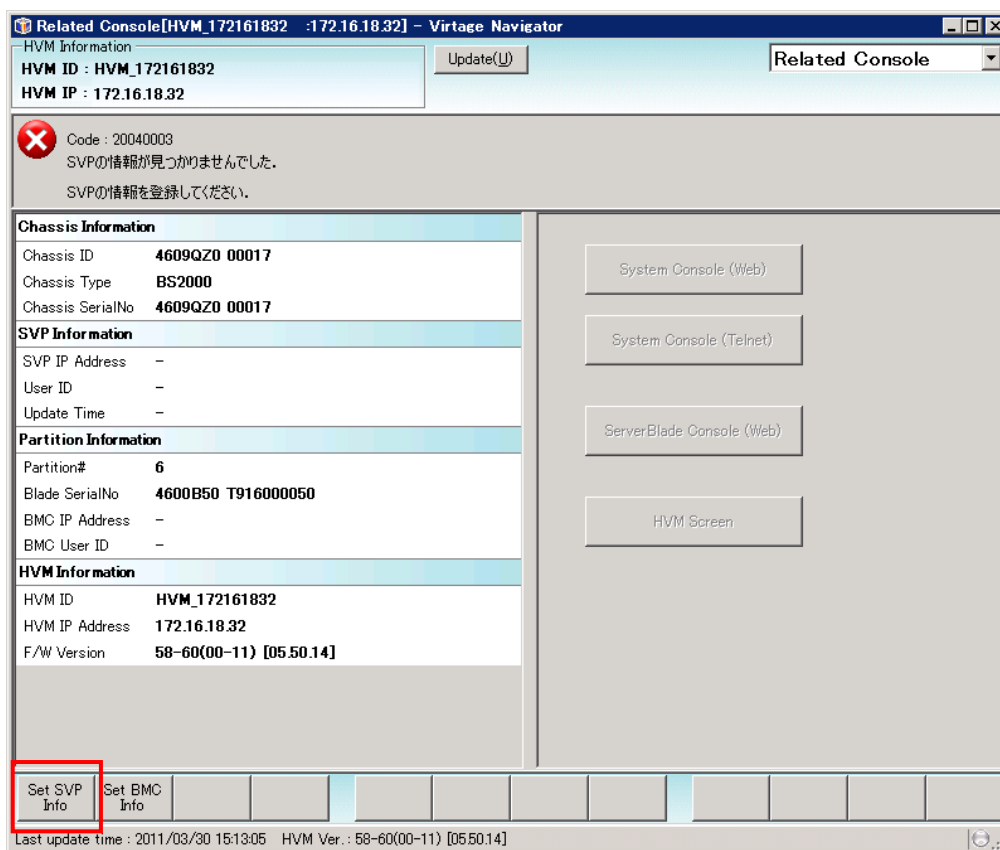


図 3-118 Related Console ウィンドウ(Set SVP Info ボタンのクリック)

Set SVP Info ウィンドウが表示されます。

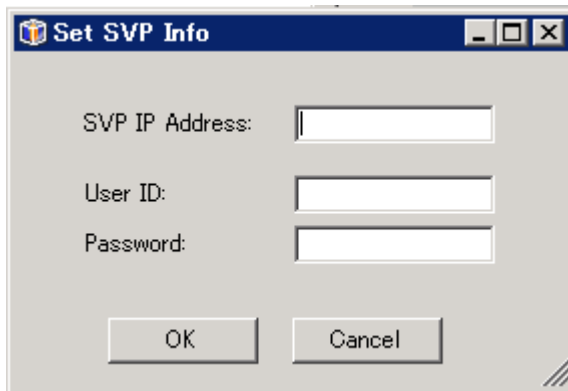


図 3-119 Set SVP Info ウィンドウの表示

Initial Setup を実施した場合は、SVP IP アドレスが設定されています。

(2) SVP IP Address、User ID、および Password を入力します。

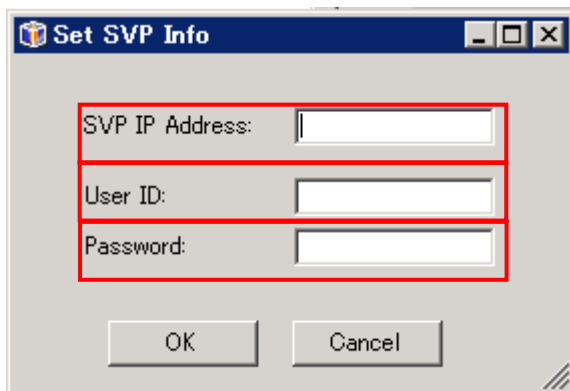


図 3-120 Set SVP Info ウィンドウ (SVP IP の設定)

(3) OK ボタンをクリックします。

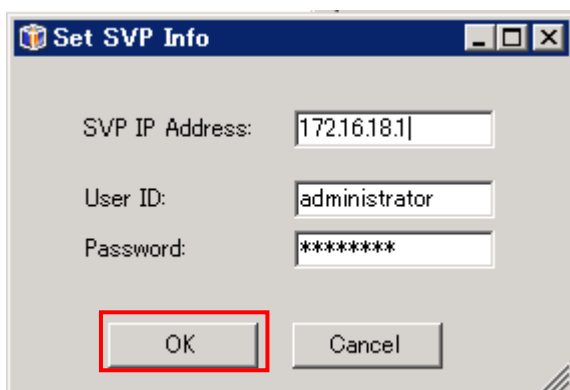


図 3-121 Set SVP Info ウィンドウ (OK ボタンのクリック)

System Console(Web)、System Console(Telnet)、および HVM Screen が呼び出し可能になります。

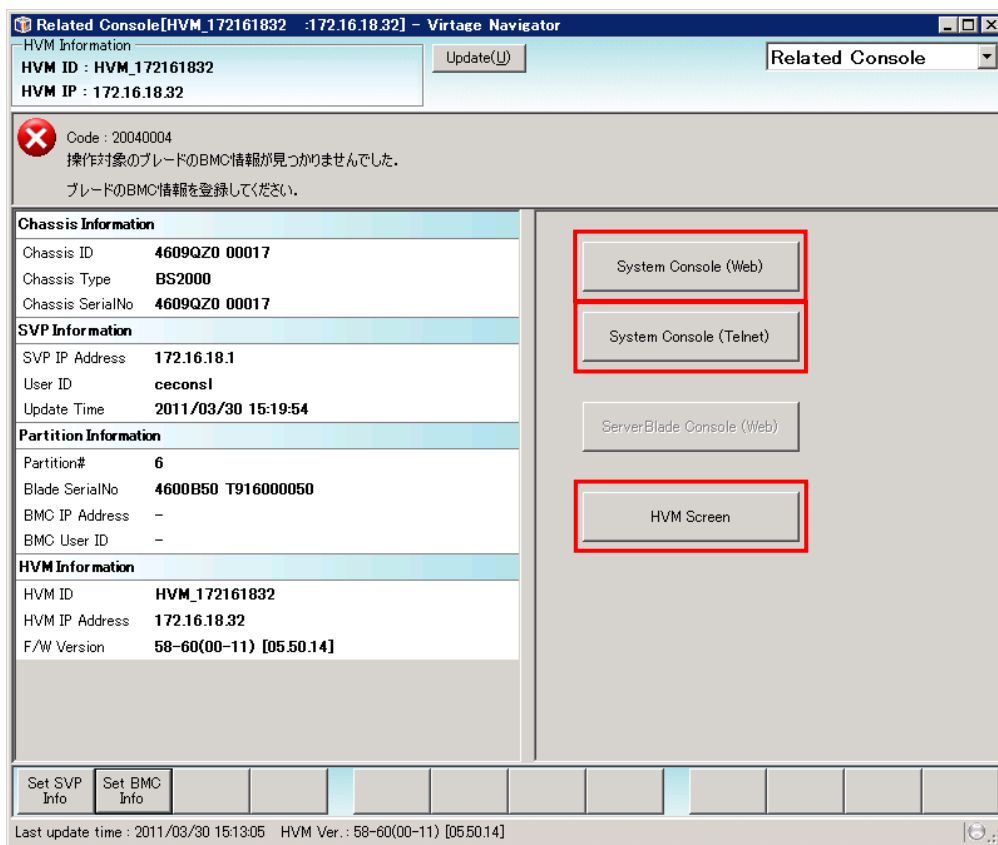


図 3-122 Related Console ウィンドウ(SVP IP の設定完了)

3.4.1.2 BMC IPの設定

(1) Set BMC Info ボタンをクリックします。

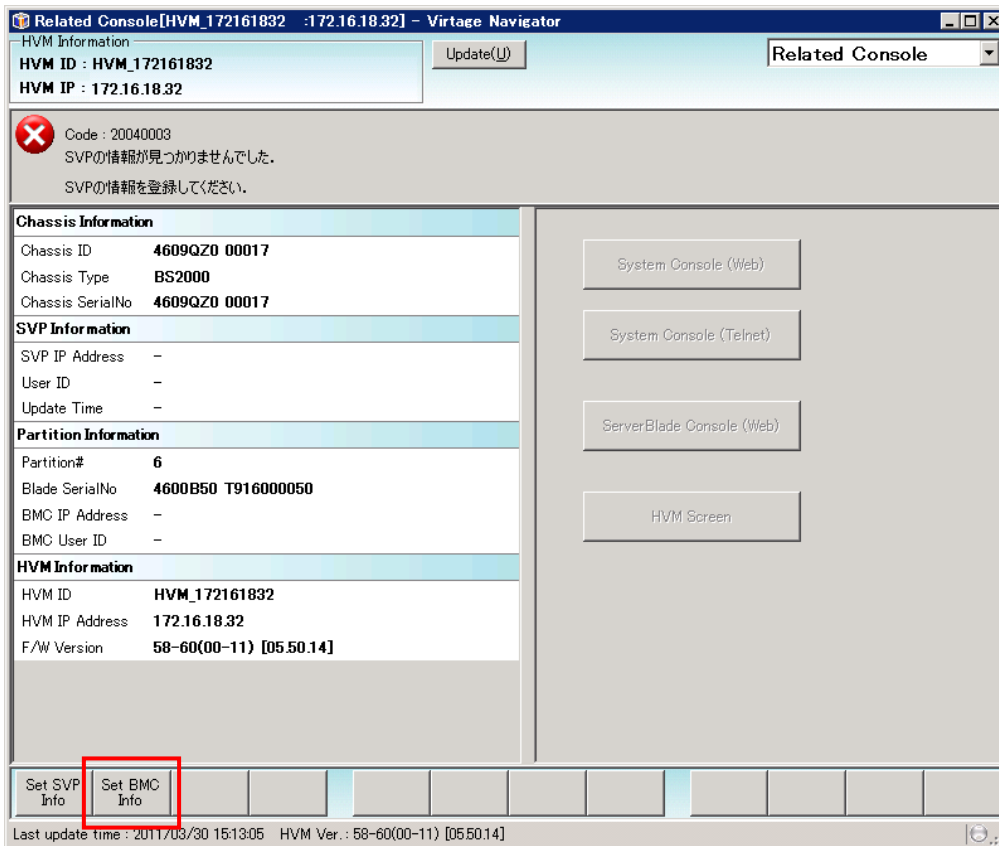


図 3-123 Related Console ウィンドウ(Set BMC Info ボタンのクリック)

Set BMC Info ウィンドウが表示されます。

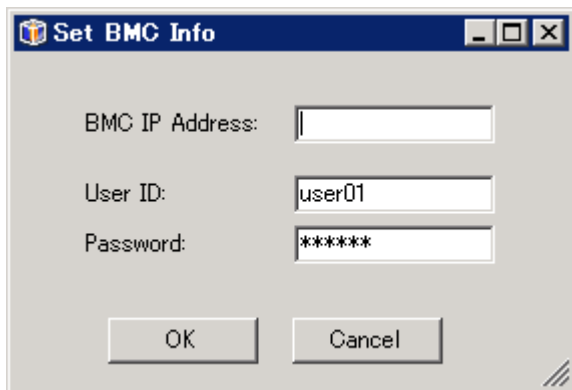


図 3-124 Set BMC Info ウィンドウの表示

Set BMC Info ウィンドウには、予め出荷時の設定のユーザ ID とパスワードが設定されています。

(2) BMC IP Address を入力します。

また、設定を変更している場合は、User ID、Password を入力します。

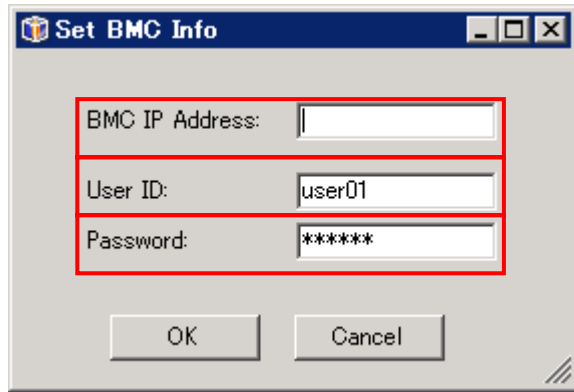


図 3-125 Set BMC Info ウィンドウ (BMC IP の設定)

(3) OK ボタンをクリックします。

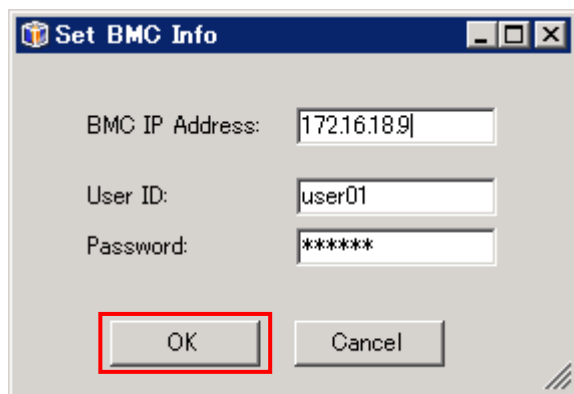


図 3-126 Set BMC Info ウィンドウ (OK ボタンのクリック)

ServerBlade Console(Web)が呼び出し可能になります。

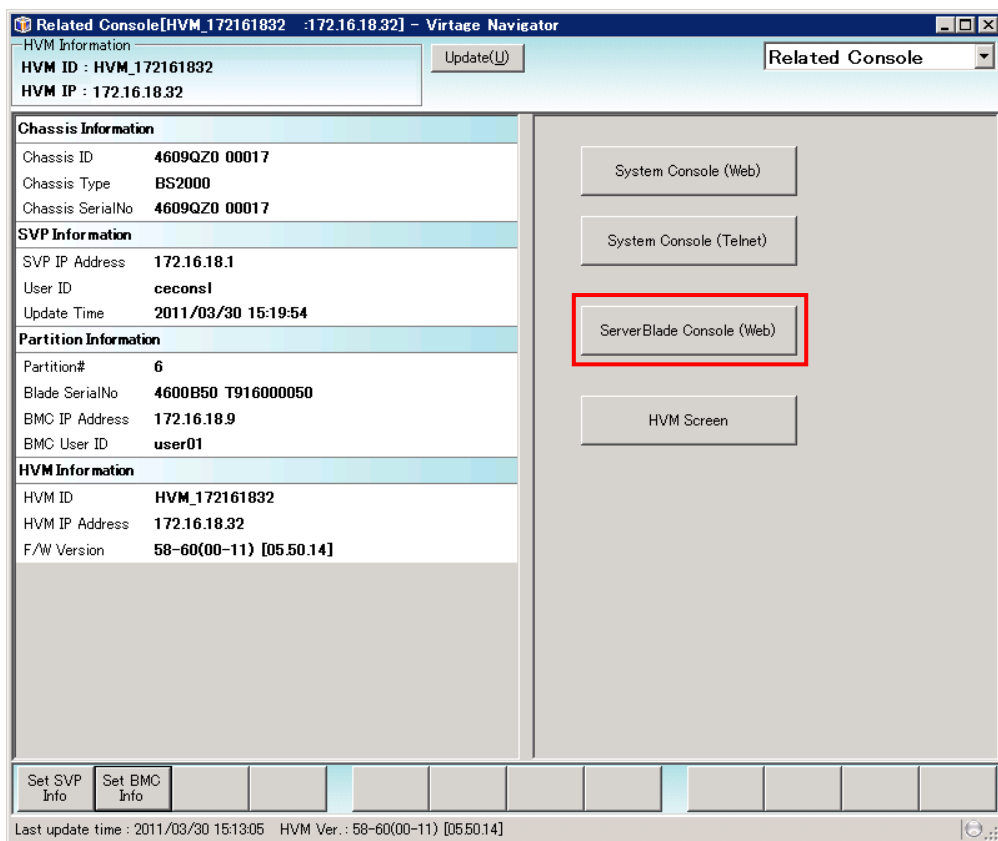


図 3-127 Related Console ウィンドウ(BMC IP の設定完了)

3. 4. 2 SVPシステムコンソール(Web)の起動

SVPのSystem Console (Web) の設定については、ご使用の機種に対応したユーザズガイドをご参照ください。

【BS320をご使用の場合】

「BladeSymphony BS320 設定ガイド マネジメントモジュール編」の「Webコンソールによるシステム装置の管理」－「Webコンソール機能」－「クライアントの設定」をご参照ください。

【BS2000をご使用の場合】

「BladeSymphony BS2000 ユーザーズガイド」の「マネジメントモジュールの初期設定」－「システムWebコンソールによる方法」－「クライアントの設定」をご参照ください。

(1) Related Console メニューで System Console (Web) を選択します。

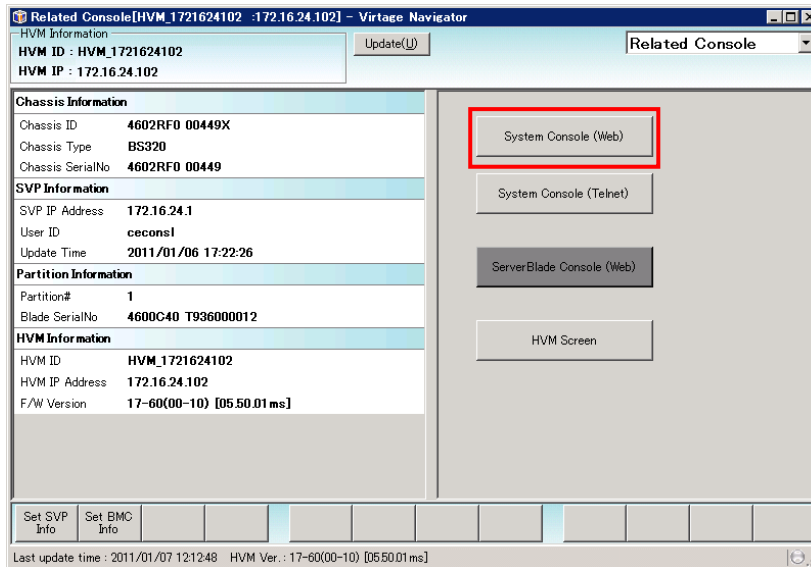


図 3-128 Related Console ウィンドウ(System Console(Web)の選択)

SVP の System Console (Web) が起動します。



図 3-129 (例)BS320 Web コンソール(System Console(Web)の起動)

3.4.3 SVPシステムコンソール(Telnet)の起動

(1) Related Console メニューで System Console(Telnet)を選択します。

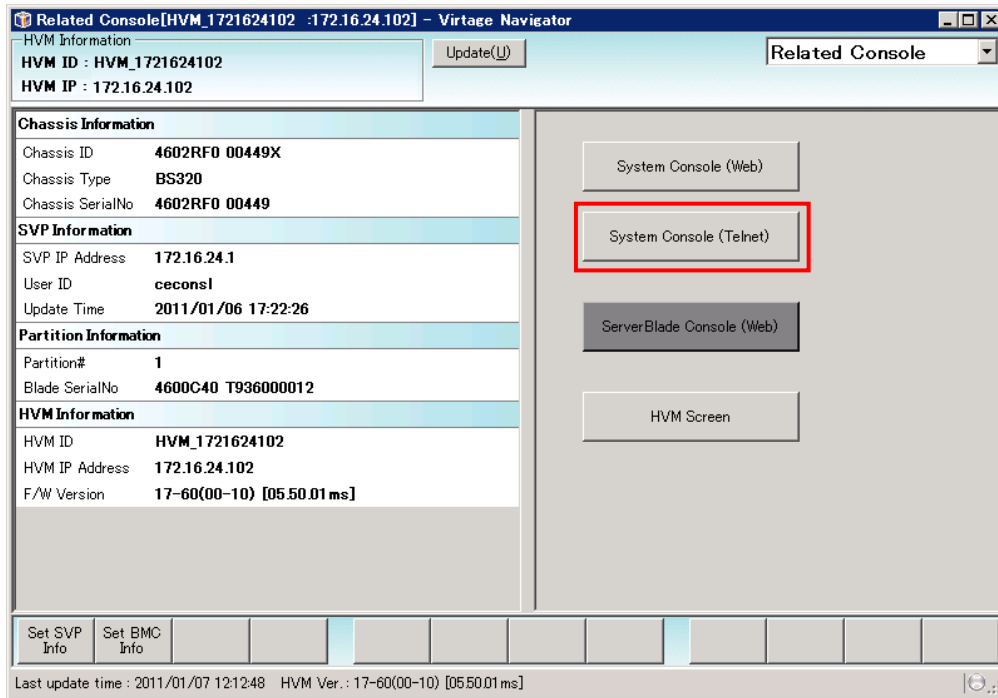


図 3-130 Related Console ウィンドウ (System Console(Telnet)の選択)

System Console(Telnet)が起動します。

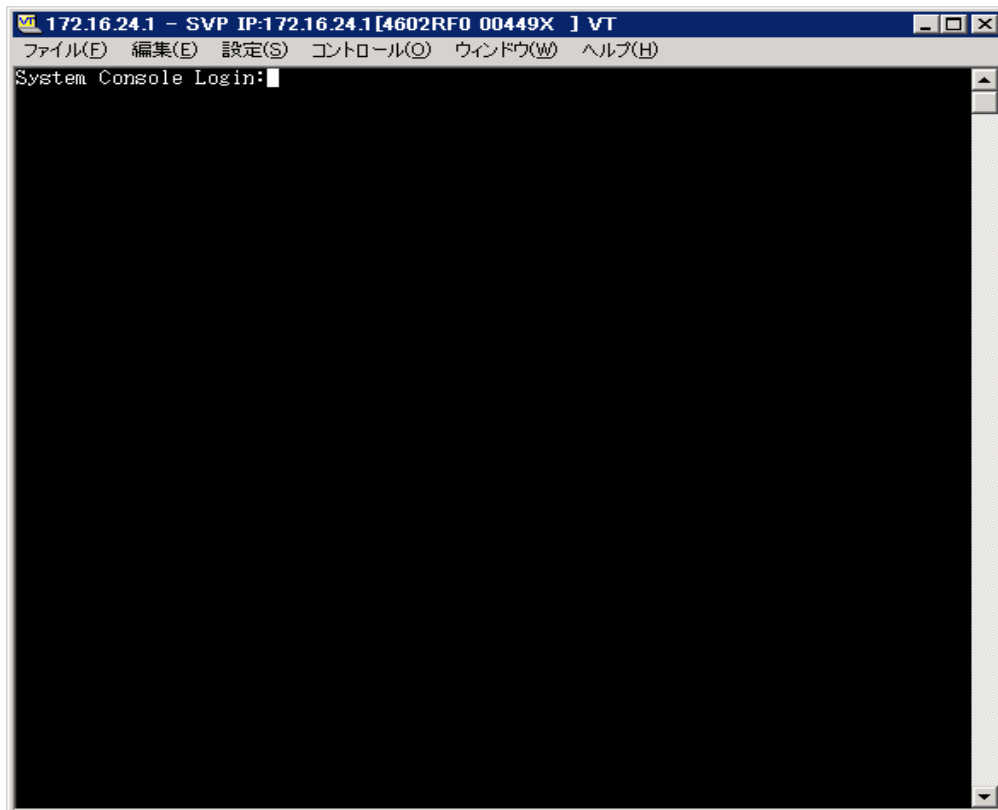


図 3-131 System Console ウィンドウ (System Console(Telnet)の起動)

3.4.4 サーバブレードWebコンソールの起動

(1) Related Console メニューで、ServerBlade Console (Web) を選択します。

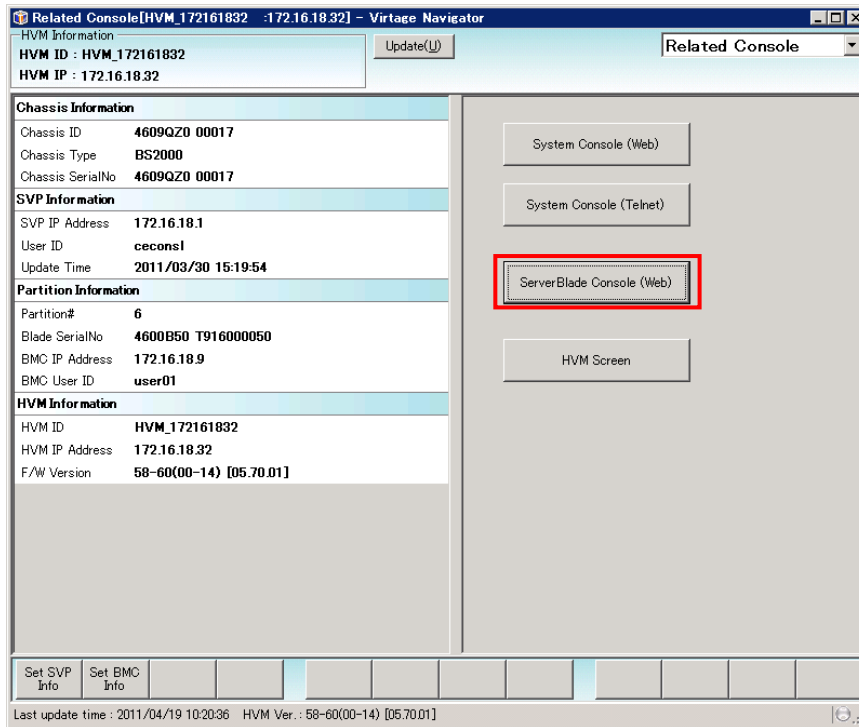


図 3-132 Related Console ウィンドウ (ServerBlade Console (Web) の選択)

サーバブレード Web コンソールが起動します。

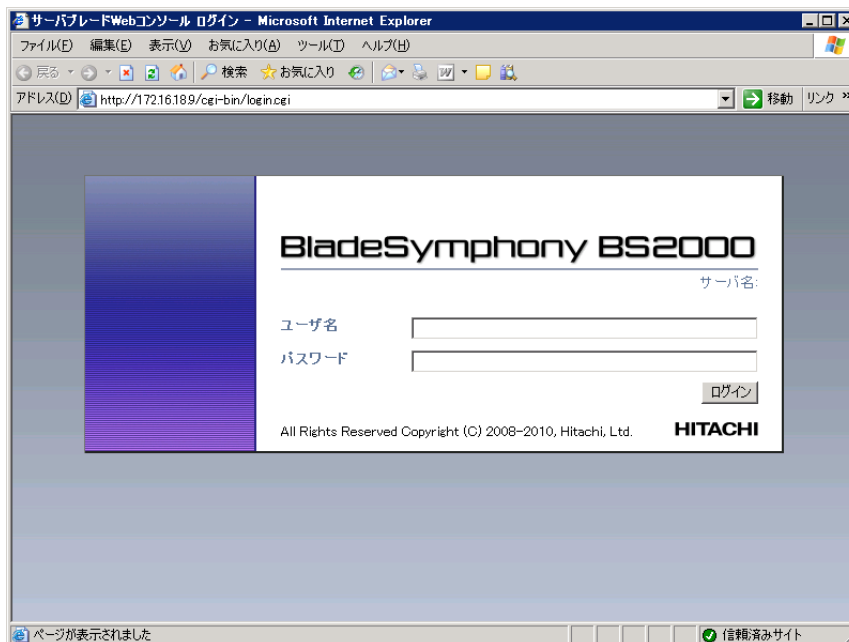


図 3-133 (例) BS2000 Web コンソール (サーバブレード Web コンソールの起動)

3.4.5 シリアル端末ベースのHVMスクリーンの起動

事前に以下のファイルを用意します。

ファイルが存在しない場合にはシステムコンソール(Telnet)と同じ動作になります。

【BS320 の場合】

ファイル名 : AutoLoginHVM_320.ttl

格納場所 : インストールフォルダ¥VirNavi¥UserData

ファイル内容 : 以下の内容を AutoLoginHVM_320.ttl に記載します。

```
getenv 'USER' USER
getenv 'PASS' PASS
getenv 'PNo' PNo

wait 'System Console Login:'
sendln USER

wait 'System Console Password:'
sendln PASS

wait 'MENU:'
sendln 'P' PNo
```

【BS2000 の場合】

ファイル名 : AutoLoginHVM_2000.ttl

格納場所 : インストールフォルダ¥VirNavi¥UserData

ファイル内容 : 以下の内容を AutoLoginHVM_2000.ttl に記載します。

```
getenv 'USER' USER
getenv 'PASS' PASS

wait 'login:'
sendln USER

wait 'password:'
sendln PASS
```

- (1) Related Console メニューで HVM スクリーンを選択します。

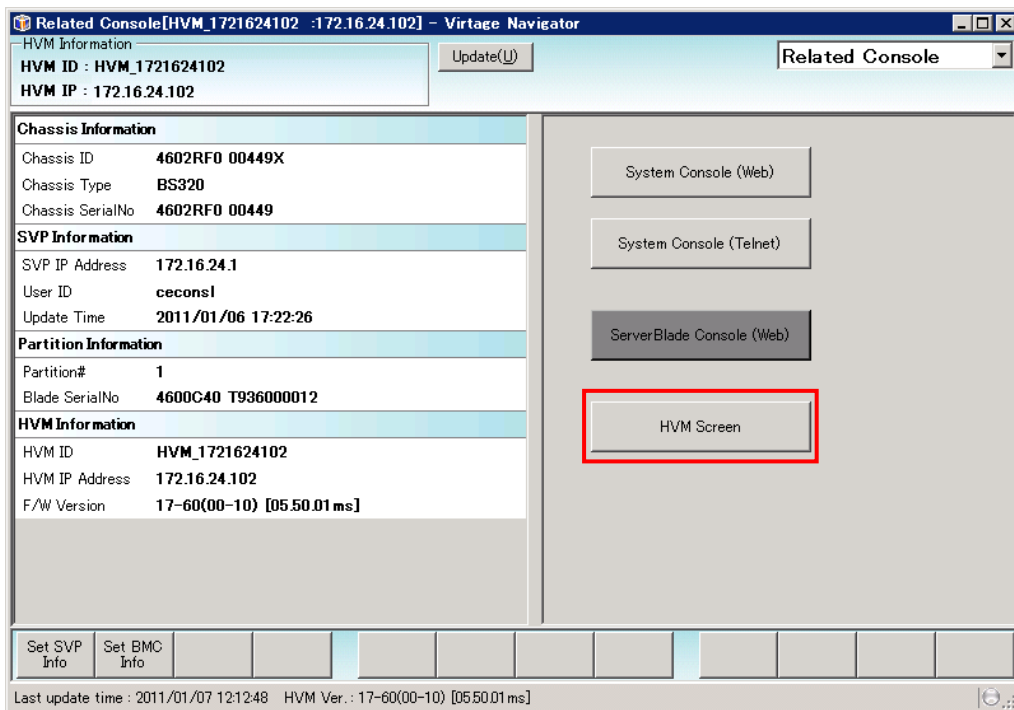


図 3-134 Related Console ウィンドウ (HVM Screen の選択)

- (2) 事前に用意したファイルが実行され HVM スクリーンが起動します。
起動後 Alt + T キーを押して HVM スクリーンの Refresh をかけます。

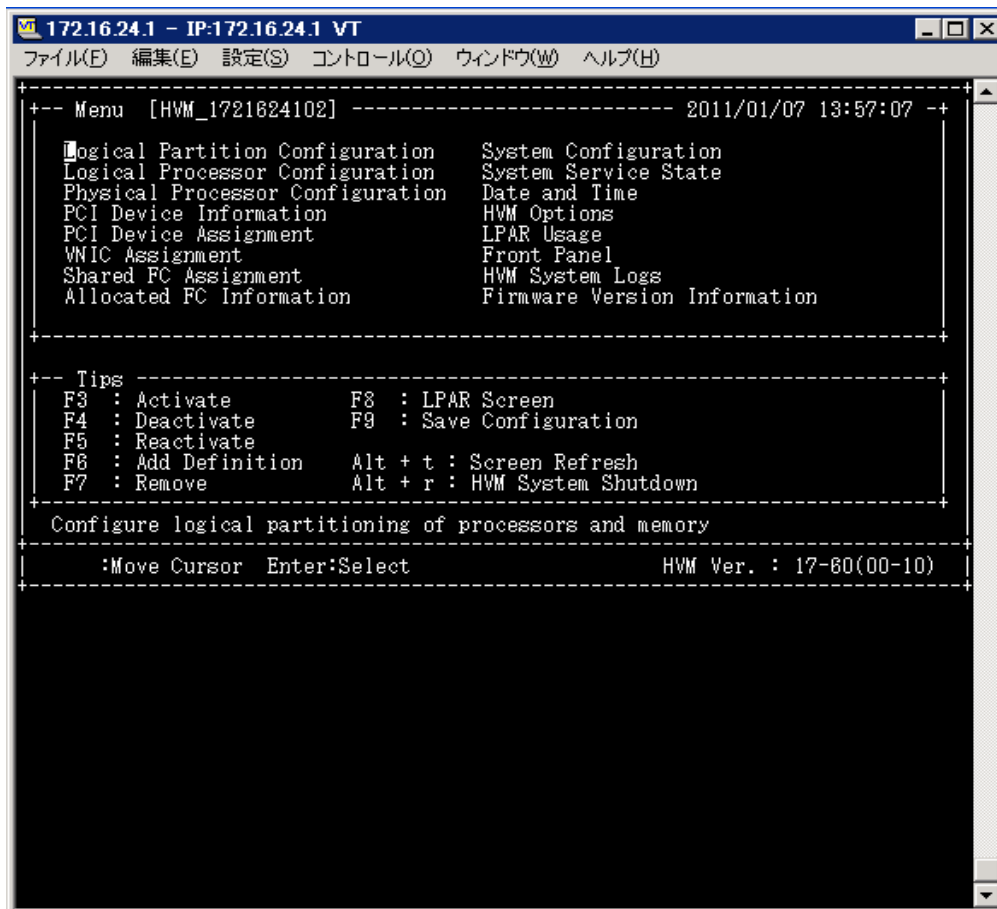


図 3-135 HVM スクリーンウィンドウ (HVM スクリーンの起動)

3.5 BIOSの設定

- (1) Remote KVM コンソールを起動します。

Remote KVM コンソールが起動されたところで、接続ボタンをクリックします。

この段階では、HVM が起動していないため、画面には何も表示されません。

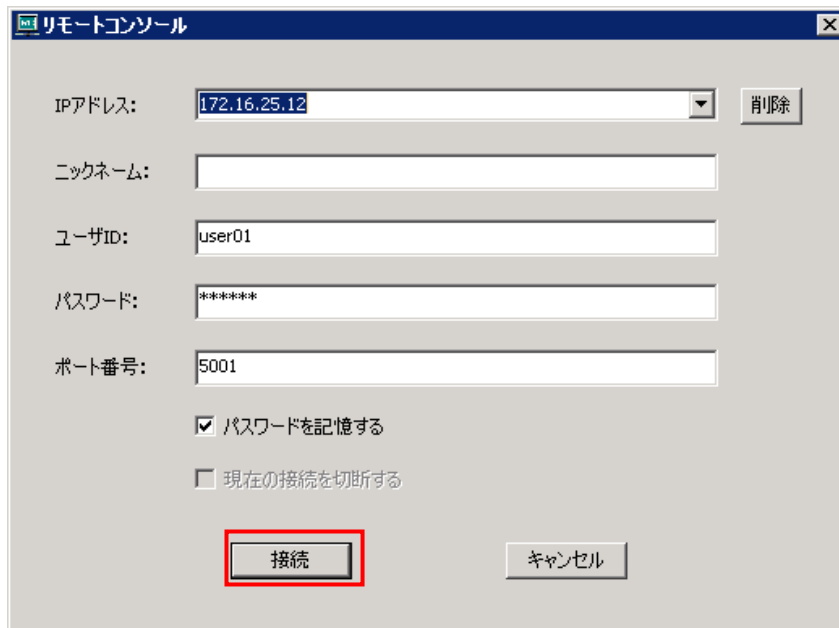


図 3-136 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Remote KVM コンソールのログイン画面)

- (2) Tera Term で SVP システムコンソールにログインします。

「S」を入力し、「Enter」キーを押します。

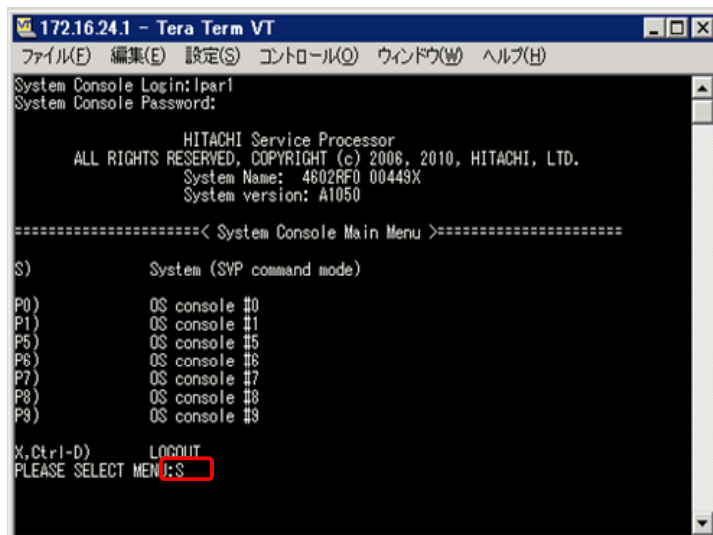


図 3-137 SVP へのログイン

- (3) 「PC」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (4) 「0」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (5) 「パーティション番号」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (6) 「0」を入力し、「Enter」キーを押します。
- (7) 「y」を入力します。

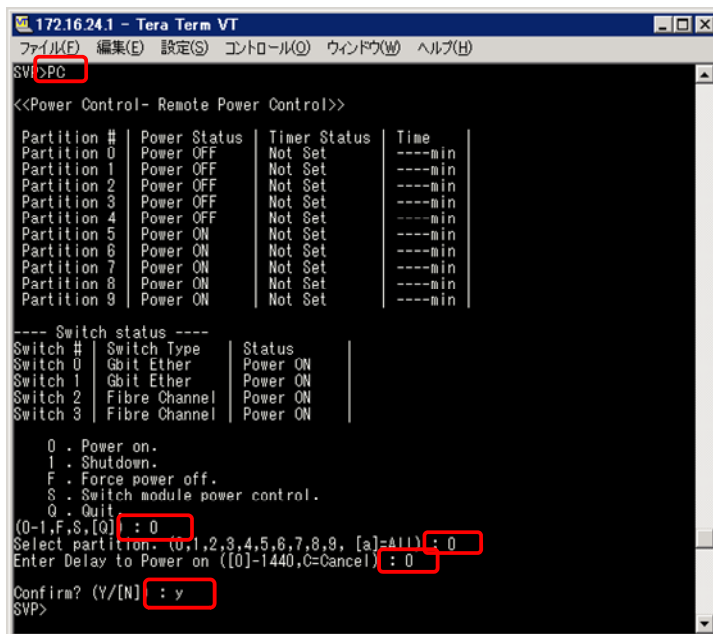


図 3-138 ブレード電源 ON

Remote KVM コンソールに戻り、BIOS の設定をします。

フルスクリーンでサーバブレードの BIOS のスクリーンが表示されます。

[Alt]+[q]を押下することで部分描写とフルスクリーンを交互に切り替えることができますが、操作はフルスクリーンに限られます。

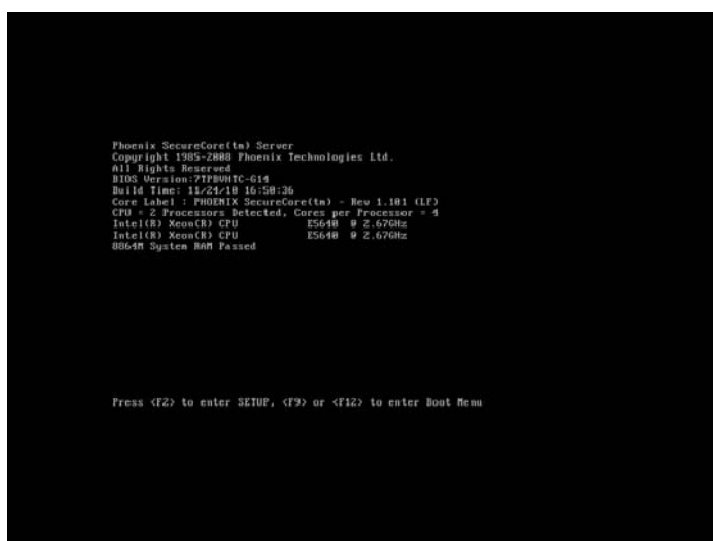


図 3-139 Remote KVM コンソール (BIOS の設定)

(8) ブレード起動中に、「F2」キーを押します。

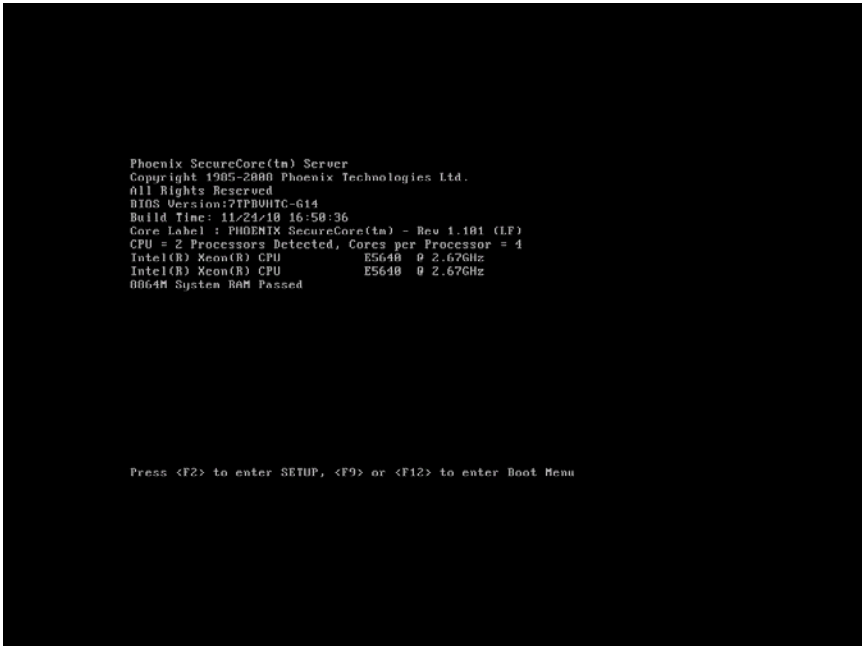


図 3-140 サーバブレードの起動画面

BIOS 設定画面が表示されます。

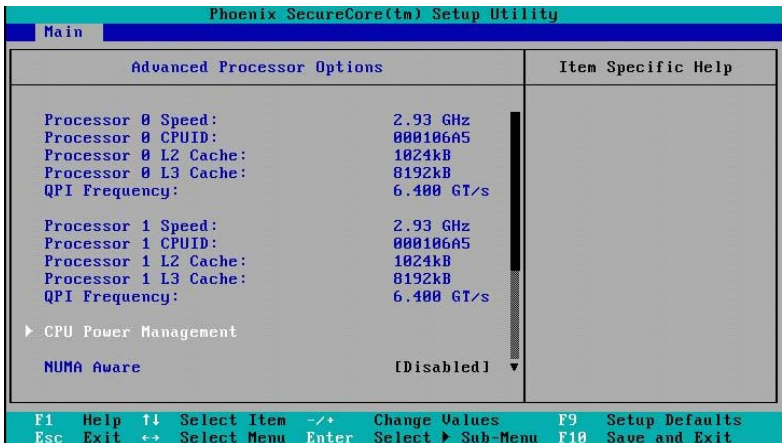


図 3-141 ブレード起動中 (BIOS 設定画面の表示)

- (9) [Main]-[Advanced Processor Options]に移動します。
- [NUMA Aware]が[Disabled]に設定されていることを確認します。
- [Intel@ HT Technology]が[Enabled]に設定されていることを確認します。
- [Intel (R) Virtualization Technology]が[Enabled]に設定されていることを確認します。

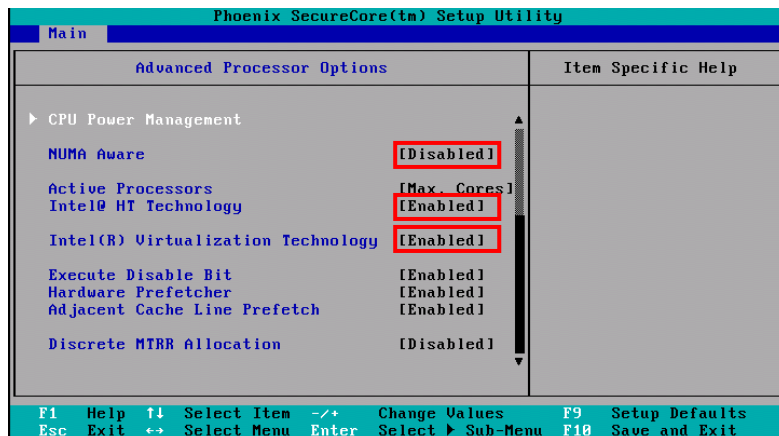


図 3-142 BIOS 設定画面([Advanced Processor Options]の確認)

- (10) [Advanced]-[PnP Configuration]に移動します。
- [LAN1-1 Option ROM Scan]が[Enabled]に設定されていることを確認します。
- [LAN1-2 Option ROM Scan]が[Enabled]に設定されていることを確認します。
- [Onboard LAN2 Control]が[Enabled]に設定されていることを確認します。

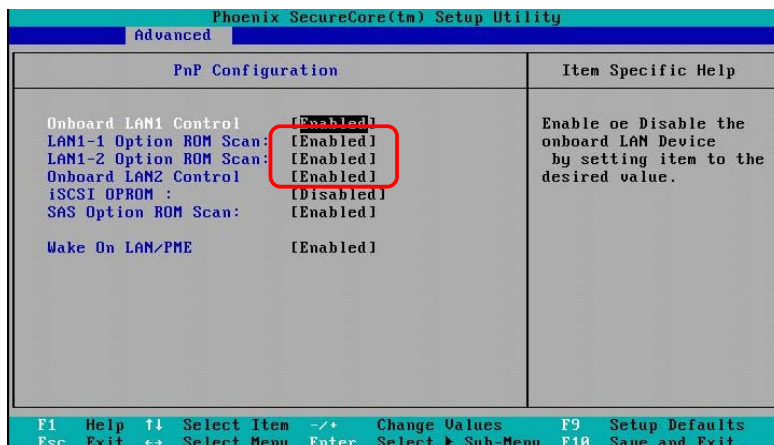


図 3-143 BIOS 設定画面([PnP Configuration]の確認)

(11) [Server]-[Console Redirection]に移動します。

[Com Port Address]が[On-board COM A]に設定されていることを確認します。

[Baud Rate]が[9600]に設定されていることを確認します。

[Console Type]が[VT100]に設定されていることを確認します。

[Flow Control]が[None]に設定されていることを確認します。

[Continue C.R. after POST]が[On]に設定されていることを確認します。

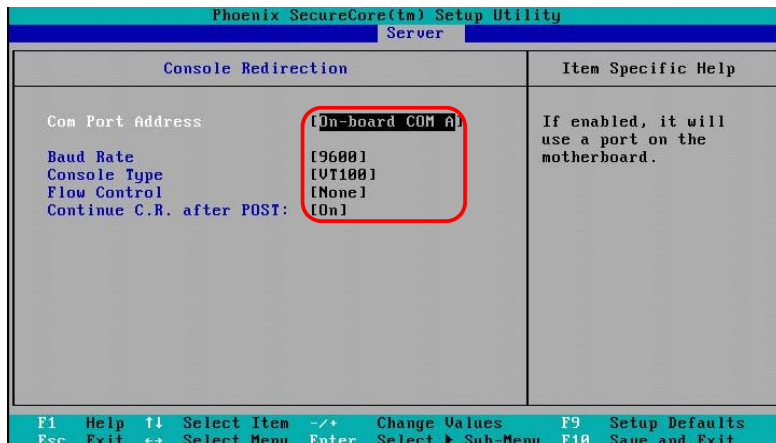


図 3-144 BIOS 設定画面([Console Redirection]の確認)

(12) [Boot]に移動します。

[Boot Priority order]に[USB HDD: Generic STORAGE DEVICE]が設定されていることを確認します。

[Boot Priority order]に[PCI BEV: IBA GE Slot xx00 vxxxx]が設定されていることを確認します。

[Boot Priority order]に[PCI BEV: IBA GE Slot xx01 vxxxx]が設定されていることを確認します。

※[x]キーにより、[Boot Priority order]に移動することができます。

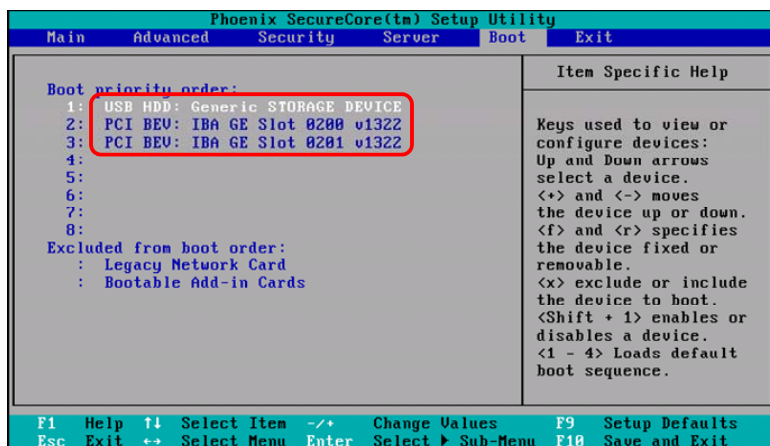


図 3-145 BIOS 設定画面([Boot]の確認)

(13) [Exit]に移動します。

[Saving Changes]を選択します。

[Yes]を選択します。

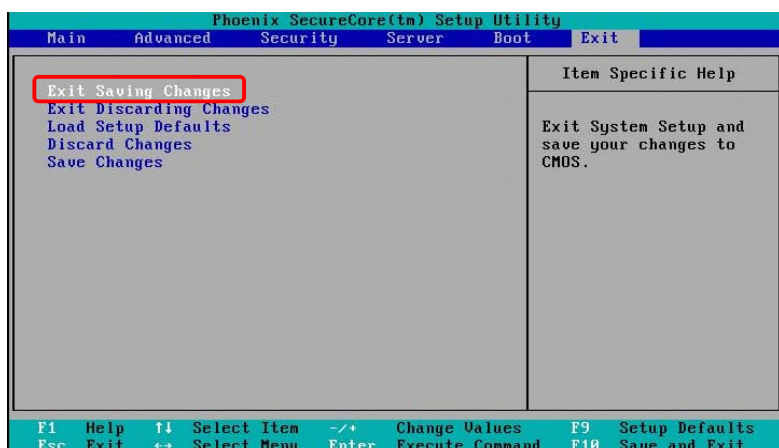


図 3-146 BIOS 設定画面([Saving Changes]の確認)

(14) ターミナルアプリケーションに戻り、ブレードの電源を OFF にします。

(注) SVP システムコンソールは、ユーザ操作が 10 分以上行われなかった場合、自動でログアウトします。自動ログアウトが行われた場合、再度 SVP システムコンソールにログインしてください。

(15) SVP コマンドモードで、「PC」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(16) 「F」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(17) 「パーティション番号」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(18) 「0」を入力し、「Enter」キーをクリックします。

(19) 「y」を入力します。

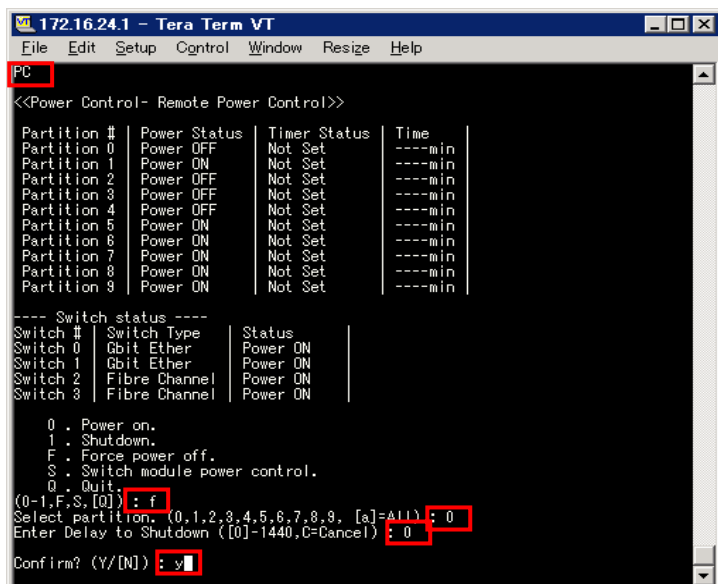


図 3-147 ブレード電源 OFF

4 オプション機能

4.1 HVMスクリーンの簡単移動

4.1.1 メニュー画面への移動

HVM コンソールの Menu ボタンをクリックすることで、メニュー画面へ移動することができます。

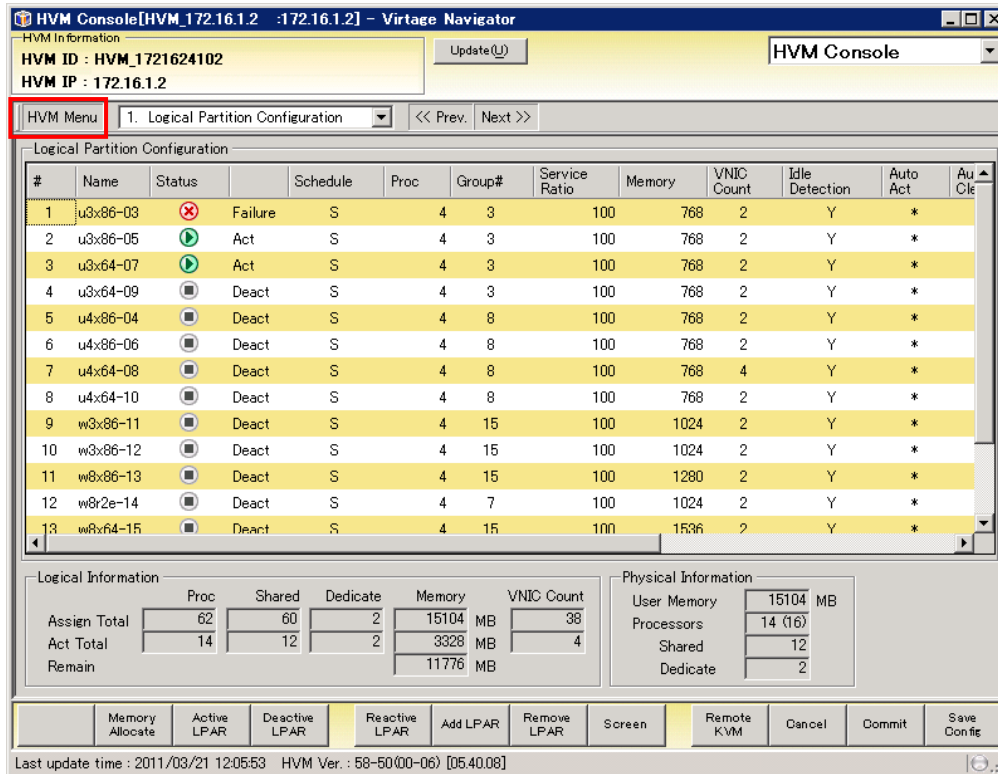


図 4-1 HVM Console ウィンドウ(メニュー画面への移動)

HVM スクリーンの Menu スクリーンが表示されます。

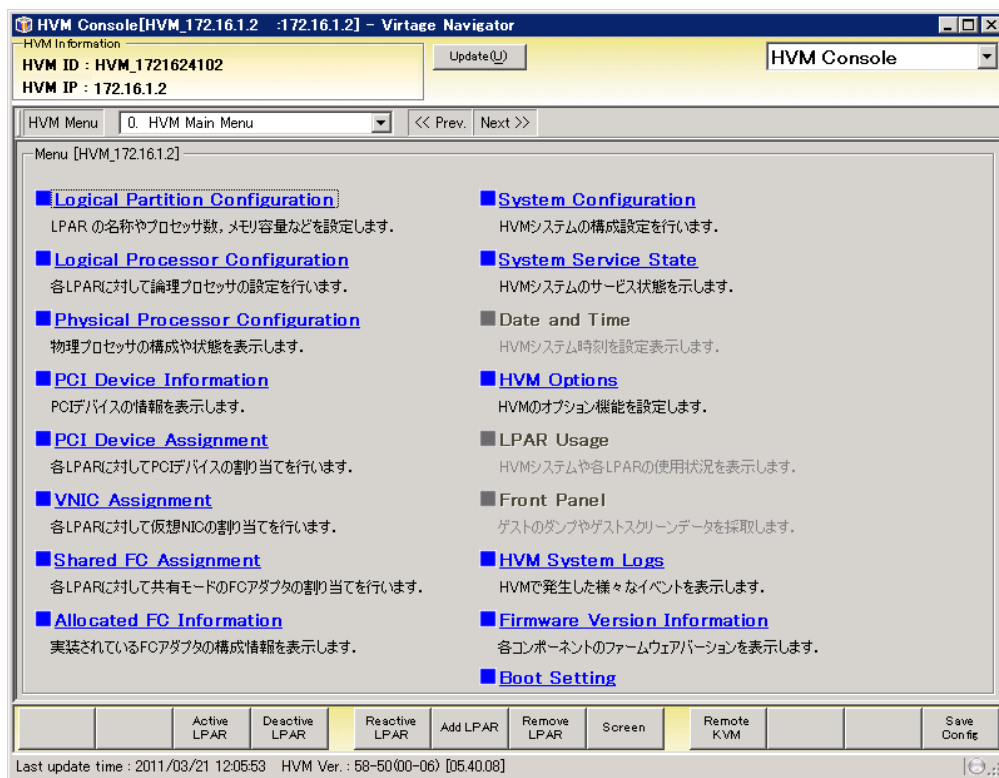


図 4-2 HVM Console ウィンドウ(メニースクリーン)

4.1.2 スクリーンの直接移動

HVM コンソールのコンボボックスに表示されるスクリーンを選択することで、スクリーンへの直接移動ができます。

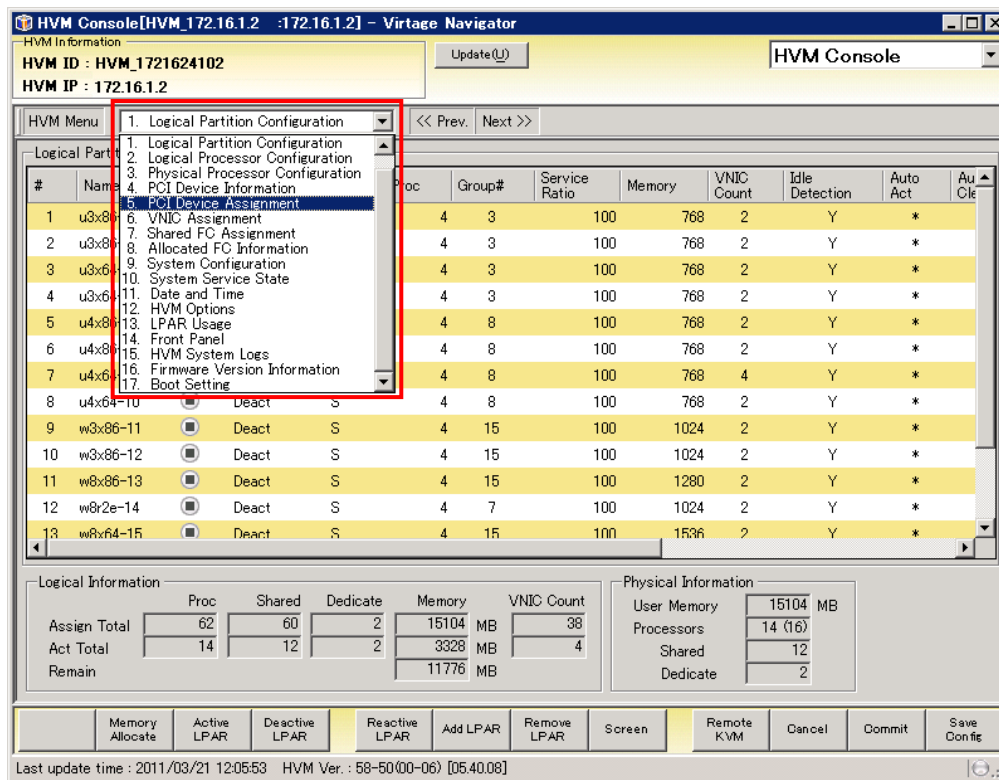


図 4-3 HVM Console ウィンドウ (移動するスクリーンの選択)

4.1.3 スクリーンの巡回移動

HVM コンソールの Next ボタンあるいは Prev. ボタンをクリックすることで、HVM スクリーンを巡回的に移動することができます。

巡回の順序は、Next ボタンの場合はコンボボックスに表示されるスクリーン番号が増す方向に移動し、Prev. ボタンの場合は減る方向に移動します。

例えば、スクリーン番号 1 Logical Partition Configuration スクリーンを表示している状態で Next ボタンをクリックします。

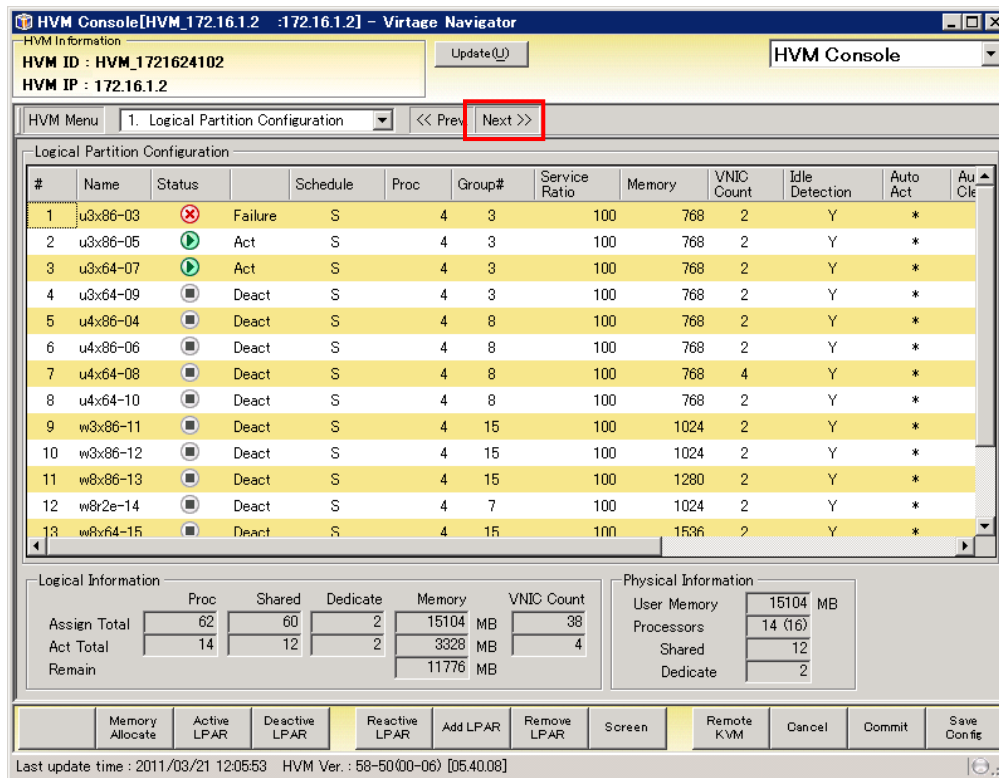


図 4-4 HVM Console ウィンドウ (Next ボタンクリック)

スクリーン番号 2 の Logical Processor Configuration が表示されます。

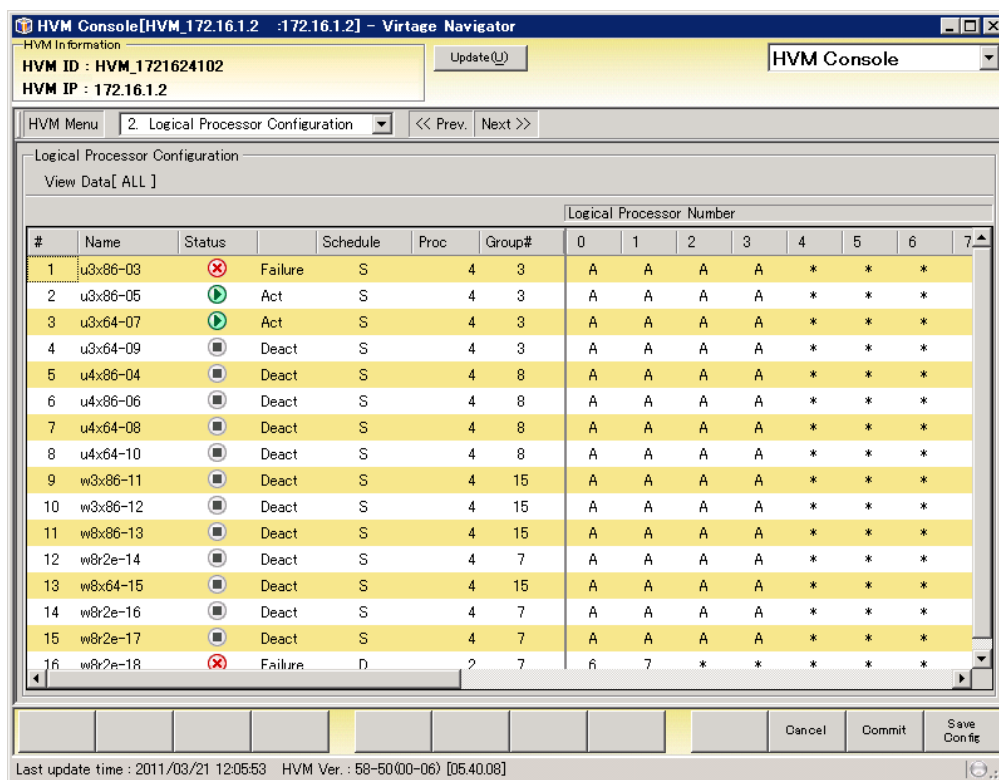


図 4-5 HVM Console ウィンドウ(Logical Processor Configuration の表示)

4. 2 SVP情報の登録と削除

Initial Setup の機能を使用することで、SVP 情報の登録と削除ができます。SVP 情報を登録しておくと、HVM の起動や SVP システムコンソールの呼び出しが簡単になります。

4. 2. 1 SVP情報の登録

(1) LPAR Configuration メニューの画面右の Initial Setup ボタンをクリックします。

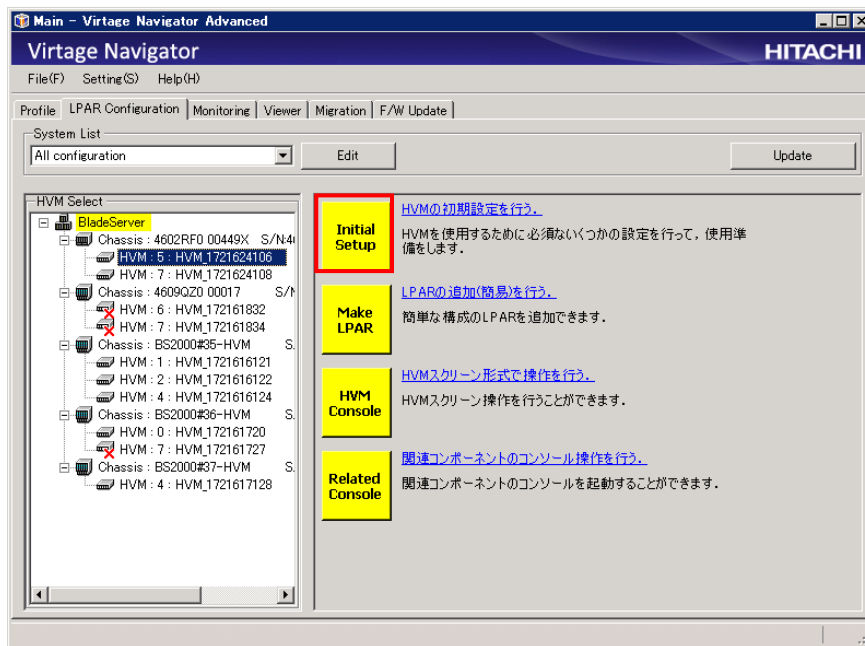


図 4-6 Main ウィンドウ (Initial Setup の開始)

Initial Setup of HVM ウィンドウが表示されます。

画面左には、Initial Setup の全体ステップ、画面中央の上部には、設定ステップ名称と設定ステップの概要が表示されます。

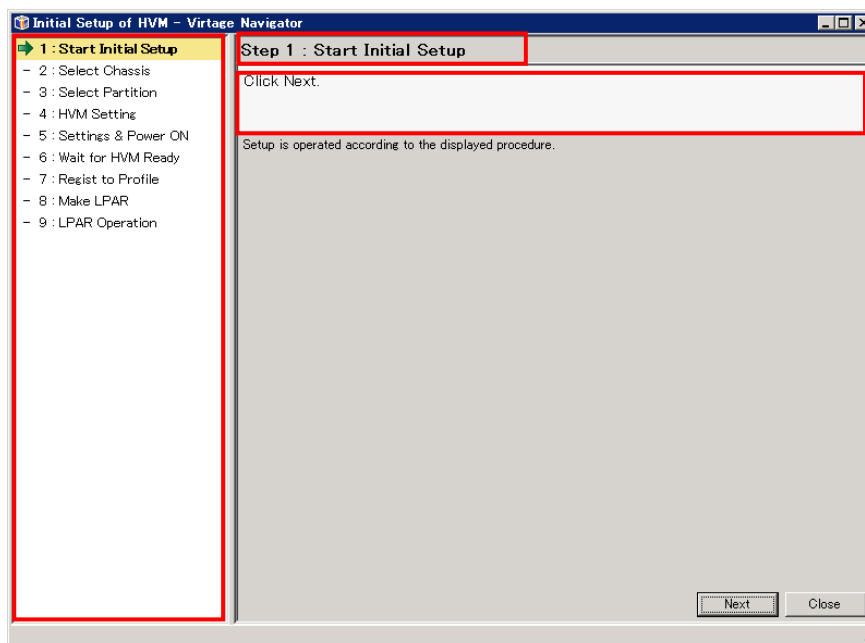


図 4-7 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 表示)

(2) Next ボタンをクリックします。

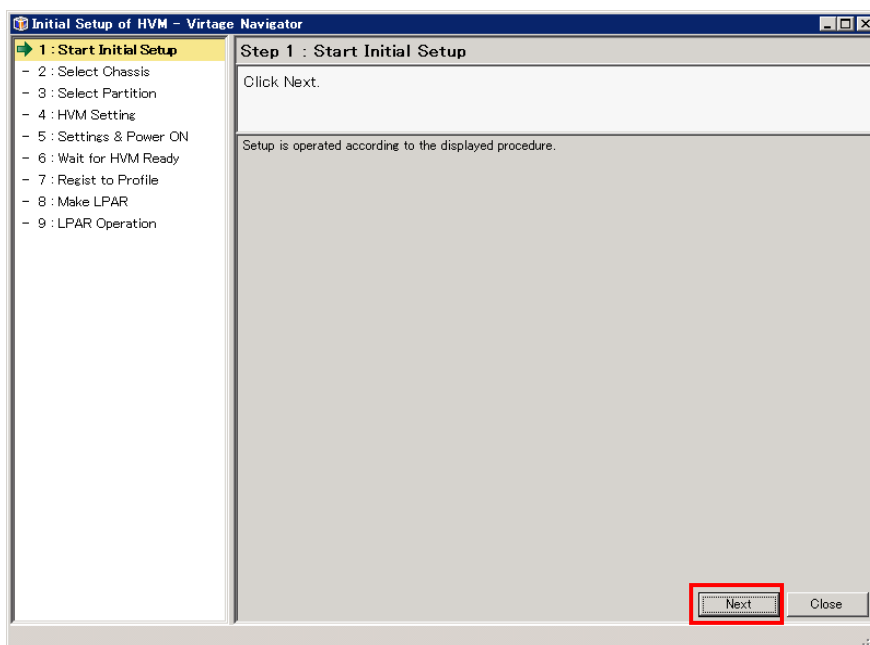


図 4-8 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Start Initial Setup 終了)

シャーン選択画面が表示されます。

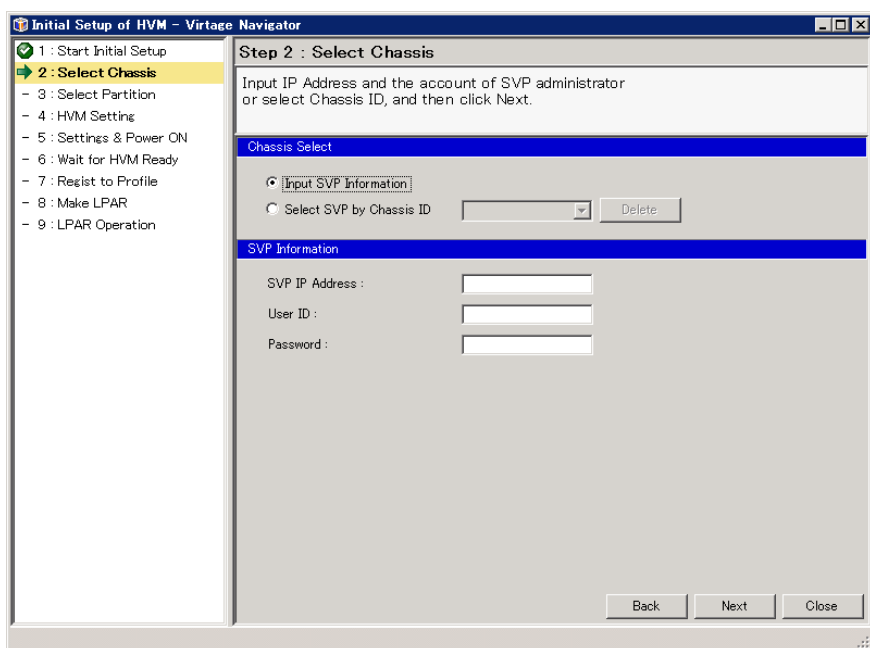


図 4-9 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 開始)

- (3) シャーシに対応付けられている SVP IP アドレスと SVP ログイン ID(ユーザ ID とパスワード)を入力し、Next ボタンをクリックします。

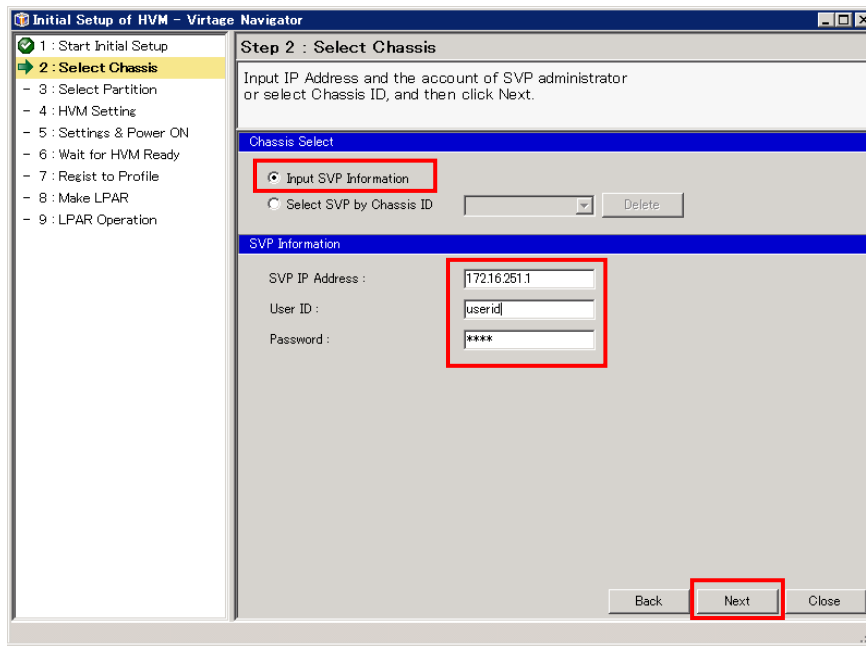


図 4-10 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 操作)

(4) シャーシ ID、SVP バージョンを確認できたら、Close ボタンをクリックします。

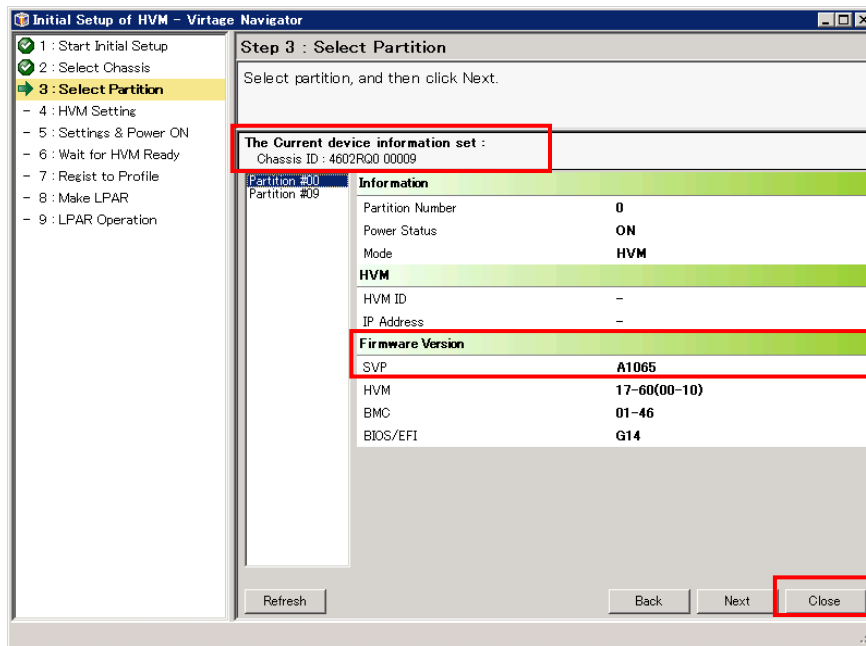


図 4-11 Initial Setup of HVM ウィンドウ (Select Chassis 完了)

(5) 確認メッセージが表示されます。OK ボタンをクリックします。

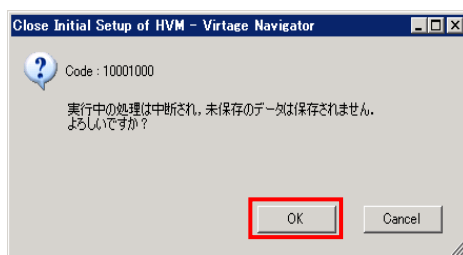


図 4-12 Close Initial Setup of HVM ウィンドウ (SVP 情報登録の終了)

4.2.2 SVP情報の削除

(1) Initial Setup を起動し、Next ボタンをクリックします。

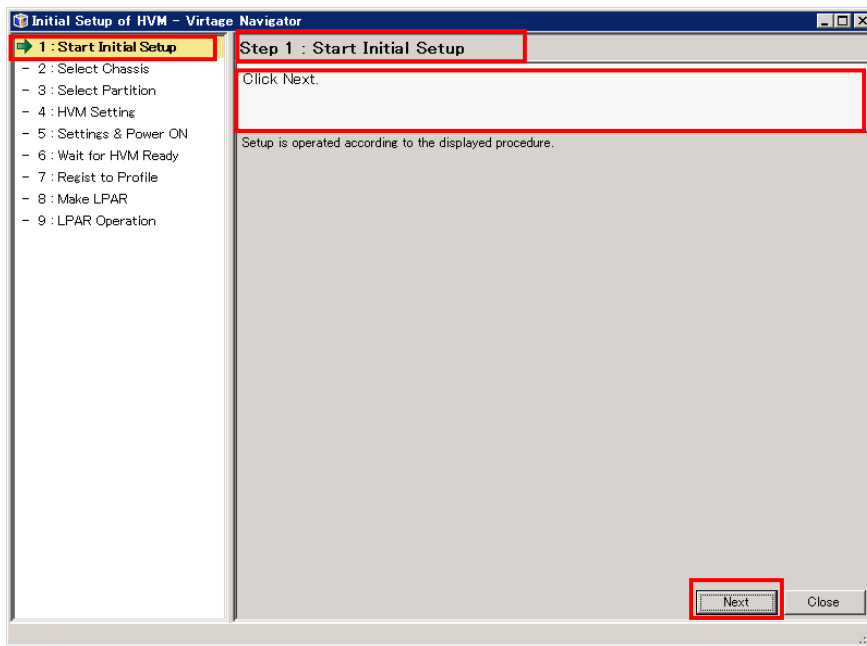


図 4-13 SVP 情報の削除 (Start Initial Setup 表示)

(2) 削除対象 SVP に対応付けられている Chassis ID を選択します。

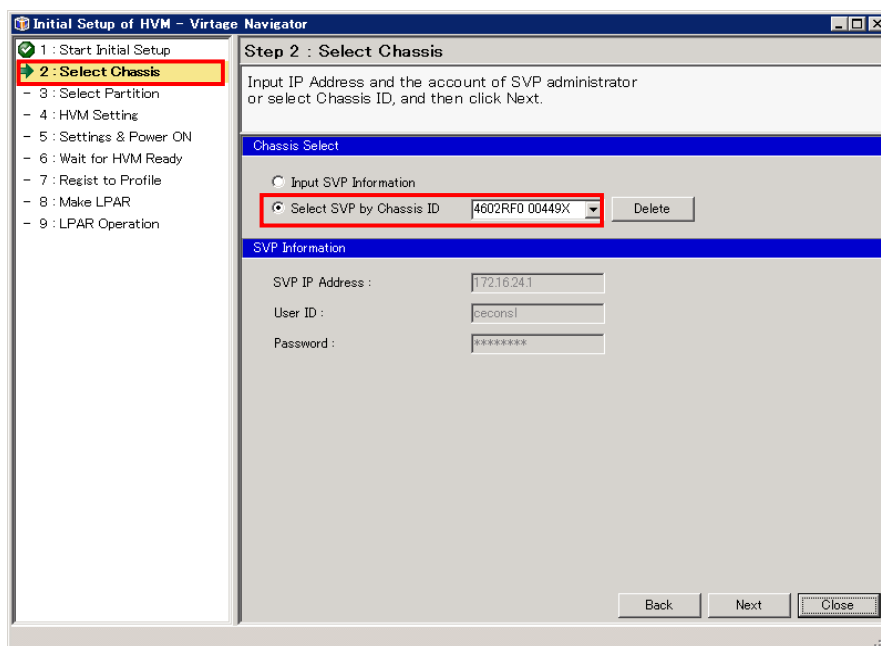


図 4-14 SVP 情報の削除 (登録済みシャーシの選択)

(3) Delete ボタンをクリックします。

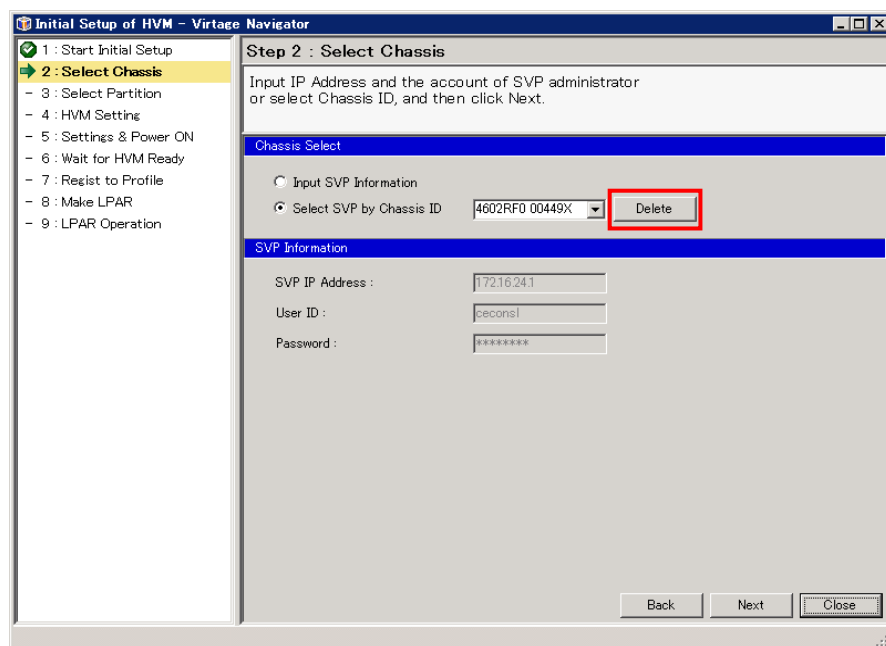


図 4-15 SVP 情報の削除 (Delete ボタンのクリック)

(4) OK ボタンをクリックします。

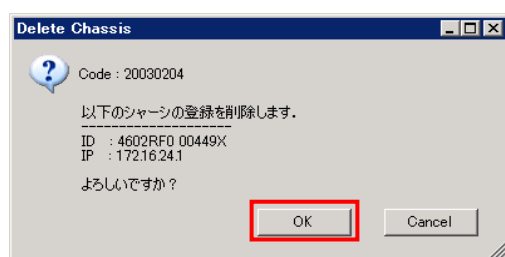


図 4-16 SVP 情報の削除 (OK ボタンのクリック)

指定したシャーシが表示されなくなります。

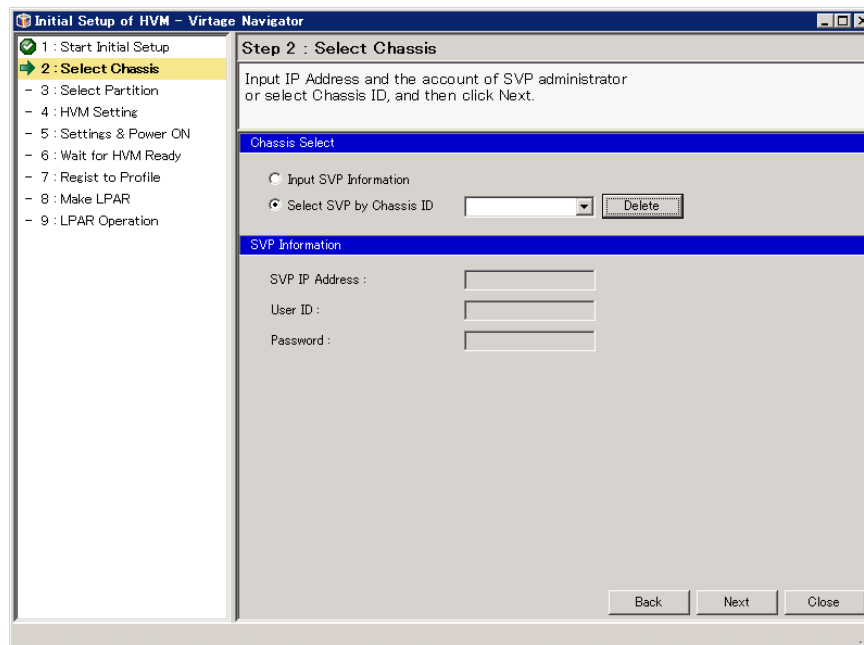


図 4-17 SVP 情報の削除 (SVP 情報削除の終了)

5 注意事項

5.1 Initial Setupの注意事項

5.1.1 HVM構成情報をクリアした場合

SVP DC コマンドなどで HVM 構成情報をクリアした後に Initial Setup を使用する場合、下記の手順にしたがって事前に HVM を起動してください。HVM の事前立上げをせずに Initial Setup を利用すると、Initial Setup の HVM 起動ステップでタイムアウトが発生します。

〈HVM 構成情報をクリア後の HVM の事前立上げ〉

- ① SVP システムコンソール(Web または Telnet)から HVM を起動する
- ② シリアル端末ベースの HVM スクリーン操作で HVM をシャットダウンする

5.1.2 HVM構成情報をリストアした場合

SVP UBR コマンドや JP1/SC で HVM 構成情報をリストアした後に Initial Setup を使用する場合、下記の手順にしたがって事前に HVM を起動してください。HVM の事前立上げをせずに Initial Setup を利用すると、Initial Setup の HVM 起動ステップでタイムアウトが発生します。

〈HVM 構成情報リストア後の HVM の事前立上げ〉

- ① SVP システムコンソール(Web または Telnet)から HVM を起動する
- ② シリアル端末ベースの HVM スクリーン操作で HVM をシャットダウンする

5.1.3 SVPバージョンがA1065 の場合は装置の電源Off/Onが必要になります

SVP のバージョンが A1065 のときに Initial setup を使用すると、非常に稀なケースで SVP に異常が発生する場合があります。Initial Setup は、下記に示す手順にしたがってご利用ください。なお、装置の電源 Off/On については、「BladeSymphony BS320 ユーザーズガイド」を参照ください。

SVP バージョンが A1070 以降の場合は、装置の電源 Off/On をする必要はありません。

〈SVP のバージョンが A1065 のときの Initial Setup 手順〉

- ① すべての対象サーバブレードを Initial setup で初期起動します。
- ② HVM Console を使って HVM をシャットダウンします。
サーバブレードの電源が自動的に Off になります。
- ③ すべてのサーバブレードの電源 Off を確認し、SVP をシャットダウンします。
装置の電源が自動的に Off になります。
- ④ ラックキャビネットのリアドアを開け、電源ケーブルを電源コンセントからはずします。
- ⑤ はずした電源ケーブルを電源コンセントに接続し、SVP が立ち上がるまで待ちます。
- ⑥ すべてのサーバブレードの電源スイッチを入れます。
- ⑦ 以降、Initial setup を利用しないでください。

5.1.4 Initial SetupでHVMが起動しなかった場合

Initial Setup で HVM が起動しなかった場合は、R-KVM を起動してください。

R-KVM に“Operating System not found”と表示された場合は、BIOS の Boot Priority Order から起動に必要な設定が外れているために HVM が起動できなかったと考えられます。

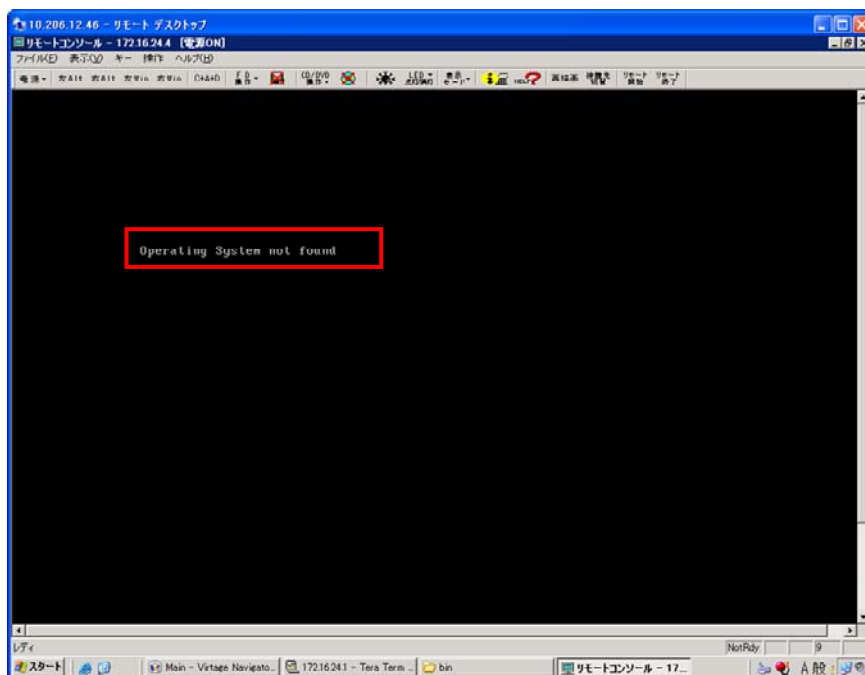


図 5-1 リモートコンソールウィンドウ (Operating System not found)

この現象は、パーティションの OS モードが HVM の場合に BIOS で以下の操作を行うことによって発生します。

- (1) Boot メニューで、“USB HDD: Generic STORAGE DEVICE”を“Excluded from boot order”に指定する
- (2) Exit メニューで、“Load Setup Defaults”を実施する

本現象が発生した場合は、対象パーティションを再起動し、BIOS の Boot Priority Order を設定した後、再度 Initial Setup を実行してください。

BIOSのBoot Priority Orderの設定につきましては、「3.5 BIOSの設定」をご参照下さい。

5.1.5 Code:20030506 が発生する場合

この現象は、対象の Partition で Pre-configure が未実行の場合に発生します。

本現象が発生した場合は、Pre-configure を実行後、再度 Initial Setup を実行してください。

Pre-configure の実行方法については、ご使用の機種に対応したユーザーズガイドをご参照ください。

5.2 HVMコンソールの注意事項

5.2.1 HVMスクリーンとHVMコンソールの差異

HVM コンソールはシリアル端末ベースの HVM スクリーンと同様の情報を表示しますが、以下に示す差異があります。

表 5-1 HVM スクリーンと HVM コンソールの差異

No.	フィールド	HVM スクリーン(シリアル端末)	HVM コンソール(Virtage Navigator)
1	Logical Partition Configuration		
1-1	LPAR の Activation LPAR の Deactivation LPAR の Reactivation	LPAR のステータスフィールドから操作できます。	LPAR のステータスフィールドは入力できません。 LPAR の Activation/ Deactivation/ Reactivation は、ボタン操作で行います。
1-2	GB 単位のメモリ指定	整数部のみ入力できます。	整数部の他に、0.00、0.25、0.50、0.75 の 4 つの小数部の入力ができます。
1-3	仮想 COM 割当て	“Y” を指定できます。	“Y” を指定できません。仮想 COM の番号を選択します。
1-4	Remain Mem	閉塞(※1)した LPAR に割り当てていたメモリサイズが含まれる。	閉塞(※1)した LPAR に割り当てていたメモリサイズが含まれない。
2	Physical Processor Configuration		
2-1	占有/共有のプロセッサ数	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは占有プロセッサにカウントされます。	プロセッサコアのスレッドを占有/共有で別々に割当てた(推奨しない割当て)場合、両方のスレッドは共有プロセッサにカウントされます。
3	VNIC Assignment		
3-1	VLAN ID Allocation	F2 ボタンで表示されます。	VNIC セグメントを選択することで表示されます。
4	HVM Options		
4-1	Confirmation	利用できます。	利用できません。
4-2	Screen Switching Character	利用できます。	利用できません。
4-3	Copy NVRAM	利用できます。	利用できません。
5	スクリーン共通		
5-1	HVM システムログの検出表示	“Error Event Detected” と表示されます	“HVM Alert” と表示されます。
5-2	HVM System Shutdown	どのスクリーンでも操作できます。	System Service State だけが操作できます。

※1 : LPAR がリソースを開放しないままに停止してしまった異常状態を“LPAR 閉塞”と呼びます。

LPAR が閉塞すると、HVM を再起動するまで、当該 LPAR に割当てた CPU やメモリが開放されません。

5.2.2 仮想COMコンソールが開かない場合

HVM Console ウィンドウの Screen ボタンから LPAR の仮想 COM コンソールが開かない場合、以下に示す条件に一致していないか確認してください。

表 5-2 LPAR 仮想 COM スクリーンが開かないときの対処方法

No.	条件	対処
1	LPAR の仮想 COM スクリーンが既に使用されている	既に使用している LPAR の仮想 COM スクリーンを閉じてください。

5.2.3 Code:30021335 が発生する場合

以下の場合に Boot Setting ウィンドウで Code:30021335 が発生し、Commit がエラーになる場合があります。

- ・ブートデバイスを 17 個以上設定し、Commit ボタンをクリックした場合



図 5-2 HVM Configuration ウィンドウ (Commit エラー)

上記エラーが発生した場合は、ブートデバイスを 16 個以下にして Commit ボタンをクリックしてください。

5.3 Related Consoleの注意事項

5.3.1 Code:20040003 が発生する場合

以下の場合に Related Console ウィンドウで Code:20040003 が発生し、関連コンソール起動が行えない場合があります。

- ・Virtage Navigator の Update を行った場合
- ・Profile タブから HVM の登録を行った場合

上記エラーはSVP情報がVirtage Navigatorに登録されていない場合に発生しますので、上記エラーを回避するには、3.4.1.1 SVP IPの設定、または4.2.1 SVP情報の登録に示す手順を参考に、SVP情報の登録を行ってください。

5.3.2 HVMスクリーンが開かない場合

Related Console ウィンドウの HVM Screen ボタンから HVM スクリーンを呼び出しても、HVM スクリーンが開かない場合、以下に示す条件に一致していないか確認してください。

表 5-3 HVM スクリーンが開かないときの対処方法

No.	条件	対処
1	当該HVMのHVMスクリーンが既に使用されている	既に使用している HVM スクリーンを閉じてください。

5.4 IPアドレスを変更する場合の注意事項

Virtage Navigator は、他のコンポーネントと IP アドレスベースで通信しています。そのため、IP アドレスを変更すると、Virtage Navigator が通信エラーやタイムアウトを検出する場合があります。IP アドレスを変更した際には、IP アドレスの再登録などを実施してください。

表 5-4 IP アドレス変更の可否と変更後の影響範囲

No.	IP アドレス	コンソール種		影響範囲
		HVM コンソール HVM スクリーン	SVP システムコンソール	
1	HVM	変更可能	変更不可	LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
2	BSM	変更可能	変更可能	Profile LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
3	HVM CLI	変更可能	変更不可	Profile LPAR Configuration Monitoring Viewer Migration F/W Update
4	SVP	変更不可	変更可能	LPAR Configuration

5.4.1 HVM IPアドレスを変更する場合

HVM IP アドレスは、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 開いている LPAR Configuration のウインドウを閉じてください。
このとき、LPAR Configuration の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (2) 開いている Migration のウインドウを閉じてください。
このとき、Migration の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (3) 開いている Viewer のウインドウを閉じてください。
このとき、Viewer の操作が行なわれていないことを確認してください。
- (4) 開いている Monitoring のウインドウを閉じてください。
実行しているモニタリングを停止する必要はありません。
- (5) HVM IP アドレスを変更してください。
- (6) 変更後の HVM IP アドレスを HVM Profile に追加してください。
- (7) 変更後の HVM IP アドレスを Monitoring 対象にすることができます。

5.4.2 BSM IPアドレスを変更する場合

変更対象の BSM IP アドレスが管理サーバで使用されている場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 変更前の BSM IP アドレスを使用している Virtage Navigator では、全てのウインドウを閉じてください。
- (2) JP1/SC や JP1/PFM、あるいは HvmSh コマンドを使用するアプリケーションがあれば、すべて終了させてください。
- (3) BSM IP アドレスを変更してください。
BSM IP アドレスは HVM と SVP でそれぞれ設定できるため、両方変更してください。
- (4) 変更後の BSM IP アドレスを使用できる管理サーバ上で、Virtage Navigator を起動してください。
- (5) 終了させたアプリケーションを起動してください。

変更対象の BSM IP アドレスが管理サーバで使用されていない場合は、注意事項はありません。

5.4.3 HVM CLI IPアドレスを変更する場合

変更対象の HVM CLI IP アドレスが管理サーバで使用されている場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 変更前の HVM CLI IP アドレスを使用している Virtage Navigator では、全てのウインドウを閉じてください。
- (2) JP1/PFM や HvmSh コマンドを使用するアプリケーションがあれば、すべて終了させてください。
- (3) HVM CLI IP アドレスを変更してください。
- (4) 変更後の HVM CLI IP アドレスを使用できる管理サーバ上で、Virtage Navigator を起動してください。
- (5) 終了させたアプリケーションを起動してください。

変更対象の HVM CLI IP アドレスが管理サーバで使用されていない場合は、注意事項はありません。

5.4.4 SVP IPアドレスを変更する場合

変更対象の SVP IP アドレスが Initial Setup や関連コンソール起動の SVP IP の設定で登録した SVP IP アドレスの場合は、以降に示す手順で変更してください。

- (1) 3.4.1.1 SVP IPの設定に示す手順を参考に、SVP IPアドレスを変更してください。

6 トラブルシュート

6.1 エラーコード一覧

「BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド 操作リファレンス編」のメッセージ一覧をご参照ください。





7 障害時のデータ採取

「BladeSymphony Virtage Navigator ユーザーズガイド 導入編」の障害時のデータ採取をご参照ください。

8 アイコン一覧

表 8-1 アイコン一覧

No.	アイコン	アイコン説明	ウインドウ
1		ステップが完了したことを表します	Initial Setup of HVM
2		ステップを操作中であることを表します	
3		ヘルプボタンを表します	
4		入力エラーを表します	
5		作成可能な LPAR を表します	Initial Setup of HVM /Make LPAR
6		作成する LPAR を表します	
7		作成不可能な LPAR を表します	
8		割り当て可能なプロセッサを表します	
9		割り当てるプロセッサを表します	
10		割り当て不可能なプロセッサを表します	
11		割り当て可能な NIC カードを表します	
12		割り当てる NIC カードを表します	
13		割り当て不可能な NIC カードを表します	
14		割り当て可能な HBA カードを表します	
15		割り当てる HBA カードを表します	
16		割り当て不可能な HBA カードを表します	
17		ユーザへの注意喚起を表します 【PCI Device Assignment の場合】 物理、または論理 PCI デバイスの電源が OFF であることを表します	HVM Console
18		Deactivate (P-off) 中の LPAR を表します	
19		Activate (P-on) 中の LPAR を表します	
20		障害が発生し、使用できない LPAR を表します	
21		System Log の Error レベルを表します	
22		System Log の Warning レベルを表します	

23		System Log の Info レベルを表します	
24		未変更状態を表します。	Initial Setup of HVM /Make LPAR /HVM Console /Related Console
25		未コミット状態を表します。	
26		構成情報未保存であることを表します。	

9 変更来歴

Virtage Navigator ユーザーズガイド LPAR 設定編の変更来歴を下記に示します。

表 9-1 Virtage Navigator ユーザーズガイド LPAR 設定編 変更来歴

Version	Revision	章	変更内容
V02-00	2.00	—	初版
V02-01	2.10	1	表 1-1 の注釈※1 の内容を修正しました。
		2.1	HVM 初期起動(Initial Setup)を使用する際の注意について追記しました。
		3.1	表 3-1 No. 4 の入力パラメータに CLI IP アドレスを追加しました。
		3.1.3	CLI IP Address の設定について記載しました。
		3.1.4	BIOS の自動設定条件について記載しました。
		3.1.6	表 3-2 No. 6 の HBA 数指定方法を修正しました。
		3.3.2	ブート設定の方法について記載しました。
		3.4.1	関連コンソールを使用するための設定について記載しました。
		3.4.2	SVP システムコンソール(Web)の起動について変更・追記しました。
		5.1.3	HVM 初期起動(Initial Setup)を使用する際の注意について追記しました。
		5.1.4	Initial Setup で HVM が起動しなかった場合について追記しました。
		5.1.5	Code:20030506 が発生する場合について記載しました。
		5.2.1	表 5-1 から System Service State の差異を削除しました。
		5.2.3	Code:30021335 が発生する場合について記載しました。
		5.4	表 5-4 にF/W Updateを追加しました。
		5.4.3	HVM CLI IP アドレスを変更する場合について記載しました。